

平成 28 年度
事 業 報 告 書

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報.....	1
1	法人の概要	1
(1)	事業内容	1
(2)	所在地	1
(3)	教員及び職員の数	1
(4)	沿革	1
(5)	設立に係る根拠法	1
(6)	主管省庁名	1
(7)	組織図	2
2	役員の状況	3
(1)	役員・監事	3
(2)	理事	5
(3)	評議員	13
II.	業務実績報告	15

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

(2) 所在地

メインキャンパス 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919-1

シーサイドハウス 沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542

(3) 教員及び職員の数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

教員： 58 人

職員（除、派遣職員）： 645 人

(4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

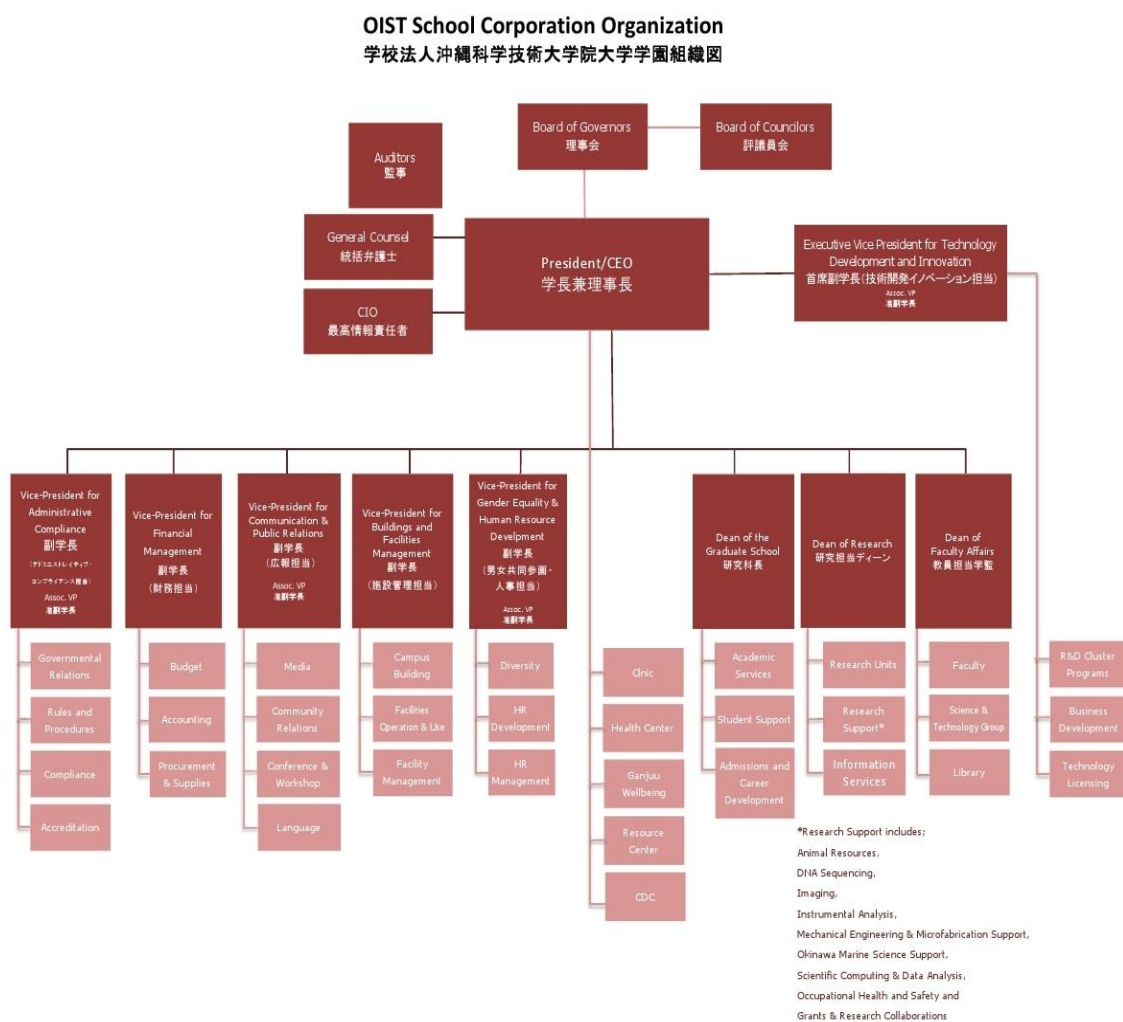
(5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

(6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (平成 29 年 3 月 31 日現在)



2 役員の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

定数：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第 5 条第 1 項、第 7 条、第 19 条第 2 項の定めるところによる。

任期：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第 9 条第 1 項及び第 24 条第 1 項の定めるところによる。

（1）役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴
理事長・ 学長	ピーター・ グルース	2017 年 1 月 1 日 ～ 2030 年 12 月 31 日 (1 期目)	1977 年 博士号取得：ハイデルベルク大学 1980 年 アメリカ国立衛生研究所（NIH）専門コンサルタント 1982 年 ハイデルベルク大学、微生物学准教授 1983 年 ハイデルベルク大学分子生物学センター（ZMBH）理事 1986 年 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）、（分子細胞生物学部）部長 1990 年 ゲッティンゲン大学名誉教授 1997 年 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）所長 2002 年 マックス・プランク学術振興協会会長 2017 年 1 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
副理事 長・首席 副学長 （技術開 発イノベ ーション 担当）	ロバート・ バックマン	2015 年 4 月 1 日 ～ 2017 年 9 月 30 日 (再任)	1975 年 ハーバード大学（米国）博士号（化学） 1979 年 ハーバード大学医学部アシスタント・プロフェッサー（神経生物学） 1985 年 同 アソシエイト・プロフェッサー（神経生物学） 1990 年 ハーバード大学医学部神経科学専攻（博士課程）専攻長（ディレクター） 1995 年 NINDS 基礎神経科学・発達障害部門ディレクター 1999 年 NINDS アソシエイト・ディレクター（技術開発担当） 2005 年 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 研究及び研修に関する特別学長顧問

			2007 年 2011 年 2014 年 2015 年 2016 年 8 月	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園プロボースト及び副理事長 同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当） 同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当）及びプロボースト（臨時）及び副理事長 同 首席副学長（技術開発イノベーション担当）及び副理事長
監事	松林 博己	2016 年 6 月 18 日 ～ 2017 年 10 月 31 日	1986 年 1997 年 2002 年 2004 年 2006 年 2007 年 2008 年 2009 年 2014 年 2015 年 2016 年 6 月	総務庁入庁 在オランダ日本国大使館一等書記官 総務省郵政行政局信書便準備室長 総務省広報室長 総務省自治行政局行政体制整備室長 経済産業省大臣官房参事官（通商・模倣品対策担当） 内閣官房行政改革本部事務局総括参事官 総務省行政評価局政策評価官 内閣府総括参事官（沖縄政策担当） 日本下水道事業団監査室長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
監事	當眞 嗣吉	2014 年 6 月 9 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 （重任・2 期目）	1971 年 1999 年 2001 年 2003 年 2005 年 2006 年 2007 年 2011 年 2013 年 2014 年 6 月	琉球電力公社入社 沖縄電力(株)取締役火力部長 沖縄電力(株)代表取締役副社長 沖縄電力(株)代表取締役社長 (財)沖縄マリンレジャーセイフティービューロー代表理事 沖縄セルラー電話(株)監査役 沖縄電力(株)代表取締役会長 沖縄経済同友会代表幹事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 沖縄経済同友会特別幹事 沖縄電力(株)取締役相談役 九州経済連合会顧問 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事

(2) 理事

氏名	任期	主要経歴	
トーステン・ ヴィーゼル	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 *	1954 年 1968 年 1973 年 1981 年 1991 年 1999 年 2000 年 2003 年 2005 年 2009 年 2011 年 2013 年	カロリンスカ研究所（スウェーデン）医学士 ハーバード大学医学部（米国）神経生物学部教授 同 神経生物学部長 ノーベル生理学 米国神経科学学会会長 ロックフェラー大学（米国）学長 ロックフェラー大学名誉学長 ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラ ム事務局長 イスラエル・パレスチナ・サイエンス機構（IPSO） 国際科学会議議長 アメリカ国家科学賞 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委 員共同議長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員共同議長 旭日大綬章受章 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会議長 スウェーデン脳科学財団諮問委員 カロリンスカ研究所神経科学プログラム国際諮問 委員会議長 中国科学院ナショナルサイエンスレビュー諮問委 員
有馬 朗人	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 *	1958 年 1971 年 1975 年 1989 年 1993 年 1998 年 1999 年 2000 年	東京大学大学院博士号（理学） ニューヨーク州立大学ストニーブルク校（米国）教 授 東京大学理学部教授 東京大学総長 理化学研究所理事長 参議院議員 文部大臣 科学技術庁長官兼務 財団法人日本科学技術振興財団会長

		2005 年	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員
		2006 年	学校法人根津育英会武蔵学園学園長
		2009 年	ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム評議員会会長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員
		2010 年	公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
		2011 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会副議長
		11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
安仁屋 洋子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日	1980 年	鹿児島大学博士号（医学部）
		1981 年	日本薬理学会評議員
		1983 年	ロチェスター大学メディカルセンター ポストドクトラルフェロー
		1986 年	琉球大学医学部准教授
		1990 年	琉球大学医学部保健学科教授
		1994 年	日本薬物動態学会評議員
		1996 年	日本毒性学会評議員
		2001 年	琉球大学産学官連携推進機構長 琉球大学評議員
		2002 年	琉球大学医学部保健学科長
		2003 年	琉球大学大学院医学研究科教授
		2007 年	琉球大学医学部保健学科教授
		2011 年	琉球大学名誉教授
		2013 年	沖縄科学技術振興センター理事
		2014 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
ロバート・バックマン (副理事長/ 首席副学長 (技術 開発イノベーション 担当))		1975 年	ハーバード大学 (米国) 博士号 (化学)
		1979 年	ハーバード大学医学部アシスタント・プロフェッサー (神経生物学)
		1985 年	同 アソシエイト・プロフェッサー (神経生物学)
		1990 年	ハーバード大学医学部神経科学専攻 (博士課程) 専攻長 (ディレクター)
		1995 年	NINDS 基礎神経科学・発達障害部門ディレクター
		1999 年	NINDS アソシエイト・ディレクター (技術開発担当)

		2005 年	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 研究及び研修に関する特別学長顧問
		2007 年	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構理事
		2011 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園プロボースト及び副理事長
		2014 年	同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当）
		2015 年	同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当）及びプロボースト（臨時）及び副理事長
		2016 年 8 月	同 首席副学長（技術開発イノベーション担当）及び副理事長
カーティス・ カラン	2014 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日	1964 年	プリンストン大学（米国）博士号（物理学）
		1968 年	JASON スタディグループメンバー
		1969 年	プリンストン高等研究所長期メンバー
		1972 年	プリンストン大学物理学部教授
		1974 年	アメリカ物理学会フェロー
		1986 年	プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー アメリカ芸術科学アカデミーメンバー
		1989 年	米国科学アカデミー会員
		1990 年	JASON スタディグループ運営委員会委員長
		1995 年	プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学ディスティンクイッシュトプロフェッサー
		1998 年	プリンストン大学物理学部長
		2004 年	ディラック賞（国際理論物理学センター）
		2005 年	プリンストン大学理論物理学センターディレクター
		2008 年	アメリカ物理学会会長・副会長 プリンストン大学物理学部長 プリンストン高等研究所評議会会員
		2014 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
リタ・ コルウェル	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日	1961 年	ワシントン大学（米国）博士号（海洋学）
		1991 年	メリーランド大学（米国）生命工学研究so所所長
		1998 年	全米科学財団 11 代理事長
			国家科学技術会議（米国）共同議長
		2004 年	キャノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席

	*		副社長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別教授 2006 年 キヤノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会長 科学技術振興機構国際諮問委員 東京大学プレジデント・カウンシル・メンバー 2007 年 米国生物化学研究所所長 2006 年アメリカ国家科学賞 2011 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 2013 年 ローザリンド・フランクリン協会会長 シグマ XI ウィリアム・プロクター科学功績賞 2014 年 一般微生物協会賞
ジェローム・フリードマン	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 *	1956 年 1967 年 1977 年 1983 年 1990 年 1997 年 1999 年 2001 年 2005 年 2009 年 2011 年 11 月	シカゴ大学（米国）博士号（物理学） マサチューセッツ工科大学（米国）教授 米国大学研究協会 URA ボード委員 同 ボード副議長 マサチューセッツ工科大学物理学部長 ノーベル物理学賞 高エネルギー加速器研究機構（KEK）経営協議会委員 米国物理学会会長 米国科学学会代表者評議会議長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ピーター・グルース		1977 年 1980 年 1982 年 1983 年 1986 年	博士号取得：ハイデルベルク大学 アメリカ国立衛生研究所（NIH）専門コンサルタント ハイデルベルク大学、微生物学准教授 ハイデルベルク大学分子生物学センター（ZMBH）理事 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲ

		1990 年 1997 年 2002 年 2017 年 1 月	ン)、(分子細胞生物学部) 部長 ゲッティンゲン大学名誉教授 マックス・プランク生物物理化学研究所(ゲッティンゲン) 所長 マックス・プランク学術振興協会会長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
セルジュ・アロシュ	2015 年 10 月 1 日 ～ 2018 年 9 月 30 日	1971 年 1975 年 1981 年 1984 年 1991 年 1994 年 2001 年 2012 年 2015 年 10 月	パリ第 6 大学(フランス) 博士号(物理学) パリ第 6 大学教授 ハーバード大学客員教授 イエール大学非常勤教授 フランス大学院メンバー 高等師範学校(フランス) 物理学部長 コレージュ・ド・フランス量子物理学教授 コレージュ・ド・フランス学長 ノーベル物理学賞 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
橋本 和仁	2016 年 9 月 1 日～ 2019 年 8 月 31 日	1980 年 1984 年 1989 年 1991 年 1997 年 2004 年 2007 年 2015 年 2016 年 1 月	分子科学研究所文部技官 分子科学研究所助手 東京大学工学部講師 東京大学工学部助教授 東京大学先端科学技術研究センター教授 東京大学先端科学技術研究センター所長 東京大学大学院工学系研究科教授 東京大学総長特別参与・教授 国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長
小谷 元子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日	1990 年 1993 年 1997 年 1999 年 2001 年 2004 年 2008 年	東京都立大学理学研究科 博士号(理学) マックスプランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所(IHES) 客員教授 東北大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院理学研究科ディスティングイッシュト プロフェッサー

		2011 年	東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教授
		2012 年	東北大学原子分子材料科学高等研究機構長
		2014 年	総合科学技術・イノベーション会議議員（非常勤）
		2014 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ヴィージェイ ラガバン・クリ シュナスワミ	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 *	1983 年	タタ基礎化学研究所（インド）博士号（分子生物学）
		1984 年	カリフォルニア工科大学（米国）リサーチフェロー
		1986 年	カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー
		1988 年	タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター入所
		1998 年	タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長
		2005 年	首相府（インド）科学諮問委員会委員
		2009 年	ハワードヒューズ医学研究所（米国）ジャネリアファーム・リサーチ・キャンパス諮問委員会委員
		2011 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		2012 年	ロンドン王立協会会員
		2013 年	タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディスティングイッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局局长
黒川 清	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 *	1967 年	東京大学大学院博士号（医学博士）
		1979 年	カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（米国）医学部内科教授
		1989 年	東京大学医学部教授
		1993 年	文部省科学官
		1996 年	東海大学教授 同 医学部長
		1998 年	東海大学総合医学研究所所長
		1999 年	紫綬褒章
		2001 年	内閣府沖縄大学院大学構想検討委員会委員
		2003 年	日本学術会議会長
		2005 年	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員
		2006 年	内閣特別顧問（科学、技術、イノベーション担当）

		2009 年	政策研究大学院大学政策研究科教授 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 政策研究大学院大学政策研究科アカデミックフェロー
		2011 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		2014 年	政策研究大学院大学客員教授
李 遠哲	2015 年 10 月 1 日 ～ 2018 年 9 月 30 日 **	1965 年	カリフォルニア大学バークレー校（米国）化学科 博士号
		1973 年	シカゴ大学（米国）化学科ジェームス・フランク研 究所 教授
		1974 年	カリフォルニア大学バークレー校化学科 教授 ローレンス・バークレー国立研究所（米国）化学部 門 主任研究員（1997 年 08 月まで）
		1986 年	ノーベル化学賞
		1991 年	香港科技大学 学長アドバイザー・ボード・メン バー
		1993 年	カリフォルニア大学（米国）大学教授 ハーバード大学（米国）化学科ビジティング・コミ ッティ議長
		1994 年	台湾中央研究院院長
		2006 年	中華民国教育部諮問委員会委員
		2007 年	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委 員
		2009 年	沖縄科学技術大学院大学学園設立委員
		2011 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事（～2013 年）
		2015 年 10 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
尾身 幸次	2016 年 10 月 1 日 ～ 2019 年 9 月 30 日*	1956 年	一橋大学商学部卒業
		1956 年	通商産業省入省
		1970 年	外務省在ニューヨーク日本国総領事館領事
		1976 年	通商産業省大阪通商産業局総務部長
		1979 年	科学技術庁長官官房総務課長
		1981 年	通商産業省中小企業庁指導部長
		1983 年	衆議院議員初当選（以来当選八回）

		1995 年 1997 年 2001 年 2006 年 2013 年 10 月	衆議院大蔵委員長 国務大臣経済企画庁長官 国務大臣沖縄及び北方対策・科学技術政策担当 特定非営利活動法人 S T S フォーラム理事長 財務大臣 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
尚 弘子	2011 年 11 月 1 日 ～ 2017 年 10 月 31 日 *	1972 年 1982 年 1984 年 1991 年 1994 年 1995 年 1996 年 1997 年 2004 年 2005 年 2009 年 2011 年 11 月 2012 年	琉球大学教授 九州大学 博士号（農学） ミシガン州立大学 客員教授 沖縄県副知事 放送大学沖縄学習センター所長 内閣府沖縄振興開発審議会委員 NHK 経営委員会委員 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー理事 NHK 学園評議員 沖縄国際大学理事 財団法人沖縄県文化振興会理事長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 学校法人アミークス国際学園理事・評議員 公益財団法人沖縄科学技術振興センター評議員
アルブレヒト・ ワグナー	2015 年 10 月 1 日 ～ 2018 年 9 月 30 日	1971 年 1984 年 1991 年 1999 年 2005 年 2006 年 2007 年 2008 年 2010 年 2011 年	ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） ハイデルベルク大学教授 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 DESY 理事会委員長 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 ヘルムホルツ協会副会長 ハンブルグ大学評議委員会委員長 ヨアキム・ヘルツ基金委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員

		2015 年 10 月	同 理事長臨時代理兼学長臨時代理
--	--	----------------	------------------

*重任・2 期目 **再任

(3) 評議員

氏名	任期	所属
*安仁屋 洋子	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	琉球大学名誉教授
ゴードン・アーバス ノット	2016 年 10 月 1 日～ 2019 年 9 月 30 日	沖縄科学技術大学院大学教員担当学監
有馬 朗人	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	財団法人日本科学技術振興財団会長 学校法人根津育英会武蔵学園学園長 公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
ニール・コールダー	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（広報担当）
モンテ・カセム	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	学校法人立命館総長特別補佐
メアリー・コリンズ	2016 年 2 月 18 日～ 2019 年 2 月 17 日	沖縄科学技術大学院大学研究担当ディーン
マチ・ディルワース	2015 年 5 月 18 日～ 2018 年 5 月 17 日	沖縄科学技術大学院大学副学長（男女共同参 画・人事担当）
土肥 義治	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	公益財団法人高輝度光科学研究センター理事 長
銅谷 賢治	2016 年 10 月 1 日～ 2019 年 9 月 30 日**	沖縄科学技術大学院大学教授会議長
ラルフ・アイヒラー	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
アリ・ガンジロー	2015 年 10 月 2 日～ 2018 年 10 月 1 日	沖縄科学技術大学院大学副学長（施設管理担 当）
フレデリック・ ギルマン	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	カーネギー・メロン大学（米国）理学研究科長
平澤 冷	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	スタンフォード大学化学学部長

梶山 千里	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	福岡女子大学学長・理事長 前九州大学総長
小林 誠	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研 究機構 特別荣誉教授
久保 真季	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（アドミニスト レイティブ・コンプライアンス担当）
松本 良	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知財戦略機構特任教授
松島 恵美	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学統括弁護士
アン・ミウラ・コー	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	Floodgate 共同設立パートナー
長浜 善己	2015 年 2 月 19 日～ 2017 年 10 月 31 日	恩納村村長
ケン・ピーチ	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	オックスフォード大学（英国）量子治療癌研究 所名誉教授
ヘルマン・シュンク	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	前連邦教育科学研究技術省基礎研究局長
瀬名波 榮喜	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	名桜大学名誉学長 大学コンソーシアム沖縄代表理事
白井 克彦	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	放送大学学園理事長 前早稲田大学総長 前沖縄振興審議会会長
尚 弘子	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	公益法人沖縄科学技術振興センター評議員 沖縄国際大学理事
デイヴィッド・ スウィンバンク	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	ネイチャーパブリッシンググループ マネー ジングディレクター リジョナルマーケット&サ イエンス&メディカルコミュニケーション ズ アジアパシフィック・インド・中東・イベ ロアメリカ・ロシア マクミラン サイエンス&エデュケーション マネージングディレクター オーストラリア &ニュージーランド
高梨 桂治	2015 年 5 月 18 日～ 2018 年 5 月 17 日	沖縄科学技術大学院大学副学長（財務担当）
高安 藤	2011 年 11 月 1 日～	元在沖米国総領事館広報・文化担当補佐官

	2017 年 10 月 31 日*	
田中 信明	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
浦崎 唯昭	2015 年 2 月 19 日～ 2017 年 10 月 31 日	沖縄県副知事
アルブレヒト・ ワグナー	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	ドイツ電子シンクロトロン名誉所長
和宇慶 江理子	2015 年 5 月 18 日～ 2017 年 10 月 31 日	沖縄アミークスインターナショナル校長
ジェフリー・ ウィッケンス	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	沖縄科学技術大学院大学科学技術研究科長
山崎 秀雄	2014 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系理学部 長
フィリップ・ヨー	2011 年 11 月 1 日～ 2017 年 10 月 31 日*	シンガポール中小企業育成標準政策庁 (SPRING) 長官

*理事兼任者

*重任・2 期目

**再任

II. 業務実績報告

別紙「平成 28 年度業務実績報告」のとおり。

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
--------------	----	------------	------

平成 29 年 3 月 31 日

第 1 章 教育研究に関する事項				
1.1 博士課程 目標 (1)	平成 27 年のフィードバックを受け、新期学生の円滑な受入れと、計画通りの研究トレーニングの開始に万全を期し、取組の更なる改善を図ります。			A
1.1 博士課程 取組 (1)	(授業科目) 1101 引き続き、新しく採用された教員が担当する授業を含め、カリキュラムを拡充するとともに、平成 28 年 6 月に設置計画履行状況報告書を文部科学省に提出します。 1102 引き続き、博士論文研究開始前のトレーニングやラボ・ローテーション、個々の学生への指導教員（アカデミック・メンター）の配置等を含め、個々の学生のニーズに応じたプログラムを提供します。 1103 引き続き、グループ活動やプレゼンテーションの技術、研究倫理、キャリア開発、教育経験、招待学生による講演事業等に重点を置いたトレーニング等を内容とする「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を提供します。 1104 引き続き、卓越した外部試験官による口頭試験を基本に博士論文研究の進捗状況の審査を実施します。 1105 最終試験、卒業、学位記、衣装、式典のための手続きを準備します。 1106 引き続き、入学予定の学生（特に 3 月に日本の大学を卒業する学生）に対し提供する、研究活動で必要となる語学力等を習得する準備プログラムの充実を図ります。		(授業科目) 1101 平成 27 年に新規採用した化学系の教員がそれぞれ担当する 3 科目の授業について、平成 28 年度に設置計画履行状況報告書を提出し、認可されました。また、本学の教授陣として新たに加わった教員の授業計画が始まり、平成 29 年 9 月から担当授業を開始する予定です。 1102 平成 28 年 9 月に、世界各国から新入生 35 名が入学しました。個々の学生へ指導教員（アカデミック・メンター）を配置し、ラボ・ローテーションやコース・ワークを開始しました。 1103 「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を継続して実施し、専門的な科学技術習得の向上に努めました。当該科目は主に 3 つの要素から構成されています。 1)研究公正や倫理、サイエンス・コミュニケーション、社会における科学の役割などの多岐にわたる週次セミナー 2)学際的なグループ・プロジェクト 3) プレゼンテーション・スキルや指導力を磨く実践授業。 1104 論文試験（研究計画書、博士論文）と論文作成のガイドラインを制定し、管理体制を確立しました。また論文審査のためのシステムの開発と導入も同時に終わりました。 1105 学位論文の外部審査や博士課程卒業に関する一連のプロセスを終え、平成 29 年 3 月には、3 名の学生に博士の学位を授与しました。卒業式に関しては、平成 30 年 2 月に開催する予定で、詳細な計画の策定に着手しました。 1106 博士課程を開始する前に、学生に「ギャップ・プログラム」を提供し、英語とラボのスキルを向上させました。このプログラムは、必要な英語研修のレベルに応じて 2 種類の方法で提供されます。学生 1 名が 3 ヶ月間にわたって、英国で集中英語研修に参加し、オックスフォード大学の研究室に短期間配属されました。また、集中英語研修を必要としない他の 3 名の学生は、本学で行われた英語授業に参加し、本学の研究室に配属されて短期間の研究プロジェク	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己評価
			トに取り組むことにより、科学英語の実用的な能力を高め、英語に自信をつけることができました。このプログラムに参加した学生全員が、英語と研究のスキルを大幅に向上させ、博士課程への入学の準備を整えることができました。	
1.1 博士課程 取組 (1)	(教育環境) 1107 引き続き、学生の研修、単位互換、ティーチング・アシスタント等の交流を目的に連携協定を締結する等、他大学との協力関係を強化します。 1108 履修状況、成績、単位等のデータを管理する学生記録システムを引き続き運用し、引き続き拡充を図ります。 1109 引き続き、実験授業、教材、講義室や指導室、AV機器、コンピューター・ラボ等を管理するための仕組みや、教員と事務部門との連絡窓口を強化します。 1110 (数学、コンピューター・プログラミングのような) 確立したトピックにおける短期のコース及び客員研究者による特別なコースを設けることによって博士課程学生が必要とする研究技術を学ぶ機会を増加させます。		(教育環境) 1107 他大学の有識者による研究支援セクションのピアレビューや先端バイオイメージング支援プラットフォームへの参画等により、他大学等との協力関係の構築に引き続き取り組みました。 1108 本年度は学務情報システムの機能向上に取り組みました。学生レコードの作成や管理機能の充実と共に、本学全体の人事システムとの連携を強化し、学生管理の正確性と効率を向上させました。 1109 電気化学、材料化学、二光子顕微鏡法のための設備の設置を中心に、引き続き教育ラボおよび施設の改善を行いました。これらの改善により、教育ラボの使用率が向上しました。 1110 引き続き、研究科オフィス所属のポスト・ドクトラル・ティーチング・フェローが学生のニーズに合わせて短期のコース（スキルビル）を実施しました（平成 28 年度は 20 以上のコースを開催）。また、顕微鏡、MATLAB、Python や分子生物学などのテーマを 1 学期間かけて学ぶコースも提供しました。ティム・ハント教授による細胞生物学の特別授業も行いました。	
1.1 博士課程 取組 (1)	(学生支援) 1111 引き続き、日本における教育プログラム、研究のための使用可能な実験室や生活の情報を提供するため、入学後の学生に対するオリエンテーション・プログラムを改良します。 1112 文化イベントの開催や日本国内の他大学に在籍する学生との交流の機会を設けることにより、海外からの学生による日本文化に対する理解を促進します。 1113 引き続き、本学の博士課程に入学する学生に対し、本学が優れた学生の獲得を巡って競合する世界水準の大学と同程度の生活水準において、研究活動等に専念できる	・ 外部の奨学金等を獲得した学生数の増加	(学生支援) 1111 新入生に対して、学生として相応しい大学生活及び本学のプログラムについて指導しました。ラボ・ローテーションや次年度に予定している論文研究に関する情報がさらに入手しやすくなるよう取り組みました。 1112 引き続き日本及び沖縄の文化を学ぶ機会を提供しました。沖縄文化の理解を深めるための社会見学を実施しました。また、沖縄県内の他大学と合同で、交流会や文化講演会を開催しました。 1113 年末調整、還付申告、滞在ビザの更新、出生届等の申請手続きを学生に代わり適時行いました。また、奨学金申請にかかる書類作成や翻訳作業も行いました。	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
ような環境を提供します。 1114 学生が巻き込まれた事故の発生や対応、結果等を引き続き記録します。 1115 引き続き、外部の奨学金等の情報を収集し、学生に対し情報を提供するよう努めます。 1116 引き続き、学生の卒業後のキャリア形成を支援するための方策を実施します。これらの支援には、客員研究者の講演も含め、他大学等でのティーチング・アシスタントの機会の付与、国内外の大学・研究機関のリーダー層とのネットワークの構築の促進、ポスドク等のポジションの就職情報の積極的な提供等が含まれる予定です。 1117 引き続きリソース・センターは以下の取組により学生とその家族に対し直接的な支援を向上させます。 (1) の家族への歓迎メールの送付 (2) 宣伝用資料（パンフレット、ビデオ等）の作成・配布 (3) ウェブサイトの充実（日常生活を送る上での問題や事務手続に関するより多くの情報を含めること） 1118 バイリンガルな医師、看護師、事務職員が一名ずつ常勤するクリニックを開設し、キャンパスにおいて学生の		1114 緊急時に少しでも迅速な対応ができるよう、OIST キャンパス・セキュリティ窓口および保健センターと緊密に連携を取りました。学生データ・ベースに記録された事項は、研究科長に報告されました。 1115 学生が申請可能な奨学金や、フェローシップの情報を引き続き収集し周知することで、学生による応募を奨励しました。また奨学金申請を手引きするセミナーを開催し、必要に応じて申請手続きをサポートしました。11 名の学生が JSPS フェローシップを獲得しました（DC1&DC2）。 1116 スキル・ピルズ（Skill Pillsー学生・職員向け課外講座）や 3 月開催のサイエンス・チャレンジ、8 月開催のコラボレイティブ・インターナショナル・アンダーグラジュエイト・ワークショップ（CIUWー学部学生向けワークショップ）など、学生がティーチング・アシスタント（TA）として教育指導を経験する機会を増やしました。また、専任のキャリア・ディベロップメント・アドバイザーが全学生と個別・定期的に面談を行いました。さらに、学生向けに、教育・指導スキル、履歴書・職務経歴書の書き方、サイエンス・コミュニケーション手法など、プロフェッショナル・スキル開発のためのワークショップを多数開催しました。 1117 これまでレジストレーション・デスクが担っていた業務をリソース・センターが引き継ぎました。新リソース・センターは人事リロケーション・チームと協力して業務の効率的分担を開始することで、職員、学生やその家族により良いサービスを提供しています。ウェブサイトを完全に更新し、日常生活に関連する情報や事務手続きを、より見やすく体系的にまとめました。大部分の時間をキャンパスで過ごす職員や学生からの強い要望に応えるべく、センター棟内にもオフィスを開設して、従来のビレッジ内オフィスに加えて二か所での運営を開始しました。対応時間帯もニーズに合わせて調整できるよう工夫をしました。 1118 クリニック及びヘルスセンターは OIST コミュニティ全体を対象にサービスを提供しており、順調に運営され	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	健康全般のニーズを網羅します。がんじゅうサービスも活動を広げ、主にメンタルヘルス・サポートを行います。加えて、ストレス管理等に関する様々なセミナーを企画・開催します。		ました。キャンパス内で医療ケアを提供することで、スタッフの業務時間を犠牲にすることが減少し、保健センターの職員が外部医療機関に職員、学生及びその家族に付添う必要性が大幅に減りました。 法律改正に伴い、ヘルスセンターはがんじゅうサービスと協力してストレス・チェック・テストの企画及び準備を進め、HR と協力してテストを目標期限内の 11 月に実施し、およそ 50%の職員が参加しました。 がんじゅうサービスでは、安全かつ即対応可能でエビデンスに基づいた心理セラピーとコンサルテーションを行い、2015 年度と比較して、25%以上利用が増加しました。2016 年に導入されたバイオフィードバック装置も効率的に使用されました。 心の知能指数、文化知能指数、マインドフルネス、成功や失敗に対するプレッシャー、完璧主義、健康的な睡眠、ウェルビーイングの改善、ストレス管理などに関するワークショップ、ディスカッショングループや講演者招聘が提供されました。チーム内のウェルビーイングに関する管理職を対象とした研修、また学生向けも含んだ敬意を持った環境構築やハラスメントへの対処に関する研修、2 日間にわたるサポート人員への研修も行われました。ストレス管理に関するリーフレットが作成・配布されました。 学生ウェルフェア・コミッティーとの広範囲な取り組みは、学生のウェルビーイング・プロジェクト（広報、社会イベント、ビーチ・クリーニング、PD1 へのインプット、ピア・サポーターへの月毎の監督グループ）を促進・支援してきました。 トラウマとなるような事例が起きた際は、がんじゅうではトラウマへの通常行われる対応について、情報リーフレットを提供し、その時々対応できる職員がサポートセッションを行いました。 ウェルビーイング関連の問題とポリシーについては、DGS、DFA、ウェルフェア・サービスとも定期的に会合を行いました。てだこプレスクールにおける社会的・感情的な教育も提供されています。その他、ティータイムやオリエンテーション、コミュニティー・イベント、ウォーキング、オープン・ハウスなども行いました。	
1.1 博士課程 目標 (2)	引き続き、科学技術分野における世界最優秀の学生を選抜し、本学の博士課程に受け入れます。学生の少なくとも半数は外国人とします。			A
1.1	1119 これまでの学生募集・選抜の状況について適切な検	・成績優秀な学生の博	1119 平成 28 年 9 月に合計 35 名の学生が入学しました。	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
博士課程 取組 (2)	士課程への応募者数 (日本人及び外国人) ・合格者数(日本人及び外国人) ・入学者の水準(出身大学等)	(日本人学生 6 名、外国人学生 29 名)(ウィッケンス) 添付資料 1. 1-1 学生に関する情報 1120 学生の採用活動をグローバルに展開し、平成 28 年 9 月入学予定の 5 期生ならびに平成 29 年 9 月入学予定の 6 期生として、世界トップレベルの学生を獲得しました。 ➤ 1121 OIST 博士課程宣伝用のツールとして、新たに日本語のパンフレットを企画、制作しました。 ➤ 1122 大阪大学キャンパスにおいて大阪大学初の OIST カフェを、またそのほかにも東京、大阪の 2 か所で OIST カフェを開催しました。 ➤ 1123 平成 28 年 11 月から平成 29 年 1 月にかけて、日本人学部学生を対象に、「あなたのサイエンス・ドリームとは」をテーマとした英語コンテストを実施しました。入賞者は 3 月に本学で開催した「サイエンス・チャレンジ」ワークショップに招待され、期間中英語のトレーニングを受けたうえでプログラム最後に英語によるプレゼンテーションを行ったほか、ラボでの実験、本学教員・研究者による講義、博士課程学生との交流を楽しみました。 2015 年開催のコラボレイティブ・インターナショナル・アンダーグラジュエイト・ワークショップ(CIUW)をさらに発展させ、ハーバード大学、ポモナ・カレッジ、スタンフォード大学の参加に加え東京工業大学と国際基督教大学の国内 2 大学の参加を得、8 月に 2016 年度 CIUW を開催しました。 ➤ 1124 平成 28 年度は本学の教授を大阪と東京で開催した OIST カフェに派遣し、OIST での研究について講演を行いました。 ➤ 1125 化学分野の学生募集の為、教授と相談の上、化学分野に特化したチラシを作成しました。他の特定の教授に関するチラシの作成も行いました。	

証を行い、その結果を最近の取組に反映させ、計画的かつ効果的な募集・選抜を実施します。

1120 平成 29 年 9 月に本学の博士課程(科学技術専攻、科学技術研究科)に入学を予定する次期学生として、科学技術分野における世界最優秀の学生の獲得を目指し、以下のとおり、国際的な募集・獲得活動を引き続き展開します。

- 入学定員：約 35 名
- 主な募集活動：

➤ 1121 募集ツールとして、引き続き、研究科のウェブサイトを整備します。更に、正確で分かりやすい学生募集パンフレットを発行します。

➤ 1122 国内の主要都市で OIST カフェを開催し、本学の募集情報や英語講習を提供します。

➤ 1123 日本の学部生を対象とした英語でのサイエンス・コンテストを開催し、勝者には本学による最先端の研究を体験してもらうワークショップへの参加を授与します。

➤ 1124 ターゲットとなる国に本学の教員を派遣し、本学に関するセミナーを開催します。

➤ 1125 科学や海洋科学などの分野からの募集のために、ターゲットを絞ったパンフレットを発行します。

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	※本学の教育環境の特色を学生に紹介する取組において、引き続き特に日本人学生に留意して募集活動を行います。いくつかの国内大学における説明会や、平成 26 年度に実施した OIST 体験ワークショップのようなイベントを開催するなど、ターゲットを絞った取組を通し、日本人学生の参加の機会を増やすよう努めます。			
1.2 研究活動に関する事項 目標	引き続き、世界最高水準の学際的な研究を推進します。基礎研究を通じて、新たな知見を追求することに尽力します。また、様々な国や地域から集まった学生に対し教育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の設備・機器の提供、並びに定期的な実施される厳格な研究評価制度等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、高いモチベーションを維持するよう支援します。社会のニーズに応え、それに相応しい取組を展開するよう努めます。基礎研究から生まれる発見こそが最も大きな貢献に繋がると確信しています。政府による「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき、知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究等を通じて、ニーズに見合った科学技術の応用を推進していきます。			A
1.2 研究活動に関する事項 取組	（学際的研究の促進） 1201 学際的研究の成否は、教員が率いる研究ユニットの研究力に左右されます。強固なユニットを確立するため、引き続き優秀な人材を教員として採用していきます。リサーチ・サポート・ディビジョンの積極的な拡充を図り、共用・共通機器及びサービス支援を本学の研究員や学生に提供していきます。 1202 研究棟のデザインや博士課程新期生による専門外のラボ・ローテーション、社会活動は全て、分野をまたぐ共同プロジェクトの促進につながります。 平成 28 年 2 月時点の研究ユニット一覧は、別紙 1-1 を参照。 また、主な研究内容について別紙 1-2 を参照。		（学際的研究の促進） 1201 今年度は、アシスタント・プロフェッサーを中心に、新規ファカルティ 10 名を採用しました。分野の内訳としては、神経科学 2 名、生物学 2 名、化学 1 名、数学 1 名、コンピュータ・サイエンス 1 名、物理 3 名です。研究支援の強化を行うため、イメージング・セクションと機器分析セクションを分割するなど、リサーチ・サポート・ディビジョンの再編を行い、更なる研究支援体制の整備を行いました。 1202 引き続き、分野をまたぐ共同プロジェクトの促進につながる研究環境が提供されました。 学際的研究の一例として、神経科学の研究ユニットと物理学の研究ユニットの共同研究により、鳥の歌声に関する論文が Science 誌に掲載されました。	
1.2 研究活動に関する事項 取組	（研究活動の支援） 1203 リサーチ・サポート・ディビジョン（RSD）の再編を行い、同ディビジョンの下に置かれた 9 つのセクションは各セクションの機能により特化した名前となりました。各セクションに 1 人、もしくは 2 人以上の教員を置き、各セクション・リーダーと協力して助言や指導を行っていきます。研究担当ディーンが RSD を統括します。本学の発展に伴い、各セクションにおける優秀な専門スタッフの採用活動を引き		（研究活動の支援） 1203 リサーチ・サポート・ディビジョン（RSD）の再編を行い、以下のセクション、オフィスを置きました。 1. 実験動物支援セクション 2. DNA シーケンシング・セクション 3. イメージング・セクション 4. 機器分析セクション 5. メカニカル・エンジニアリング＆マイクロファブリケ	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
続き進めます。エンジニアリング分野のサポート体制が強化されました。エンジニアリング・サポート・セクションはエレクトリカル・エンジニアリング・マイクロファブリケーションサポートセクションと成りました。また、エレクトリカル・エンジニアリングサポート・セクションが新設されました。このセクションは研究及び教育の両面を支える技術開発及び発展に寄与し、エンジニアリングサポートビルに收容されます。上記 2 つのエンジニアリングセクションにおける技術スタッフは、機械及び電気装置、真空装置、マイクロ波装置、化学装置、生体分子装置、環境システム、デジタル及びアナログ電子装置、プロセス工学、測地学、流体力学を含む分野における設計、製作、テストの専門家でなければなりません。 1204 瀬良垣臨海施設は、本学の海洋研究及び沖縄海洋科学研究センターを支援します。 1205 コモンリソースの効果的な管理及び使用に向けて、引き続き研究機器に関するデータベース及び予約システムの確立・開発・改善を進めていきます。 1206 リアルタイムの沖縄サンゴ礁エコシステムのモニタリングを実施するため、2 機の海洋観測システムを設置しました。物理的、生物的さらに化学的パラメーターを観測し、プランクトンのモニタリングを可能にするために設計されたカメラを設置し、時間的変動を把握します。海中に設置されたセンサーの精度を決定し、サンプルを研究室で検査するため、毎月数回海水サンプルを採集し、保管します。共同研究者は自身のセンサーを持ち込み、本学がそれらを接続し維持管理を行います。データの保管も可能にすることにより、本学を海洋観測機器の中核的な試験場所とすることができます。 1207 内部の優先利用を確保しつつ、他大学や民間企業等による本学の研究施設の利用を促進します。さらに、外部機関による本学の研究機器利用に関する PRP 及び関連する手続きを整備します。 1208 HPC 用クラスター及び DNA シーケンサーを活用し、知的・産業クラスター形成に向けた関連研究やその他の研究をサポートします。		ーション・サポートセクション 6. 沖縄マリン・サイエンス・サポート・セクション 7. 科学計算及びデータ解析セクション 8. 安全衛生セクション 9. 外部研究資金セクション 10. 研究担当ディーン・オフィス 技術支援を行う上記 1 から 7 のセクションは、ユーザーグループミーティングを開催し、コアファシリティの円滑な運用や共通機器の導入に関する検討を行いました。メカニカル・エンジニアリング&マイクロファブリケーション・サポートセクションのメカニカル・エンジニアリングサポートの担当は、新たに完成したエンジニアリング・サポート・ビルで業務を開始しました。 1204 本学の海洋研究及び沖縄海洋科学研究センター構想の中核となる瀬良垣臨海施設の運用を開始しました。 1205 研究担当ディーン・オフィスに研究リソースに関する管理と調整を担当するチームを編成し、機器データベースの改善計画に着手しました。また、既存の固定資産台帳を補う仕組みを整備しました。 1206 海洋観測システムや上述の瀬良垣臨海実験施設を活用し、国内外からの共同研究者を受け入れる体制について検討を開始しました。 1207 外部利用の検討に先立って必要となる、科研費等の外部資金による研究施設の利用に関する仕組みの構築に向けて課題の検討を開始しました。 1208 HPC 用クラスター、DNA シーケンサーやイメージング機器等のコアファシリティを活用し、知的・産業クラスター形成に向けた関連研究やその他の研究のサポートを行いました。計算科学及びデータ解析セクションは、提供している支	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価	
		援サービスについて外部の有識者によるピアレビューを受け、業務の改善につながるアドバイスを受けました。DNA シーケンシング・セクションは、同様のピアレビューに向けて、外部有識者の選定を行いました。 1209 関係者による打ち合わせを重ね、公的研究費の不正使用防止計画を新たに策定しました。また、これまで研究担当ディーンが公的研究費統括管理責任者と公的研究費コンプライアンス推進責任者の両方を務めることとなっていた体制を改め、研究財務マネージャー、外部研究資金セクション・リーダー、事業開発セクション・リーダーが後者のコンプライアンス推進責任者を務めることとしました。また、研究データ、ラボノート、研究試料及び化学物質の保存および開示に関するガイドラインを新たに策定しました。 1210 既存の部門で行われている業務を統合し、新たに地震や津波などの自然災害等の緊急事態の発生に備えた訓練や危機管理を担う、危機管理コーディネーターを研究担当ディーンの下に配置することを決定し、採用を開始しました。		
1.2 研究活動に関する事項 取組	(研究内容・成果の発信・公表) 1211 引き続き、厳格な研究評価の実施等を通じて、最も質の高い研究を掲載する国際的な学術誌への論文投稿や国際学会への参加を奨励します。 1212 引き続き、研究内容や研究成果について、ウェブサイトにおける発表、記者公表、記者会見、OIST 便り（電子メールニュースレター）、パンフレット、テレビ番組や OIST ソーシャル・メディア等を活用して、国内外への分かりやすい情報発信に努めます。 ➢ 平成 26 年度から作業を進めている本学ウェブサイトのレスポンス・デザインは平成 27 年に OIST ホームページ及び各グループサイトの作業を完了させ、モ	・研究者の数（教員、ポスドク、技術者及び学生） ・研究成果の発表論文数 ・研究成果についての記者公表及び記者会見数 ・研究に関する受賞数	(研究内容・成果の発信・公表) 1211 OIST が発表した論文数は 329、分担執筆したチャプター数は 7、専門書 2 冊、学会で行われたプレゼン・講演数は 819 でした。引き続き、科学の幅広い分野で革新的な研究を行いました。発表論文の掲載先には世界的に著名な学術誌も含まれます。 添付資料 1.2-1 平成 28 年度 OIST 論文・発表数 1212 研究成果に関する国内外への情報発信の一環として、日英両言語で 80 のウェブ記事を本学ウェブサイトに掲載、19 件のプレスリリースを発表、そして 10 の記者会見および記者懇談会を東京・大阪・沖縄において開催しました。年間を通じて、海外、在京、そして地元の新聞社・雑誌社・テレビ局、海外特派員など、計 300 名以上と会い、OIST の研究内容や研究成果についてアピールしたことで、数多くの報道がありました。また、国内外および地元	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
バイル端末ユーザーに向けた利便性を向上させました。 平成 28 年は移行によって生じるコンテンツの調整やグループサイト権限者へのトレーニングを行い、本学のウェブサイト을 最大限活用するとともに、引き続きコンテンツの大部分を日英両言語で提供しよう努めます。 ➤ 県内外のプレスによる視察の機会や説明会等を設けるなど積極的なメディア戦略を実施します。 ➤ 本学の研究内容や研究成果を、地元・国内・海外メディアに対して Alpha Galileo や Eureka! Alert 等のニュース配信プラットフォーム及び国内の記者クラブを介して発信します。 ➤ 科学広報の分野及びメディアにおける本学の存在感を高めるため、ジャーナリストや他大学のプレス担当者とグローバルなネットワークを築き維持します。 ➤ サイエンス・ライタースキルを効果的に高めるため、他大学と共同でプロフェッショナル・コースを定期的に提供します。 ➤ 拡大しているソーシャル・メディアをコミュニケーションの場として活用します。		報道機関による OIST 訪問を多数受け入れたほか、毎月の電子版ニュースレターおよびパンフレットを日英両言語で発行しました。これら全ての研究成果および OIST の教育研究活動について、OIST のソーシャル・メディアを活用して国内外への情報発信に努めました。 - OIST ウェブサイトのレスポンス・デザインへの移行を完了させたことで、モバイル端末ユーザーに向けた利便性を向上させるとともに、引き続きコンテンツの大部分を日英両言語で提供することに成功しました。 - 5 つの記者会見（東京 3 回、県内 2 回）および 5 つの記者懇談会（東京 2 回、大阪 1 回、県内 2 回）を開催し、記者会見では報道解禁つきで最新の研究成果を研究者自らが発表したほか、記者懇談会ではある特定の研究テーマに沿って研究者が集まった記者たちに対して詳細に説明することで、記者との関係構築をはかるとともに、将来記者がその分野について報道する際に OIST の研究を取り上げて貰えるよう、戦略的に「種まき」をしました。 - 本学の研究内容や研究成果を、Alpha Galileo や EurekaAlert! といったニュース配信サイトに掲載するとともに、国内の記者クラブを通じて配信し、その結果、国内外のメディア（新聞・テレビ・ラジオ・ウェブ）による数多くの報道につながりました。これらには全国紙や全国放送のネットワーク局、海外通信社も含まれます。 - メディア向けのタイムリーな情報発信や、メディア・セクション・リーダーの科学技術広報研究会（JACST）における活動を通じて、国内外のジャーナリストや機関広報担当者との関係強化に成功し、OIST の知名度向上につながりました。 - 2017 年 3 月には広島大学と JACST と共催で、国際科学広報に関するシンポジウムを広島大学で開催し、OIST 広報担当副学長、メディア・セクション・リーダー、メディアセクション・フェローがそれぞれ発表しました。同シンポジウムには国内の大学や研究機関から広報担当者や URA など約 80 名の参加がありました。また、これに先立って 2016 年 9 月にはメディア・セクション・リーダーが JACST メンバーを先導して、英国の科学一般誌 New Scientist が主催した科学イベント New Scientist Live! で合同ブース展示を企画・運営し、国内外の科学界における OIST の認知度向上に寄与しました。同イベントには 22,000 人以上の来場がありました。 - 学長交代を含め、OIST の VIP 用パンフレットと教員小	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	1213 他機関との会議をより多く持てるように、職員、教員、及び学生に対して充実した技術支援を提供します。		冊子の内容を更新しました。 - 地域連携セクションおよび教務科オフィスとの連携のもと、OIST ソーシャル・メディアを活用して学内の研究内容や研究成果、教育活動にかかわるイベントなどコンテンツを充実させ、国内外に向けて情報発信しました。 1213 テレビ会議予約システムが 200 回以上利用され、そのうち 160 回以上にわたって技術支援を提供しました。電子メールでの質疑応答にも対応しました。テレビ会議システムの延べ利用件数は 2000 回を超えています。BOG と BOC における外部委員の参加はこれまで以上にスムーズとなり、BOG 委員長のウィーゼル博士より WebEx 経由の参加がとてもスムーズであったとの賞賛の言葉をいただきました。 750 名が参加した「国際動物学会第 22 回国際動物学会議」では会場のキャパシティを超える規模の参加者に対しデジタル・サイネージ・システムが極めて有効に会場案内の役割を果たしました。また AV システム管理プログラムを整備することでキャンパス各所にあるプロジェクター、デジタル・サイネージ、テレビ会議システムの状態を一元的に監視することが可能となり、機器障害に直ちに対応することができました。	
1.3 教員関係 目標	日本及び海外の科学者の採用活動を継続します。その中には、優れた学際的な研究実績を持つ上級レベルの研究者と、学際性の高い極めて優秀な研究実績を蓄積しつつある若手研究者の両方が含まれます。また、コンピュータサイエンス分野での著名な国際会議を OIST に誘致し、参加者の OIST 認知度を向上させるとともに、教員獲得の一助となることを目指します。			A
1.3 教員関係 取組	（教員の採用） 1301 一連の傑出した教員を採用する計画は、ジェンダーバランスを強化しながらも、年齢、国際性、日本というバランスを維持した研究者採用を行う一方で、異なる科学領域を広くかつ深くカバーすることにより「枠組み文書Ⅱ」で示された提案に従って OIST の研究的地位を強化することになります。2023 年までに 100 研究ユニットにするという「枠組み文書Ⅱ」に掲げられた目標に向けて、今年度は 60 ユニットまで増やすために、新たに 9 名の教員を採用することを目指しています。研究分野としては、生物学、化学、コンピュータサイエンス、生態学・環境科学、海洋科学、数学、神経科学、物理学となります。 1302 平成 28 年度に採用する新しい教員のために、研究活		（教員の採用） 1301 今年度はテニユア付き教授 1 名、准教授 3 名、アシスタント・プロフェッサー 6 名を採用しました。優れた教員を確保する方法の一つは採用活動ですが、着任した教員の能力開発を行うため、アカデミック・デベロップメント・イニシアチブ実施に向けて準備しました。イニシアチブには、若手教員のメンタリング（育成）、小グループで行うティーチング研修、基本的なマネージメント研修などがあります。 人材開発セクションのマネージャーとスペシャリスト（各 1 名）を採用するなど、教員や研究者の人材開発・教育を強化しました。 1302 スペース・アロケーション・サブコミティと連携	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己評価
	動に合うスペースを次の方策に沿って提供します。 ➤ 教員のニーズにより第 3 研究棟にスペースを確保すること ➤ 他の研究棟に空きスペースを改修して確保すること ➤ 既存のスペースの最大限の利用により追加的なスペースをつくること ➤ 利用可能なスペースを増やすために共通機器や施設の利用を奨励すること ➤ スペース要求に沿うように新しい教員と密接に調整すること また、効果的なスペース利用のためにリソース・アロケーション委員会と調整します。		し、新しく採用した教員のための研究スペースおよび既存の研究ユニットを拡張するためのスペースを提供しました。また以下についても対応しました。 ➤ 第 3 研究棟内のすべてのスペースについて改修が終わり、利用を開始しました ➤ 新しい教員のために、既存の施設に新しい研究スペースを確保しました ➤ マリンステーションが完成し、利用を開始しました ➤ エンジニアリングビルが完成し、利用を開始しました ➤ 既存の施設内で保管場所として利用していたスペースを、研究スペースに改修しました。 ➤ 効果的なスペース利用について継続して検討しました。	
1.3 教員関係 取組	(教員・研究評価の実施) 1303 引き続き、研究評価については、世界の著名な科学者等からなる外部の評価委員会が、世界的に最も高いレベルの基準に基づく評価を行います。研究の成果、独自性、今後の可能性やその他の要素について、公平性と透明性の確保を重視した基準により、厳格な評価を実施し、教員の昇進や任用継続の判断等に活用します。(平成 28 年度に評価を予定する研究ユニット数：7 ユニット) 1304 引き続き、評価結果については、研究事業に投じられた公費について国民に対する説明責任を果たす観点から、その概要をできるだけ速やかに公表します。	・研究評価を実施した研究ユニット数	(研究評価の実施) 1303 本年度は 6 つの研究ユニットのレビューが行われました。全ての研究ユニットがポジティブな結果を得ることができました。2 つのユニットが「世界トップ」、4 つのユニットは「世界クラス」(分野で上位 10%に入る)という評価を受けました。審査委員会は、上位 2 つの研究ユニットについては規模拡大を、残りのユニットについては同規模で研究を継続することを推奨しました。准教授から教授へ昇進候補者 3 名については外部審査委員からの推薦を経て、2016 年 2 月の OIST 理事会にて承認されました。テニユア審査については 1 件実施され、OIST 理事会による審査は未了です。 1304 研究ユニットのレビューの結果、3 名の准教授が教授へ昇進しました。新教授となる 3 名の達成を祝し、また公表する場として、2017 年度中に講演を行うことになっており、講演は一般にも公開される予定です。 添付資料 1. 2-2 平成 28 年度研究に関する受賞実績 添付資料 1. 2-3 平成 28 年度アウトリーチ活動実績	
1.4 世界的連携 目標	他大学や研究機関との連携協定の締結やワークショップの開催等を通じて、世界の科学コミュニティとの緊密なネットワークの構築に向けた取組を継続します。先端的な基礎研究及び最優秀の科学者を育成することで社会向上を目指す研究大学院大学として国際的な知名度の向上を目指します。			A
1.4	1401 学生の研修、単位互換、その他の交流を目的に連携	・大学や研究機関等と	1401 他大学の有識者による研究支援セッションのピア	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
世界的連携 取組	協定を締結する等、他大学との協力関係を積極的に強化します。(再掲。1107 参照)	の連携協定の数 ・ 国際ワークショップ及びコースの数 ・ 国際ワークショップ及びコースの参加者数 ・ 国内外の大学より受け入れた学生数	レビューや先端バイオイメーキング支援プラットフォームへの参画等により、他大学等との協力関係の構築に引き続き取り組みました。(1107 再掲) 平成 29 年 3 月末現在の共同研究契約等 新規の共同研究契約：18 件 継続や変更を行った共同研究契約：15 件 有体物移転契約：80 件 添付資料 1.4-1 学術交流協定一覧 (グルース)	
	1402 優れた学生や若手研究者等が、最先端の科学を学ぶとともに、相互に交流する機会を拡大するため、引き続き、国際性に富んだ世界的にもトップレベルの国際コース又は国際ワークショップを開催します。また、世界規模の国際ワークショップを本学に招致し、本学の研究者や学生が他の研究者とネットワークを構築する機会を拡大します。教員の要望に応じたワークショップや会議の柔軟な実施につとめ、参加者に対する旅費支援の低減、他の機関からの資金援助や、宿泊の手続を更に効率化し、各ワークショップに係る経費を減らすよう努めます。 1403 引き続き、物理学、細胞生物学、神経科学等の分野において、国内外のトップレベルの学部学生等を対象とした滞在型の研究室体験コースを開催します。 1404 短期・長期の学生受入制度を継続し、引き続き、国内外の他大学から学生を受け入れ、研究ユニットにおいて実践的なトレーニングを提供します。		1402 カンファレンス・ワークショップ・コミッティによる世界基準の厳格な審査と推薦に基づき 11 件の OIST ワークショップと 7 件のミニシンポジウムを開催し、806 名の研究者が参加しました。さらにコミッティの審査に基づき世界トップレベルの研究機関との共同で 1 件のジョイント・ワークショップおよび 2 件の著名な国際会議を戦略的に OIST に誘致し、940 名の研究者が OIST を訪れました。参加者への旅費支援のさらなる節約に努めるため、「トラベル・バーサリ」という新しい支援手順を調達セクションと協議のうえ新設しました。 添付資料 1.4-2 平成 28 年度 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム 1403 平成 28 年度は 15 名の日本人学生を含む、98 名のリサーチ・インターンを受け入れました。 1404 引き続き提供されている特別研究学生プログラムは、他大学の学生が本学の設備を利用しながら研究指導を受けるための手段として役立っています。国内の特別研究生の数名は在籍校を卒業し、平成 28 年度に本学での学修も修了しました。	
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項				
2.1 ガバナンス及び 業務運営体制 目標 (1)	学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における			A

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
2.1 ガバナンス及び 業務運営体制 取組 (1)		(基本的な運営) 2101 理事会は 5 月、9 月と 2017 年 2 月に OIST にて会議を開催し（各回とも、2 日間の本会議及び事前の運営委員会会議を実施）。9 月の理事会会議前には 3 日間の学長サーチコミッティ会議を開催し、候補者の面接と選考が行われました。評議員会は 5 月に 2 日間の会議（内 1 日は BOG と合同）を OIST にて開催し、2 月に電話会議を開催しました。理事会及び評議員会は、5 月の会議に先立って 2014 年度事業報告書を確認し、報告書は理事会の承認を経て内閣府に提出され、公開されました。 2102 分科会は必要に応じて会議を開催しました。ウェブを利用した会議システムが強化され、システムに馴染みのないメンバーのためには事前に会議のテストセッションも設けられました。こうしたシステムの改善は、都合により現地で会議に出席することが出来ない理事及び評議員の出席率の向上に貢献しました。 2103 理事長・学長は共に、学園及び大学の日々の運営のあらゆる側面において強力なリーダーシップを効果的に発揮しました。事業計画は運営の指針として積極的に活用されました。 2104 平成 28 年度の本学の業務運営の状況について、平成 28 年 10 月～12 月にかけて定期監査を実施しました。定期監査の実施結果については、報告書を作成し学長等に説明し意見交換を行い、改善を促しました。平成 28 年度を通じての監事の監査報告は、平成 29 年 5 月に開催される BOG 及び BOC に提出を予定しています。	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要となる十分な情報及び人的サポートが提供されます。監査結果については、理事会での報告等を通じて、その後の業務運営に反映します。		このほか、個人情報保護に関する臨時監査を実施しました。 また、監事は、定期監査の活動以外に、アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長との定例ミーティングを通じて、また、必要に応じて学長、首席副学長及び各副学長から業務運営の状況を聴取し、本学の運営状況についての把握に努めています。	
2.1 ガバナンス及び 業務運営体制 取組 (1)	(大学院大学の拡充に向けて) 2105 平成 27 年 7 月に本学の進捗及び拡充計画の評価を実施した外部評価委員会は、卓越性を測る全ての主要な基準において傑出した成果が見られるとし、こうした基準に照らすと、大学院大学は、平成 26-27 年の世界大学ランキングで最も高い評価を受けているトップ 25 大学と肩を並べていると評価しました。 外部評価委員会からの中核的な提言として、「枠組み文書Ⅱ」で提案された、今から 10 年後の 2020 年代半ばまでに種々の研究分野のバランスがとれた 100 の傑出した研究ユニット及び数百名の学生規模の大学院を目指すという拡張計画への支持が表明されました。今後 10 年間の大学院大学の更なる発展を審議・計画していきます。		(大学院大学の拡充に向けて) 2105 「枠組み文書Ⅱ」及び「マスター・プラン」を軸として大学の拡充に向けた積極的な努力が続けられました。主な取り組みとして、広範囲に渡る教員サーチと第 4 研究棟の建設があげられます。	
2.1 ガバナンス及び 業務運営体制 目標 (2)	引き続き、世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。			A
2.1 ガバナンス及び 業務運営体制 取組 (2)	2106 引き続き、理事長・学長、副理事長・プロボスト、副学長、教授会議長等による定期的な会合(日常的、週次、月次)を開催し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、必要に応じてオールハズ・ミーティング(全員会議)を行います。大学の幹部と教授会による会議を引き続き隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。 2107 政府機関との連絡調整を担当する副学長の下、内閣府と密接なコミュニケーションを確保していきます。四半期毎に開催される定例協議会を通じて、内閣府と連絡調整を行い、事業計画の実施状況等について報告を行います。また、平成 29 年度事業構想及びこれに続く概算要求に係る打合せを前広かつ綿密に行います。 2108 文部科学省認証の独立評価機関による平成 30 年度の		2106 エグゼクティブ及び教員代表が出席する定例会議を、引き続き毎週開催しました。この会議は議題に沿った議論が行われ、記録されています。また、学長とエグゼクティブの間の個別会議も定期的に開催されました。更に、エグゼクティブは報酬検討委員会のメンバーとして、公正な給与・報酬及び関連方針の策定と維持に努めました。そのような取り組みに於いて、同委員会は年次の業績評価プログラムや関連するサラリー・プログラムのガイドライン、基準及び範囲を決定します。 2107 4 月、8 月、10 月及び 1 月の定例協議会及び必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、平成 28 年度事業計画の実施状況、平成 29 年事業構想、平成 29 年度概算要求及び平成 29 年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。 2108 平成 30 年度の受審に向けて、認証評価機関を選定	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
大学認証評価受審に向けて必要な準備を進めます。 2109 人事・財務管理のための中核的ツールとして新 ERP（統合業務システム）を導入し、運用を開始します。今回のシステムの変更は、本学の博士課程プログラム開設以来、運営管理における最も重要な変化となります。リサーチ・サポート・ディビジョンのサイエンティフィック・コンピューティング・データ分析セクションを通じて提供される本学の情報技術（IT）サービスは、大学の運営と研究の双方にわたっています。幅広い分野でのサービスの向上を進めており、その中にはプロセスやインフラの改善も含まれています。 2110 本学の目的及び事業計画に沿った優れた品質の IT サービスを提供します。特に、新人研修、アカウントの開設や承認権限の変更を自動化・効率化するなど、研究及び教育の生産性を左右するような支援活動を確実に実施します。 2111 ユーザーが IT リソース及びサービスを活用できるよう、文書及び教育プログラムを明確化・簡潔化します。		するとともに、作業スケジュールの策定、調査書等所定様式の英語版の作成、評価基準に沿った本学の教育研究活動等の実施状況の確認、評価基準項目ごとの執筆分担表の作成及び自己点検評価書（日英案）の作成など必要な準備を進めました。 2109 HEART プロジェクトは 2016 年度末に完了しました。この改革プロジェクトにより、財務会計業務(2015 年度)と人事管理業務(2016 年度)を横断的に刷新し、ひとつの SAP システムとして統合しました。ERP 導入プロジェクトは難しく、スケジュール遅延や予算超過を頻繁に引き起こすと言われますが、HEART プロジェクトは、わずかな予算超過が生じたものの、スケジュール通りに完了しました。HEART プロジェクト以前の ERP は内製のシステムで信頼性は低い状態でした。HEART システムは本学のコア機能を見据え、東京と大阪にハードウェアの拠点がある経験豊富なベンダーのクラウドサービスとして導入されました。事業継続プロセスは定期的にテストし、東京・大阪間のバックアップは日次で実行しています。2017 年度の期首に HEART の人事管理システムが稼働し、紙ベースの業務プロセスをデジタル化したことで人事スタッフの工数が削減できました。 2110 OIST の IT は、「研究者をサポートし、研究支援のための管理業務スタッフをサポートする」という信念の下、優れた品質の IT サービスを提供するよう努め続けています。OIST アイデンティティ管理システム(以下 IDM)は 2016 年度に置き換えられました。ネットワークチームは、研究機器とその他の非標準アプリケーションの複雑なネットワーク要件に応えるため、研究者と継続的に緊密に協力しています。この取り組みは、研究者および RSS の活動、特に科学計算及びデータ解析セクションの活動を支援する鍵となります。ネットワークチームは、ネットワークをより柔軟で信頼性の高いものにするため、HPC や解析エンジンを支援するためにネットワーク開発を続けています。 2111 IT ウェブサイトとドキュメントは、2016 年度に改訂され、更新されました。更新されたウェブサイトはシンプルな構造で、ユーザーが探している情報をより簡単に見つけることができるようになりました。	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
2112 本学の活動を支える基盤を特定、評価、設計、配置、保持し、本学の拡充に対して着実に対応できるようにいたします。 2113 ローカル及びグローバルで行われている IT 関連の新しい取組の中核に本学を位置付け、研究及び運営管理の促進・支援を強化することで、沖縄の発展に一層貢献していきます。		2112 クラウドサービスは 2016 年度の重要テーマであり、ファイル共有とデータ共同作業はこの技術の変化によって最も影響を受けた分野です。2016 年度は、OIST Dropbox アカウントを持つ研究者数が大幅に増加しました。OIST Dropbox を使用することで、研究者は OIST 外のファイルを自由に共有することができ、OIST の研究データを含む以前は管理されていなかった個人の Dropbox アカウントと統合することができます。SharePoint は、事務スタッフが利用していた共有ドライブを置き換えるために導入されました。SharePoint はファイルに対するアクセス制御を強化し、ディビジョンやセクションで自身のデータを管理できるようになり、誤って削除してしまったファイルを容易に回復することもでき、IT セクションに相談することなく、部門の境界を越えてファイルを共有できるようになりました。OIST 資産の固定資産バーコードを無線自動識別（RFID）タグに更改しました。 この RFID タグおよび関連する管理ソフトウェアにより、OIST IT が財務部門などに資産の所在場所をリアルタイムに提供することが可能となりました。この技術により、固定資産の実査工数を大幅に削減します。複雑さとマルウェアの脅威の増加に対応するため、OIST IT はアンチマルウェア製品を Cylance に切り替えました。Cylance はこれまで導入していた McAfee よりもはるかに効果的であることを実証済みです。OIST の WiFi ネットワークは 2016 年度にアップグレードされ、OIST 敷地内で発せられている無許可の無線ネットワークを検出して対応できるようになりました。これらの無許可ネットワークは、OIST WiFi ネットワークに定期的に干渉し、研究者の活動を妨害しています。電話システムが Avaya から Cisco に交換されました。これは、OIST 電話機の必要性を減らし、コストを削減し、OIST 電話システムをより使いやすくしました。 2113 OIST は 2016 年度に、いくつかの国立情報学研究所の会議に参加しました。OIST は、日本の国立大学のセキュリティリスクに関する情報の収集と普及を目的とした NISC のセキュリティ活動に正式に登録される予定です。OIST IT は、沖縄の「IT Frogs」プログラムの一環として、インターンをホストするコーディネートを行っています。これは、専門大学生を OIST における 1 か月間または 2 か月間のプロジェクトに参加させるプログラムです。OIST IT は奈良先端科学技術大学院大学とも共同活動を続	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己評価
	2114 本学の各部門において発生する法的問題について法的助言を行うとともに、各部署が扱う契約について、ドラフト、交渉から締結に至るまで全面的に支援し、学園における適切な運営を確保します。		けています。 2114 テニュア審査に関する仮処分申請について、一審及び控訴審双方において本学の主張を全面的に支持する決定を勝ち取りました。決定の要旨は全教員に共有されました。また、従業員との間で長期間問題となっていた大きな事案 2 件について、裁判によらずに解決しました。新規従業員に毎月行っている日本法に関するセミナーに加え、遵法意識を高めるために飲酒運転に関する特別セッションを行いました。必須のセッション及びその理解度テストを e ラーニングのシステムに掲載しました。本年度、統括弁護士オフィスのリーガルカウンセルを 1 名増員し、紛争解決及び第三者との契約作成・交渉等その増大する責務をより効率的に遂行できるようにしました。	
2.2 予算配分と執行 目標	国からの補助金を始めとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、更には国民に対する説明責任を果たすため、引き続き、適正かつ効果的な予算の配分及び執行を実現する手続や体制を活用します。特に一般管理費については、効率的な予算の執行により抑制を図ります。			A
2.2 予算配分と執行 取組	2201 学園のリソース（人件費、運営費、機器購入費、スペース等）の配分・再配分について、優先順位付けの提案を行うリソース・アロケーション委員会を開催し、配分案を策定します。エグゼクティブコミッティは、学園のリソースを適切に配分するため、配分案の審議を行い、最終的に理事長・学長が決定します。 2202 引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分します。 2203 引き続き、各部署に配置された予算を分析する担当者との連携により、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化します。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行います。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。 2204 研究計画の制度を改善しました。全教員に対し、各自の研究目的、研究テーマの適切な概要、及び必要なリソースの要請について記載された研究計画を作成するよう求めます。リソースの中には、人件費、運営費、その他機器や設備等が含ま		2201 学園のリソース（人件費、運営費、機器購入費、スペース等）の配分・再配分について、優先順位付けの提案を行うリソース・アロケーション委員会を開催し、配分案を策定しました。エグゼクティブコミッティは、学園のリソースを適切に配分するため、配分案の審議を行い、理事長・学長が決定しました。 2202 引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。 2203 部署に配置された予算を分析する担当者と連携し、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含め、適切かつ一体的な予算管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行いました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。 2204 研究リソースの適正な配分を行うため、受益者負担制度の拡大（科研費等の外部資金による施設・設備利用等）について、検討を開始しました。研究計画に配慮した適切な予算配分を行いました。	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
れます。本計画がカバーする研究期間は 5 年間です。外部評価（ピア・レビュー）の結果も考慮し、適切な予算配分を決定します。 2205 9 月に配分の中間見直しが、そして第 4 四半期の初めにあたる 1 月にも別途見直しが実施されます。これらは、全ての研究関連予算の収支均衡を確認する節目となります。このような費用の綿密な見直しにより支出を最適に調整します。また、配分の中間見直しを実施することで、調達した固定資産の配達・受取りが年度内になされるよう手配されているかを確認する機会にもなります。科研費等の競争的資金等については、引き続き、研究担当ディーンの下で、会計担当部署とも連携しつつ、それぞれの資金のルールに則った適切な管理を行います。 2206 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンスを担当する副学長が審査すること等を含め、引き続き、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続きを行います。 2207 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。 2208 入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者による委員会において、学園が締結した契約の点検・見直し等について審議を行います。また、大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。 2209 セクション・リーダーや教授らにより共用・共有機器の提案、効率的予算利用を検討します。		2205 科研費等の競争的資金の予算の執行、実績報告および監査への対応は問題なく適切に行われました。期中（10 月）と期末（1 月及び 2 月）に全体的な予算配分の見直しを行い支出の最適化を図るとともに、固定資産の納品・検収を考慮に入れた、適切な予算配分を行いました。 2206 一定額を超える随意契約について、その内容がほぼ類型化してきたので、500 万円未満の購入案件はコンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円を超える案件はさらにアドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長及び同准副学長がその適切性を審査しました。随意契約の上限額について、調達方法の効率化とリスク管理の観点から、昨年度と同額の 500 万円とし、契約金額の削減、契約手続きの軽減等を図りました。 2207 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。財務省会計センターが開催している政府関係法人会計事務職員研修や九州地区国立学校会計事務研修に会計職員を参加させ、担当職員の育成に努めました。 2208 入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者で構成される契約監視委員会を 2 回開催し、学園が締結した契約の点検・見直しについて審議を行い、その助言に基づき、調達の手続きを改善しました。大型研究設備・機器の調達に関する仕様策定および技術審査委員会は、9 回開催されました。 2209 公平な審査手続きを確保するため、共用・共通機器はすべて、研究支援ディビジョンのセクション・リーダー	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
			が開催するユーザーズ・グループ・ミーティングで審査を行いました。	
2.3 事務事業の効率化 目標 (1)	業務運営における効率化を図るための取組を継続して行います。			A
2.3 事務事業の効率化 取組 (1)	2301 引き続き、研究設備・機器の共用・共有化の推進(1.2参照)や、研究資材や試薬等の単価契約や一括購入等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。 2302 通常の購入はもとより、特に研究資材や試薬は価格交渉を行い、コストの抑制を図ります。 2303 研究機器の保守費修繕費は、保守内容の見直し等によりコストの抑制を図ります。 2304 研究事業を効果的・効率的に支援するため、学内の研究資材ストアを拡充しサービス向上と利用拡大を図ります。	・単価契約や一括購入による経費の削減 ・学内の研究資材ストアの利用数の増加 ・競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数及び金額）	2301 研究機器の保守契約管理を共通支援部門に集約し、一括契約および共通部品の一括購入等を促進しました。 2302 単価契約および一括購入による経費削減に取り組みました。 単価契約件数：34 件 2303 研究機器の保守契約について、メーカーごとの保守契約の統合化、保守内容の見直し及び価格交渉を行い、コストの抑制を図りました。保守契約において、契約先が一つに限られるものは、調達審査委員会の決定を経て随意契約を行うことにより効率化を図りました。 2304 研究事業を効果的・効率的に支援するため、学内の研究資材ストアの取扱品目を拡充し、サービス向上と利用拡大を図りました。 1,186 品目（平成 27 年度）から 1,678 品目へ増加 学内研究資材ストアの利用の増加 調達金額： 52,785,658 円 （平成 27 年度比 -0.3%増加） 利用者数: 3,927 人 （平成 27 年度利用者 3,667 人、7.1%増加） フラスコ、遠沈管、ピペットチップ等の研究資材において、同じ性能でより安価な商品の購入を促進した結果、調達金額が 0.3%減少しました。 文具ストアの利用の増加 調達金額： 14,905,873 円 （平成 27 年度比 6.7%増加） 利用者数: 5,616 人 （平成 27 年度利用者 5,288 人、6.2%増加） また、web 購買システムを利用した試薬ストアの運用を開	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
2305 本学の契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。随意契約手続についても、継続的にモニターを実施します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から定期的に見直しを行い、また大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を開始します。 2306 内外価格差の是正に向け、海外からの直接購入の促進に向けた調査を行います。		始しました。 期末にユーザー満足度調査を実施した結果、総合満足度は 4.2 点（満点：5.0、回答者数 78）となりました。 2305 入札・契約を適正かつ効率的に執行するため、外部有識者を含む委員会を設置し、学園が締結した契約の事後的な点検・見直しを行いました。今年度は第 10 回（平成 28 年 8 月 5 日）及び第 11 回（平成 29 年 2 月 28 日）の 2 回にわたり開催しました。前回までに委員より寄せられた意見や提言について、契約事務手続に反映された点、コスト削減、入札・契約手続きの更なる合理化に向けて取り組んでいる事項について報告を行いました。 内部の委員による調達審査委員会を開催し、65 件の契約の点検を行いました。 調達価格が 50 百万円を超える大型研究機器の購入については、案件毎に、外部有識者を含めた仕様策定委員会および技術審査委員会を設置し、入札およびその準備手続における公平性・透明性が確保されるよう努めました。 委員会の開催件数：9 件 一定額以上を支出する契約（工事 250 万円、物品 160 万円、役務 100 万円、リース 80 万円）について、当該契約に関する情報公開を適切に行いました。 随意契約の手続きについては、適正な審査を担保しつつ、仕様書の作成方法を見直しすることにより契約手続を簡素化し、契約業務の効率化を図りました。また、随意契約理由の類型化を行い、手続きの簡素化に向けた運用ルールについて検討しました。 納品検収の状況を記録する納品検収システムの改善を行いました。 コンプライアンスの厳格な確保、業務効率化および他規則との整合性を保つ観点から、基本方針・ルール・手続き 28 章及び関連する規則等の見直しを定期的に行いました。 保険契約の見直しを行いました。火災保険は競争環境を高めることにより、大幅にレートを削減しました。 他の研究施設と情報交換を行い、調達職員の知識・スキル、コンプライアンスの向上、サプライチェーンの強化を目的とする交流を実施しました（大阪大学、立命館大学、理化学研究所、東京大学、産業技術総合研究所、製薬企業）。 2306、2307 昨年度に引き続き研究資材や機器の国内外価格比較データを取りまとめ、契約金額の交渉に活用しま	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	2307 調達コストの抑制を図るため、研究資材や機器等の国内外の価格比較データを取りまとめ、メーカー、代理店、業者との価格交渉に活用します。円安による価格上昇への対応を行います。 2308 消費税率の変更について、十分な対応を行うための取組を実施します。 2309 国際化の推進に取り組む国立大学等の職員に対して事務国際化研修を実施し、当該大学等の事務国際化に貢献するとともに、同職員を通じて国立大学等の運営管理に関する知見を吸収し、本学の事務の効率化を図ります。		した。 比較データ追加：687 件 * 大型機器や試薬を含む比較データは、全体で 1,242 件（昨年までの累計 555 件＋追加 687 件） また、集められたデータを活用して交渉を行い、為替変動等による定価上昇を抑制する効果を上げています。 2308 消費税率の変更は 2019 年 10 月に延期となったため、今年度は特段の取組を行いませんでした。 2309 東北大学及び大阪大学より 1 名ずつ研修職員を受入れ、当該大学の事務国際化に貢献する一方、国立大学等の運営管理に関する知見を吸収すると共に、本学の事務の効率化を図りました。	
2.3 事務事業の効率化 目標 (2)	学園の施設・設備を最大限有効に活用します。			A
2.3 事務事業の効率化 取組 (2)	2310 講堂や他の施設の管理及びモニタリングを行います。 2311 講堂や他の施設の外部利用の促進を図ります。		2310 施設運用セクションに新規スタッフを採用し、既存施設内全てのスペースの調査と基本のフロア・プランとスペース割当用のフロア・プランを更新しました。上記の新しいデータに基づいて、スペースの使用を最適化し、既存のユニットの拡張および新しいユニットのための研究スペースを確保しました。また、大量に保管していた物品を新しいエンジニアリング・サポート・ビルに移し、それによって空いたスペースを研究用のスペースに変換しました。 2311 R&D クラスターホールと講堂を「カンファレンス・センター」として積極的に外部の団体などに貸し出しました。OIST 全体では 47 件の外部団体による施設利用があり、「第 32 回国立大学法人 15 大学理学部長会議」や「第 25 回日本健康教育学会学術大会」「サンゴ礁再生の道筋ー沖縄県サンゴ礁保全再生事業成果発表シンポジウム（さんごの海フェスタ in OIST）」などのイベントに総計で 6 千人以上が参加しました。	
2.4 人事管理 目標	国際的に競争力のある処遇や教育訓練の機会を提供することにより、大学院大学の目的達成に不可欠な優れた人材を獲得し、維持していきます。それと同時に、国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。また、職員の給与水準については、「特殊法人等・独立行政法人の給与水準の見			A

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
2.4 人事管理 取組	・職位毎の職員数(職種、国籍別、性別) ・全職員に対する事務部門の職員の比率 ・運営費に占める人件費の割合	(職員の採用) 2401 世界的レベルの学長及び研究担当ディーンを採用し、着任しました。 添付資料 2.4-1 平成 28 年度 職位毎・国籍別職員数 全職員に対する事務部門の職員の比率：34% 運営費に占める人件費の割合：36% (決算前のため概算値) 2402 採用チームに採用スペシャリストを拡充し、チーム力を強化しました。また、ポジション開発、ポジション揭示、面接、最終決定までの一連のプロセスを改善しました。 2403 Perex Budget Sub Committee (PBSC)を立ち上げ、予算の範囲内で新規ポストを公明正大に配分しました。 2404 雇用した職員の男女比率は女性 49.7%、男性 50.3%です。また、執行部職に占める女性の比率は 33.3%となりました。毎月実施の新入職員研修にて、OIST における男女共同参画の方針について説明し理解を深めました。 2405 男女共同参画委員会を 8 月と 12 月以外、毎月開催し、引き続き、男女共同参画の観点に立った、女性研究者及び女性事務職員に対する支援体制について検討し、タスクフォースの提言の具体化を図りました。女性事務職員を対象にしたネットワーク・ランチを毎月、女性教員、研究員、技術員、学生を対象にしたものを隔月で実施しました。また、学問・研究・産業界で国際的に活躍する女性リーダーによる講演会「Distinguished Speaker Series」を計 2 回実施しました。さらに、教員採用委員会のメンバーを対象とした「教員採用時における潜在的バイアスによるネガティ	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
		づな影響を最小化する」研修を実施しました。 九州・沖縄地域で女性研究者支援や男女共同参画に取り組む 11 大学機関によって構成される「九州アイランド女性研究者支援ネットワーク」第 9 回 Qwea 年次会議に参画し、「九州・沖縄の国際化と女性研究者の役割」をテーマとしたシンポジウムを琉球大学と共催しました。 また、沖縄県内の女子中高生の理系への興味・関心を高め、進路選択を支援するためのワークショップ「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」を琉球大学・沖縄県と共同で実施しました。 2406 障がい者採用の為に 3 ポジションを確保しました。学内のどの部門からでも採用応募を可能としました。既に 3 ポジションとも採用が決定しました。 2407 メディカル・センター、がんじゅうサービス、CDC、リソース・センターを含む福利厚生機能は、効率的運用を継続するためにひとつの組織構造を維持しました。各施設のリーダーは、定期的に合同会合を継続し、お互いの連携とサービスの強化を図っています。リソース・センターはレジストレーション・デスクの業務を吸収し、新たなリソース・センターが形成されました。 同センターでは、沖縄での生活関連情報を提供し、外国人メンバーに向けて日本語のウェブサイトやチラシに掲載されている情報の理解を手助けしています。 職員、学生、家族間の交流を促進するために、各自が特技を有効活用して助け合える環境を提供するべく、個人の活躍の機会を作ることに努めています。 HR の赴任サポート・チームは、非常に効果的かつ効率的に機能しており、新たに着任するすべての職員や学生から高く評価・感謝されています。リソース・センターと HR の赴任サポート・チームは、それぞれのサービスをより効果的に打ち出した運営ができるように情報共有をしたり、任務分担の見直しを始めました。	
2.4 人事管理 取組	(処遇・給与水準) 2408 引き続き、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準等の競争的要因を踏まえ、年度評価及び職務等級制度を管理します。また、「特殊法人等における役職員の給与について（平成 27 年 12 月 724 日内閣官房行政改革推進本部事務局）」に対する取組を具体化し、実行します。	・職員の給与水準（職種別の平均給与） (処遇・給与水準) 2408 職員の給与水準については「特殊法人等における役職員の給与について（平成 27 年 12 月 24 日内閣官房行政改革推進本部事務局）」に基づき、国家公務員に準ずる取り組みとして、全ての給与レンジで一律 0.4%を引き上げました。	
添付資料 2.4-2 平成 28 年度 職員の給与水準			

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	2409 引き続きレジストレーション・デスクは、来訪する客員研究員、招聘ゲストの受入支援を行います。 2410 キャンパス内宿舎（ビレッジゾーン）の整備が昨年完了したのを受け、キャンパス内宿舎家賃の改定を行い、円滑に実施します。また、追加のキャンパス内外の宿舎整備計画を開始します。さらに、教職員のキャンパス外の家探し及び賃貸契約の締結を支援します。		2409 レジストレーション・デスクで担っていた業務は、リソース・センターに移管しました。 2410 コンサルタントの協力を得て、キャンパス内住宅のフィージビリティ・スタディを完了し、キャンパス内住宅建設資金調達のための検討を開始しました。キャンパス外住宅についても交渉を開始しました。	
2.4 人事管理 取組	（キャリア開発・研修・業務実績評価） 2411 事務職員に対する研修機会の提供等のキャリア開発の取組を引き続き行い、バックアップの確保及び後継者育成に向けた取組を実施します。 2412 職員のニーズ、管理職及びスタッフからの依頼に基づいて、それぞれの職階に必要な技能・スキル研修を継続的に提供します。必要に応じて、研修ニーズを把握するためサーベイやインタビューを実施します。 2413 ハラスメントに関する問題については、セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）防止研修をオンラインで提供するなど、引き続き、ハラスメント防止対策を推進します。ストレス・チェック等を実施し、学内外のサービスを通じて、本学が重視する職員の健康や、業務上の問題解決に向けた取組を引き続き実施します。 2414 PRP に基づき、新入校職員に対し、毎月のオリエンテーションを継続します。大学組織、業務手順、日本の法律に関する一般的なオリエンテーションに加え、事務職員が業務遂行上必要なシステムの利用方法及びルールに関する実務オリエンテーションを実施します。 2415 平成 28 年度には、職員とその家族向けに提供される英語及び日本語クラスの数を増やします。語学訓練への需要は非常に高く、英語と日本語におけるコミュニケーション能力は	・ 研修の受講職員数	（キャリア開発・研修・業務実績評価） 2411 事務職員に対する研修機会の提供等のキャリア開発の取組を引き続き行いました。例えば、外部講師によるマイクロソフト研修、ランゲージ・セクションとの共催による事務職員のための英語研修を実施しました。 添付資料 2. 4-3 平成 28 年度 研修の受講職員数 2412 「トレーニングディレクトリー」を作成し、それぞれの職階に必要な技能・スキル研修情報を提供しました。また、スーパーバイザーを対象とした基本的な役割を理解するための研修及びコミュニケーション能力を身に付けるための研修を実施しました。教員、研究者、学生のキャリア構築、効果的コミュニケーション方法、指導方法、交渉能力向上をテーマとしたワークショップを計 4 回実施しました。 2413 ストレス・チェックを実施し、参加者率 50% を達成しました。その結果は幹部、部門長に適宜伝達され、マネージメントの取り組みの一環となっています。 2414 新入職員へのオリエンテーションは毎月実施され、総計 12 か月間で 206 人が参加しました。法律を遵守させる為に「日本の法規」に関する簡略セミナーは必須項目として位置づけています。上級幹部職との対話は参加者より大変評価されています。 2415 英語コースでは 25 のコースが開催され、受講者は計 344 人でした。日本語コースでは 39 のコースが開催され、計 495 人が受講しました。コースはいずれも OIST 職	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	本学の成功の土台となります。 2416 引き続き、期首に設定した目標/期待値等の達成度を評価する事を基本とした年次業績評価制度とジョブグレード/レンジ制度を維持します。年次業績評価は、職種の特性に応じ、自己評価及び評価者の審査を介して、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施します。また、評価の結果について個々の給与等に反映させます。その際、報酬検討委員会のアドバイスを受けて、引き続き、評価の質及び信頼性のあるプロセスを確保します。また、新しいマネージャー及び入校職員にプロセスの説明を行うため、定期的に研修を実施します。		員、学生、またその家族を対象に行われました。 2416 報酬検討委員会（SRC）からの助言を受けながら、評価制度について引き続き職種の必要性に応じた改善を図りました。自己評価及び上司評価を通して目標達成度評価を公平性と透明性に配慮して実施するとともに、評価システムの改善がなされました。目標設定に関し、効果的に対話するスキルを習得するよう、また職員のキャリア開発を目指し、人事評価研修を実施しました。	
2.5 コンプライアンスの確保 目標:	大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。			A
2.5 コンプライアンスの確保 取組	2501 副学長（アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当）において、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行うこととします。 2502 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を定期的に開催し、規則類全体の整合性を維持します。 2503 業務運営上の意思決定及びその過程については、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書化するとともに、その管理・保存等を徹底します。 2504 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 59 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学内規則にのっとり、個人情報の取扱について適切に対応します。 2505 監事による監事監査や上記副学長の下で行う内部監査によって、規程類の実施状況を含むコンプライアンス		2501 アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長において、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行いました。 2502 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ適宜適切に制定・改正しました。平成 28 年度においては、「労働契約法」の一部改正（平成二四年八月一〇日法律第五六号）に基づく学内規則類の改正を行いました。また、PRP 審査委員会を 3 月に開催し、規程類全体の整合性の維持を図りました。 2503 業務運営上の意思決定及びその過程については、公文書等の管理に関する法律及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書化するとともに、その管理・保存等を徹底しました。 2504 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 59 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学内規則にのっとり、個人情報の取扱について関係部署に対して助言を行う等適切に対応しました。 2505 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査計画に基づ	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
の状況について、厳格なチェックを行い、その結果に基づき必要な見直しを行います。 2506 本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、毎年度、書面による開示を実施します。 2507 本学の研究活動が関連法令や規制に準拠して実施されることを引き続き確保します。 2508 研究費の不正防止のため、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組を実施していくとともに、納品検収体制の機能強化等種々の対策を講じます。 2509 不正防止委員会は責任ある研究活動の促進のため、本学全ての研究者及び学生が研究倫理教育を受講するよう推進します。さらに本委員会は全ての研究者及び学生が関係するガイドラインにのっとり、適正かつ効率的な研究データの保管・開示が行えるよう必要なマニュアルや手続き等の整備に向けたイニシアチブを取ります。(再掲。1.2 参照)		き内部監査を実施しました。 一定額を超える随意契約について、500 万円未満の購入案件はコンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円を超える案件はさらにアドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長及び同准副学長がその適切性を審査しました。 全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修（アドミニストレイティブ・コンプライアンス部門主催）については、月次で新入職員向けの研修を実施しました（12 回、研修参加者数 165 名）。さらに、全職員向けに、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の基準に沿った e-learning 研修を実施しました。 また、正しい法令知識に基づいて各担当業務におけるリーガルリスクを減らすため、大学運営に必要な日本の法令、学内規則、及び公文書管理等に関するセミナーを全事務職員向けに行い、約 120 名が受講しました。 2506 昨年度に引き続き、本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、書面による公式な開示を求め、その管理と運用を行ないました。 2507 研究活動に関連する動物実験、遺伝子組換え、病原体等、人対象研究、レーザー、野外活動、規制化学物質、放射線、規制機器及び輸出入等の申請は、関連する審査委員会で法令及び安全基準への適合を審議し、必要に応じて監督官庁に申請を行い、許認可を得ました。 2508 研究費の適正な執行に関するガイドラインを策定し、OIST への着任が決まった教員に対する基礎セミナー等の機会を新たに設け、研究費の適正な執行に関して、情報の周知に務めました。また、公的研究費の不正使用防止計画を新たに策定しました。 2509 関係者による打ち合わせを重ね、公的研究費の不正使用防止計画を新たに策定しました。また、これまで研究担当ディーンが公的研究費統括管理責任者と公的研究費コンプライアンス推進責任者の両方を務めることとなっていた体制を改め、研究財務マネージャー、外部研究資金セクション・リーダー、事業開発セクション・リーダーが	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	2510 衛生・安全に関するセクションや部署を再編成し、本学キャンパス内の安全・衛生環境の整備を推進することにより、本学の研究、教育、学習活動の支援・発展に寄与するため環境衛生及び安全セクションを新設します。本セクションは環境及び研究資金に関する責務に適切に対応し、かつ本学コミュニティにおける安全・衛生環境のリスクを最小限にするためのプログラムやサービスを提供又はコーディネートすることにより、上記の目的を達成します。(再掲。1.2 参照)		後者のコンプライアンス推進責任者を務めることとしました。 また、研究データ、ラボノート、研究試料及び化学物質の保存および開示に関するガイドラインを新たに策定しました。(1209 再掲) 2510 既存の部門で行われている業務を統合し、新たに地震や津波などの自然災害等の緊急事態の発生に備えた訓練や危機管理を担う、危機管理コーディネーターを研究担当ディーンの下に配置することを決定し、採用を開始しました。(1210 再掲)	
2.6 情報公開及び広報活動 目標:	本学が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組が非常に重要となります。国内外から幅広いサポートを得るとともに、国際的な認知度を高め、本学の知名度をよりあげるために、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図ります。			A
2.6 情報公開及び広報活動 取組:	2601 本学は引き続き、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開します。 2602 本学のウェブサイトが日英両言語で提供される質の高いアカデミックなウェブサイトとして評価されるよう引き続き整備・拡充に努めます。 2603 本学に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、引き続き、県内外で記者説明会や記者会見等の機会を積極的に持つよう努めます。		2601 引き続き、学校教育法や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開しました。 2602 2016 年度には広報ディビジョン内にデジタル・サービス・セクションが新規に設置されました。非常にスキルの高いウェブ開発者を 2 名採用したので、外部に業務を委託する必要がなくなりました。これによって、まず第一に、OIST の外部向けサイトをクラウドに移動したため、閲覧者にとってウェブページの読み込み速度が 10 倍速くなりました。OIST はバイリンガルなウェブサイトを提供する大学として日本において首位を保っています。 2603 10 の記者会見および記者懇談会を東京・大阪・沖縄において開催するとともに、年間を通じて、海外、在京、そして地元の新聞社・雑誌社・テレビ局、海外特派員など、計 300 名以上と会い、OIST の研究内容や研究成果についてアピールしました。また、国内外および地元報道機関による OIST 訪問と取材を数多く受け入れました。	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己評価
	2604 大学院大学のウェブサイト、論文発表データベース、及び本学ウェブサイトのニュース・センターを引き続き改善し、博士課程プログラムや OIST 研究者の論文発表に関する情報の検索を容易にし、本学の写真やビデオ、その他のマルチメディアの活用を促進します。 2605 Facebook、Twitter や You Tube 等のソーシャル・メディアを更に効果的に活用し、本学のホット・トピックを発信します。 2606 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、改善を図ります。		2604 研究科オフィスと協力し、アドミッション・ページを大幅に更新しました。パブリケーション・データベースは、機関レポジトリ・プロジェクトの一環として教員担当学監オフィスに移管しました。質の高い記事や写真はニュース・センターに収められています。今までに撮影した写真をキーワード検索ができる用にアーカイブする非常に重要なプロジェクトは、時間がかかりましたが完了しました。大学関連の写真を FLICKR に移行しました。 2605 現在、OIST の公式フェイスブックのフォロワーは 7000 人を超えています。リサーチに関することは全てツイッターでも送信し、関連映像はユーチューブにて配信されています。2604 にも記載していますが、今後は全ての写真は FLICKR に掲載されます。 2606 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、改善を図りました。	
第 3 章 財務に関する事項				
3 財務に関する事項 目標:	外部資金獲得に係る中期戦略に基づき、引き続き、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄附金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。基盤強化の取組を進めるに当たっては、競争的研究資金や寄附金等の外部資金獲得が要となります。体制を整備し、インセンティブなどの効果的な取組を検討します。			A
3 財務に関する事項 取組:	(競争的資金) 3001 研究資金獲得数は増加しています。この中には、科研費や JST 戦略的創造研究推進事業 (CREST、さががけ)、ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム等が含まれます。OIST が設定した目標に向かって外部資金を増やすために、昨年 11 月に作成した行動計画を実行します。例えば、新規採用の若手教員も加わるなかで、グラント・ファシリテーターを採用するとともに、競争的資金の申請書作成に関するセミナー等を開催し、国内の競争的資金の獲得数増加につながる効果的な取組を進めていきます。これらのセミナーは日英両言語で開催し、申請書の作成においては翻訳支援も提供します。また、リサーチ・サポート・ディビジョンの外部研究資金セクションは、国内外の研究助成金に関する情報収集を引き続き行い、これらの情報を定期的に研究者に提供します。	・競争的資金の申請件数 ・競争的資金の採択状況 (件数及び獲得額) ・外部資金の伸び (総額及び内訳)	(競争的資金) 3001 JSPS 等の外部から受け入れるフェローに対する借上住宅や福利厚生を制度を整備し、OIST 内外からフェローシップに応募しやすい環境を構築しました。科研費においては、申請書作成に関するセミナーを日英両言語で開催しました。また、学内外の科研費審査経験のある卓越した研究者や教授に依頼し、グラント・ファシリテーターとして科研費の申請書のレビューと研究者によるプレゼンでのコメントなど、申請の質の向上を図る取り組みを行いました。グラント・ファシリテーターによるレビューを経て科研費に応募した研究者には、研究費インセンティブを支給することにより、科研費への応募を促進しました。これら制度によって、2015 年度に 76 件だった応募数が、126 件に増えました。(前年度比 165%) また、採択数は 19 件から 28 件に増え、更に増加が見込まれています。外部研究資金セクションでは、国内外の研究助成金に関する情報収集を引き続き行い、これらの情報を定期的に研究者に提供しました。(	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	3002 さらに、国内外の資金提供機関の情報ソースを定期的に確認し、文部科学省の諮問機関等による新規の助成金の案内につながる先行活動についての情報収集を引き続き行います。 3003 研究者が民間セクターや産業界の助成金へ応募することを奨励し、翻訳や編集、予算編成等の作成を支援します。		添付資料 3.1 外部資金・寄付金獲得状況 3002 国内外の資金提供機関のウェブサイトを定期的に確認し、文部科学省や内閣府の諮問機関等による新規の助成金の案内につながる先行活動について教官らと共同して情報収集を引き続き行いました。また、JSPS、JST、AMED から職員を招き、各種競争的資金についてのセミナーや意見交換を行いました。 3003 TDIC では、国や県、民間企業が支援する産学連携関連の共同研究などを管理しています。平成 28 年度は 25 件の資金獲得の機会を提供し、19 件の申請をサポートし、企業との連携を増やし、県や関係機関との関係強化を図りました。これらの積極的な支援の結果、民間企業および国や県からの外部資金が平成 27 年度の 1 億 2400 万円から平成 28 年度は 2 億 3000 万円と 1 億以上増加しました。これは平成 25 年 5 月に策定された「外部資金獲得のための中期戦略」の目標を 1.8 倍上回る結果となりました。	
3 財務に関する事項 取組:	(寄附金) 3004 ファンドレイジングの担当ディレクターを採用し、ファンドレイジング専門オフィスを立ち上げる準備を進めます。 3005 北米と日本の認定ファンドレイザー 2 社と協力して取組を進めます。国内外合わせた取組により本学での寄附金募集活動が始動します。		(寄附金) 3004 学長室に寄付金担当シニア・アソシエイトを採用し、OIST での活動の基盤を整えるため、国内外のネットワークおよび担当者からの情報収集を通して、今後専門オフィスを拡大していくにあたっての具体的な計画の準備に着手しました。 3005 寄付金担当シニア・アソシエイトにより、地域に特化した主要な戦略的市場やビジネス、産業、また寄付文化を踏まえたプランの作成を開始しました。	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項				
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 目標	日本政府による「経済財政運営と改革の基本方針 2015」において、沖縄の自立的経済の強化が示され、本学や他の研究機関を核とする国際的な知的・産業クラスター (R&D クラスター) の形成を推進することが述べられました。 沖縄の自立的発展に寄与するという学園法に定められている設立目的を反映し、知的・産業クラスター (R&D クラスター) の形成を推進するため、本学は平成 26 年度に沖縄の自立的発展担当首席副学長オフィスを設立しました。本オフィスは引き続き、本学の研究室から生まれた発明を同定、特許化、促進し、知的・産業クラスター (R&D クラスター) を沖縄に構築する取組を行います。既存の企業との共同研究開発プロジェクトを更に発展させるとともに、本学の知的財産を基にしたスピンオフ企			A+

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	業の輩出を奨励します。商業化に向けた OIST の発明開発を支援するために、概念実証(POC: Proof of Concept)プログラムを強化していきます。また、国内企業パートナーと既に構築したネットワークに加え、国際ネットワークを発展させることを目指しています。一方、地域コミュニティや地域の学校とも連携・交流を引き続き深め、キャンパスを地域の文化的活動やコミュニティ活動の拠点として発展させます。 (研究交流・共同研究) 4101 連携可能性のある企業の積極的な調査、長期的な関係の構築、企業からの訪問や交流の促進により、引き続き、大手企業とベンチャー企業を含む産業界との研究交流や共同研究を推進します。 4102 POC プログラムや他の技術開発プログラムを通じた技術の商業化支援に重点をおき、起業家精神育成ワークショップを継続して実施します。また、県内において起業家精神を促進するために、引き続き県内の他大学の学生や研究員を受け入れます。 4103 産業知識の習得を促進するため、POC プログラムや他の技術開発プログラムにおける産業界からの講師を強化します。また、産業界と長期的な関係を構築し、技術移転を促進する取組として、産業フェローシップや駐在起業家、産業インターンシップ等の他のプログラムの実行可能性を検証します。 4104 沖縄県から助成を受けているエネルギー、植物、医療、	(研究交流・共同研究) 4101 技術開発イノベーションセンター (TDIC) では産学連携の促進と OIST の研究からの知的財産機会の発展に集点をあてています。 平成 28 年度、TDIC は 11 件の主要企業との受託・共同研究合意が締結(新規 5 件、継続 6 件) 11 件の新たな主要企業との秘密保持契約が締結され、新たな共同研究合意が現在考案中となっています。 - OIST が新たに 46 の企業へ紹介され、共同研究/共同開発の機会を議論しました。 添付資料 4.1 受託研究等及びイベント 4102 OIST 研究者らによって開発された発明を基盤にした起業家の活動を促進するため、第 4 回起業家育成プログラムが計画されました。ワシントン DC のアメリカ国立科学財団、Innovation Corps (I-Corps)Node がグリーン・スタートアップメソッドに基づいた 3 週間の集中的起業家トレーニングプログラムを主導します。16 名の研究者とスタッフがハンズオンアプローチで顧客開発、顧客価値、およびビジネスモデルキャンパスに取り組みました。沖縄の銀行と日本の資金援助機関からもオブザーバーが OIST のプログラムを観察し、学ぶために出席しました。 4103 TDIC は、プルーフ・オブ・コンセプト (POC) または R&D クラスター研究プログラムといった研究資金プログラムを運用することで、技術開発活動を支え、技術専門家および企業専門家のネットワークを構築・拡大し続けています。このプログラムには、これまでに世界中から 40 名以上の専門家が参加しており、レビューアーやメンターとしての役割を果たしています。 4104 沖縄の民間のパートナーと教育機関とともに実施	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
環境生物学の分野における産業関連の 5 つの既存の研究プロジェクトを継続します。また、知識を深め、技術移転を促進するために、当プロジェクトに関連した学会やシンポジウムに貢献します。 4105 翻訳や校正等の面で助成金への応募を積極的に支援し、企業や産業関連の助成金への応募を促進することで資金源の多様化を図ります。新たな資金源を調査し、獲得機会に関するデータベースを保持します。		している、沖縄県から資金提供を受けている 4 つの既存研究プロジェクトの継続が確定しました。 - 知的産業クラスター・プロジェクト（スタートアップ推進プログラム） - 知的産業クラスター・プロジェクト（国際共同研究プログラム） - 亜熱帯/島エネルギー・インフラストラクチャー・テクノロジー研究プロジェクト - 医療産業競争力強化事業 プロジェクトの研究分野には植物、システムバイオロジー、エネルギー、ドラッグディスカバリーが含まれます 4105 TDIC の積極的な支援の結果、民間および政府補助金による外部資金獲得額が平成 27 年度の 1 億 2400 万円よりも 1 億円増え、平成 28 年度には 2 億 3000 万円になりました（添付資料参照）。 新しい産業関連の政府補助金のハイライトは次のとおりです。 - 沖縄県が資金提供している新規 2 件のプロジェクト（外来種対策事業（ヒアリ等対策）、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業） - JST START 事業採択。テーマ：微生物燃料電池を用いた新規エコ廃水処理システムの開発。OIST が START 事業に採択されるのは 2 回目です。 - 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共同研究（5 年）を開始。テーマ：水産物の国際競争に打ち勝つ横断的育種技術と新発想飼料の開発。 5 つのプロジェクトの研究分野には健康、エネルギー、材料科学が含まれ、外部資金獲得額の増加に貢献しました。	
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組 （知的財産管理） 4106 本学のミッションである基礎研究を補い、その研究成果を知的財産として適切に保護するため、研究者からの発明開示を引き続き促進します。 4107 効率的かつ戦略的な知的財産の管理や特許出願において助言を得るため、外部の特許専門家の国際的ネット	・知的財産（発明の開示数、特許申請及び取得数等）	（知的財産管理） 4106 OIST の電子申請システム(EAS)を介した発明の開示手順は、発明をより効率的にかつ効果的に開示できるよう改善されました。これにより発明評価と特許申請の事務処理にかかる時間を削減することが出来ました。更に、生命科学ライセンシングスペシャリストを採用し、この分野での知的財産管理業務の強化を図りました。 4107 外部の特許専門家 2 名(アメリカから 1 名、日本から 1 名)が、既存の外部専門家ネットワークへ組み込まれ	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
	ワークを拡大します。このことにより、外部専門家の層を厚くし、発明評価委員会における質の向上に努めます。 4108 発明開示、特許に関するコミュニケーション、期日、顧客関係、ライセンス契約に関する交渉等を管理するための新たな知的財産管理システムを実行・使用するための標準的な運用手順を作成します。 4109 トレーニングや、イノベーション・セミナーシリーズを含むセミナーやワークショップの開催により、引き続き発明や知的財産保護に関する大学全体の意識の向上に努めます。	ました。結果として、5 カ国合計 26 名のネットワークを構築することができました。 幅広い専門家ネットワークと改善した特許管理手順により、以下の実績につながりました。 ・発明評価委員会により発明開示 9 件を評価 ・平成 27 年度の特許出願数 55 通から平成 28 年度の 86 通へ増加 ・平成 27 年度の特許取得数 6 件から平成 28 年度の 22 件へ増加 4108 IP 管理システム、SOPHIA が発明の開示からライセンス認可に至る日常業務全体を管理できるようカスタマイズされ、他機関との契約管理にも使用範囲が拡大されました。業務の効率化と標準化を確保するために標準運営手順を策定中です。 4109 技術開発イノベーションセンターは、のべ 200 名を超える研究者や職員に発明や知的財産について学ぶ機会を提供しました。 ・学生向け専門能力開発コースとして、日本およびアメリカにおける特許訴訟専門家による知的財産に関する講座 ・技術開発イノベーションセンター職員による毎月の新入社員オリエンテーション ・技術開発イノベーションセンター・研究室訪問プログラムとして、各研究室へ知的財産の概要を説明。平成 28 年度は 6 研究室を訪問。 添付資料 4.2 特許状況	
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	（技術開発及び技術移転） 4110 起業家精神育成を促進するために、OIST からのスピンアウトや OIST 関連のベンチャー起業を支援するサービスのパッケージを構築します。これには OIST の施設・機器利用が含まれます。また、潜在的な新規事業の適性、選考、利益、評価に関するルールを作成・運用します。 4111 知的・産業クラスターや、OIST が専門技術の開発を進めているエネルギー、材料科学、健康、計算科学といった分野に関連するハイレベルな学会や会議の成果を踏まえ、ターゲ	（技術開発及び技術移転） 4110 ベンチャー企業の支援プログラムについて、日本を含む合計 9 カ国の 19 の大学におけるベンチマーク調査を行いました。この調査は、OIST の研究からのベンチャー起業育成及び沖縄県内における起業家精神育成の促進を目的とした新たなプログラムやサービス、インフラ構築のための構想の提案をより強化することにも貢献しました。この構想の提案書は 2017 年度にエグゼクティブに提出され承認を得る予定です。 4111 OIST の知的財産、POC プロジェクト、R&D クラスター研究プロジェクトに関連する産業分野の分析に基づく市場報告書を委託しました。この報告書は基幹産業、	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
ットとする産業分野のビジネス知識を強化し、各分野に特化した戦略を立てます。 4112 バイオ・インターナショナル・コンベンションやバイオジャパン、ナノテクジャパン等、国内外で広く知られるワークショップや展示会への参加を通じて、産業界との交流や関係構築を推進します。 4113 引き続き、科学技術のグローバルなビジネス展開とマーケティングに関する専門性を学内に育成することにより、事業開発に関する取組を促進します。 4114 学内競争的資金の提供及び本学の知的財産の商業化を促進する特定のプロジェクトに対するプロジェクトマネジメントサービスの提供により、POC プログラムの効果的な運用を図ります。更に商業化の段階が進んだプロジェクトに対応するフェーズⅡを含めるべく POC プログラムを拡張するかについて実行可能性を検討します。 4115 OIST テクノロジーを実用化へと結び付けるため、本学研究者と他大学や民間企業の共同研究者が実証試験を行う共同研究室として、第 3 研究棟内に設けた OIST テクノロジー・トランスファー・センターの利用を更に促進します。 4116 内部の優先利用を確保しつつ、他大学や民間企業等		潜在的な共同研究パートナー、ライセンシー、市場規模、競合相手において内部知識を高めるものであり、またこれらは発明者にも共有されます。 4112 技術開発イノベーションセンターの職員が、国内外 9 箇所の会議や展示会に参加しました。 • BIOtech 2016 • BIO International Convention 2016 • 医療機器・開発製造展（東京） • 沖縄県企業誘致セミナー • BioJapan 2016 • China International Industry Fair 2016 • nano tech 2017 • 医療機器・開発製造展（大阪） • BIO Asia International Conference 4113 TDIC のメンバーは、OIST 技術の技術移転や事業開発の専門知識を向上させるため、国内外の 19 の外部専門研修に参加しました。 4114 新たに 7 つのプロジェクトが 2016 年度のプルーフ・オブ・コンセプト（POC）に採択され、進行中のプロジェクトの数は 12 になりました。この新しい 7 つのプロジェクトでは、健康分野、環境分野およびエネルギー分野の研究を進めています。 POC プログラムを 2 つの異なったフェーズに改め、支援内容の拡張を行うための計画が実施されました：フェーズⅠでは、技術の実現可能性を検討することをサポートし、フェーズⅡでは、技術のスケールアップを通じて実用化を進めることを目的とします。この拡張された POC プログラムは 2017 年度から実施されます。 4115 第 3 研究棟内に設けられた 5 モジュールの共同研究室を含むスペースは、「技術開発研究室」として、主に R&D クラスター研究プログラムや POC に関連した技術開発プロジェクトに使用されました。技術開発研究室は、OIST に隣接するインキュベーター施設が設けられるまでの間は、OIST から生まれるスタートアップ企業も使用します。技術開発プロジェクト数の増加に伴って、使用希望者の待機数も増え、スペースは常に満杯となっています。 4116 外部利用の検討に先立って必要となる、科研費等の	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	による本学の研究施設の利用を促進します。(再掲。1.2 参照) 4117 本学の知的財産に基づいたスタートアップ企業が利用するインキュベーター施設を設置する必要性を整理し、利用資格、利用規約、提供されるサービス、資金、マネージメント等に関する標準的な運用手順を検討します。 4118 共同研究契約、受託研究契約、POC プログラムのための特許管理契約等において、契約のドラフトから交渉、締結に至るまで、事業開発セクション及び技術移転セクションを支援します。		外部資金による研究施設の利用に関する仕組みの構築に向けて課題の検討を開始しました。 4117 日本を含む 9 カ国の 19 大学のスタートアップインキュベーターをベンチマーキングしたところ、キャンパス内またはその近くにインキュベーター施設を建築した大学が増えていることが判明しました。さらに、知的財産の増加、産業界との共同研究、POC および R&D クラスタ・プロジェクトの進歩を分析したところ、スタートアップや産業界への技術移転を支援するための専用空間の必要性が高いことがわかりました。この分析に基づき、OIST キャンパスの近くにインキュベーター施設を設立し、スタートアップや商業化プロジェクトのためのスペースとサービスを提供するという提案がなされています。 4118 共同研究、覚書、秘密保持、特許管理を含む産業界との契約締結業務を補助するため、統括弁護士オフィスが専任の職員を採用しました。	
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	(知的・産業クラスター形成に関連する活動) 4119 知的・産業クラスター形成に繋がる交流の機会を増やすため、セミナーやワークショップ、シンポジウム、それに関連する活動を講堂と併用して R&D クラスタールで開催します。 4120 スタートアップ企業のためのインキュベーター施設を知的・産業クラスター形成戦略に組み込みます。 4121 沖縄で開催された知的・産業クラスターに関する国際	・本学が主催した産業発展及び知的・産業クラスター形成に関するシンポジウム、会議、ワークショップの開催数	(知的・産業クラスター形成に関連する活動) 4119 R&D クラスタールホールは正式にカンファレンス・センターと統合されており、現在カンファレンス・センターは学内外の R&D に関連する会議、ワークショップ、セミナー等のため広く利用されています。 4120 OIST キャンパスに近いインキュベーター施設の必要性は、OIST 内の POC プログラムや R&D クラスタールサーチの結果設立されそうなスタートアップ企業の活動を推測する事により評価する事が出来ました。OIST との共同研究を行う民間企業や、出資会社、そして技術の目利きもできるアドバイザーをインキュベーターの運営に加わらせる方策が検討されました。他大学インキュベーター施設の調査を行い、国内のみならず海外の有名大学のインキュベーター施設の見学を行ないました。施設の管理、入居者選び、資源の分配や資金回収方法などを調査しました。県内のベンチャービジネスと財務支援をサポートする目的のため、沖縄振興開発金融公庫と MOU を取り交わしたり、琉球銀行が主催したベンチャー支援「デモデイ」の開催支援も行いました。 4121 沖縄における知的・産業クラスター形成の推進のた	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
ワークショップでの提言の実行に向け、沖縄に知的・産業クラスターを形成するための具体的な取組において、引き続き、内閣府、沖縄県、県内の大学、企業と密接に連携していきます。これには、知的・産業クラスター推進組織設立に向けたタスクフォースの支援、県の戦略的計画委員会への参加、イノベーションを促進する成功事例を共有するための国際コミュニティとの連携の構築が含まれます。 4122 イノベーション・セミナーシリーズのような、大学におけるイノベーションの促進や、科学技術に基づいた知的・産業クラスターの形成をテーマとした国際シンポジウム/ワークショップ/セミナーを開催します。こうしたイベントを優先して知的産業クラスターホールを使用します。 4123 世界市場のニーズの分析に加えて、本学及び沖縄の科学技術能力の分析を進めるために必要な政府及び学術機関と		め、新たなパートナーシップを構築しました。 - 沖縄振興開発金融公庫と産学連携及び地域企業との連携の推進、ならびに沖縄県内におけるベンチャー企業の支援を行うため、覚書を締結しました。 - 沖縄県における沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議の委員が正式に任命されました。 同時に、本年度頻繁に行われた会議や訪問をとおして、沖縄県内だけでなく、政府関係機関、銀行、ベンチャーキャピタル、大手企業を含む日本国内の関係機関との関係も強化されました。 4122 以下のような一連のイベントを開催しました。 - ノーベル生理学・医学賞受賞者でもあるニュー・イングランド・バイオラボの最高科学責任者が、酵素と試薬を元にしたビジネスの成功事例、および研究者による基礎研究の継続／発表を認めるニュー・イングランド・バイオラボのユニークな環境について講演を行いました。セミナーには 78 人が出席し、アカデミアと産業界の連携・協働方法についての生の情報が提供されました。 - Synthetic Genomics 社の最高技術責任者が、合成ゲノミクス技術の開発／応用における技術移転に関して、セミナーを行いました。 - キャンター・コルバーン法律事務所の特許弁護士兼パートナーが、技術専門家を対象としたキャリアパスとしての特許法に関して、セミナーを行いました。 - オリック・ヘリントン&サトクリフ法律事務所東京オフィスのパートナー（知的財産権／ベンチャースタートアップ分野）が、研究科主催の専門的能力開発コースにおいて、知的財産権／技術移転に関する講演を行いました。 - R&D クラスター研究プロジェクトにおける 3 つのエネルギープロジェクトについて、外部専門家パネルによるレビューを知的産業クラスターホールにて実施しました。技術開発イノベーション分野の国際的な専門家を 8 人招き、持続可能なエネルギーの開発に貢献することを目的とした先進プロジェクトの評価を行いました。 4123 米国国務省とのパートナーシップにより、文献・特許を含めた科学技術の成果を計る指標について、一歩進ん	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	のパートナーシップを構築します。この分析を知的・産業クラスター形成に向けた本学の戦略の策定に活用します。また、科学技術のイノベーションがもたらす効果を測定するためのツールの開発に取り組みます。 (知的・産業クラスター形成に関連する研究) 4124 知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究は本学の様々なグループが関わります。特に、沖縄の自立的発展担当首席副学長は学外のパートナーとの交流を図り、相互間の円滑なコミュニケーションを促進し、このような連携活動から生じる経済発展を後押しします。事業開発セクション及び技術移転セクションは沖縄の自立的発展担当首席副学長の下で活動を進めます。このうち、知的・産業クラスター形成推進事業による研究プロジェクトの概要は以下のとおりです。 4125 海洋科学 沖縄の東南アジアに近い地理や自然資源、海洋研究が本学における 5 つの主要な研究分野の一つであることを考慮し、本学の教育研究資源を最大限に活用することを目的に、現在沖縄海洋科学研究センター (OMSC) の基本構想が起草されています。沖縄海洋科学研究センター (OMSC) の主な焦点は「海洋環境における進化の解明」です。提案されている研究分野は以下のとおりです。1) 東南アジアにおけるサンゴ礁の進化、2) 魚類や藻類、微生物、その他の海洋生物とサンゴとの相互作用による共進化、3) 沖縄のサンゴ礁に生息する海洋微生物の時間的・空間的ダイナミクス、4) 熱水噴出口における生態系の起源 本学は、沖縄海洋科学研究センター (OMSC) の重要な目的を達成するため、下記の取組を実施する予定です。 1. 中核となる海洋研究者のグループを採用し、沖縄における	だ分析を行いました。パートナーシップの一環として、米政府がスポンサーとなるサイエンスフェローの受け入れを行い、フェローは初期的な分析を実施することで将来的な分析業務のフレームワークを形成しました。 (知的・産業クラスター形成に関連する研究) 4124 R&D クラスター研究プログラムは、コンセプトそのものや装置、その使用方法や技術、製造や分析方法に至るまでの工程を斬新に発展させるため、高度に革新的な研究に焦点を当てるプログラムとして進化しています。これらの専門性の高いプロジェクトは、産業界から自治体、また地域周辺の OIST 外部のパートナーとの交流などを非常に多く必要とします。POC といった類似する技術開発プログラムとのより効果的な運営を行う目的で、本プログラムは 2016 年度に正式に技術開発イノベーションセンター (TDIC) に移管されました。 満 2 年のプログラム運営を終えた段階で、R&D クラスター研究プログラムに参加する 6 プロジェクトは、外部の技術的または産業界の専門家らにより評価されました。 現在および将来のプロジェクトをより確実に実用的、応用的、移行研究的に導くべく、R&D クラスター研究プログラムの運営方針やその手法は、応募資格、選考方法や評価方法を総合的に見直すことで、その管理運営体制をより発展させました。 4125 海洋科学 沖縄海洋科学研究センター (OMSC) の発展を支えるべく、海洋生態物理学ユニットは国内外の協力者と共に、下記のテーマで研究活動を行いました。(1) 沖縄のサンゴ礁 (2) 熱帯低気圧 (3) 熱水噴出口 (4) 送電式海洋観測システム (5) 集団遺伝学調査 (6) 海洋資源の保全管理 2016 年 10 月には、海洋研究開発機構 (JAMSTEC) との共同研究の一環として、沖縄海溝の熱水噴出口を調査するための研究クルーズを行いました。沖縄の熱水噴出口周辺のプランクトン群生が調査されました。また、海洋物理学調査も実施されました。同様の研究クルーズは、2017 年にも海洋研究開発機構 (JAMSTEC) によって継続実施される予定です。 沖縄の台風に対する海洋の反応が分析され、文献にて報告されました。(Mitarai et al., Geophysical Research Letters, 2016) 最大風速時にはレベル 4 のハリケーンに相当する	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
豊かな海洋環境に関する教育研究を実施するチームを編成します。 2. 外部の共同研究者を沖縄海洋科学研究センター（OMSC）に招聘し、5 人から 10 人で構成される本学の海洋研究における科学的戦略の発展を支援する創設メンバーを選出します。 3. 本学研究者及び共同研究者が常駐可能な実験施設を整備し、第 3 研究棟及び海水の供給可能な沿岸施設（瀬良垣臨海施設）に専用のスペースを設けます。 4. 地元研究者との交流を促進します。現在進行中の琉球大学との共同研究を発展させます。また、国際諮問委員会も設立される予定です。上記に記載した研究テーマや沖縄海洋科学研究センター(OMSC)のコンセプトは政府の「海洋基本計画」の 2-7(2)に記載されている計画に直接対応するものです。		台風が生じた際の大気と海洋間を観察すべく、波用グライダー（液状ロボット工学）という新しい装置が使用されました。 台風時に地上風と気流を同時にモニタリングすることは珍しい活動です。この観測は、沖縄・那覇の地域沿岸警備隊の寛大なサポートによって可能となりました。 熱水噴出口腹足類のミトコンドリアのゲノムを分析し、熱水噴出口周辺生命体の進化プロセスの理解として発表されました。(Nakajima et al. 2016, Marine Genomics) サンゴ礁保全のために、サンゴの集団遺伝学的接続性や遺伝系統を解明しました。(Nakajima et al. 2017, Coral Reefs) また、サンゴ礁地域の更なる集団遺伝学的接続性の理解のために、琉球地域、小笠原諸島、タイ（Ramkhamhaeng 大学の協力）からサンゴのサンプルを集めました。 海産種のエコー識別機能を含む、送電式海洋観測システムの機能向上が、トム・アカマツ氏（Fisheries Agency research Institute）とマイケル・アンドレ氏（カタルーニャ工科大学）とのパートナーシップによって実現しました。また、スクリップス海洋研究所とハワイ・インスティテュート海洋生物学（HIMB）とのパートナーシップ締結が進められています。まずは、海洋生物物理学ユニットの学生一名がハワイ・インスティテュート海洋生物学（HIMB）に 3 週間滞在し、博物館サンプルから集団遺伝学の解析を行うこととなりました。 (a) 自生した、または人工的に植えられたサンゴの集団遺伝学モニタリング手法の開発： 南琉球列島(sRA)におけるコユビミドリイシ、ミドリイシ属集団構造が、ゲノム全般の SNP 分析によって解析されました(Sci. Reports 5: 18211, 2015)。沖縄諸島サンゴ集団の自立的回復と、各地における地域的な保全活動の必要性が示される結果となりました。八重山諸島 (YIs) から沖縄諸島への歴史的な移り住みが明らかになり、また沖縄諸島のサンゴの原種は八重山諸島由来のものが主である可能性が示されました。 (b) ホヤを用いたセルロース生合成の分子機構解析： ホヤ胚抽出物とホヤ由来の遺伝子組み換え型セルロース合成酵素の両方において、セルロースの試験管内合成実験を実施しました。予想に反し、ホヤ合成物の結晶構造は、初期のグルカン鎖が逆平行に詰まった状態で、自然のセルロースのそれとは異なる構造でした。これ	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
4126 エネルギー エネルギー自給の確立は沖縄や日本のような島嶼地域にとって最重要事項です。知的・産業クラスター形成に関連した基礎研究を通じて、本学では、風力や太陽光より安定性を期待できる波や潮の流れを利用した海流発電技術の開発を行っています。また、より効率的な次世代型太陽エネルギー技術の開発や、本学の教職員が居住する宿舎を利用して実験を進めている小規模コミュニティ向けのマイクログリッドを用いた知的電力システムの開発も行っています。同システムにより、各住宅のニーズや供給状況に合った分散電力管理が行えます。さらにより効率的で革新的な太陽電池の開発を進めます。 4127 先端医療 イメージング技術などの粒子線治療技術に対する国家医療プロジェクトへの貢献を果たします。機器の有効性・効率性の		らの結果は、国際特許に申請されました。 (c) キチンの防疫的免疫機能：脊索動物における比較解析を行うことにより、腸内微生物を腸上皮から引き離すバリアを形成するための、脊索動物共通かつ進化的に古い足場としてキチンが働いていることがわかりました。キチンを失うことは、哺乳類が進化的に現れる上で画期的なことであり、それにより粘液質の腸内腔面が新たな腸内細菌叢の生育環境となることが可能となりました。 (d) 海洋微生物由来の生理活性物質を同定するためのゲノム生物学的アプローチ：日本の複数の研究所と共同で、特定の生理活性を持つ二次代謝物質を生成する様々な微生物のゲノムシーケンスを行いました。 4126 エネルギー 【波力発電】波力コンバーター（WEC）では、海岸の波がつぶれるポイントに設置された、小サイズのオープンロータータービンを用います。概念実証のために、低エネルギー条件下において試験が行われました。また、瀬良垣を含む3つの場所における波力エネルギーの潜在性が見積もられました。波がつぶれるエリアにおける測定が、瀬良垣のOIST 沖縄海洋科学研究センター波力テストサイトにおいて、5 台の超音波多層流向流速計と磁力フローセンサーを使用し、2017 年の冬に行われる予定です。CCD カメラも設置されます。初期的な測定は既に実施されました。 【太陽光発電】大型の用ペロブスカイト太陽光発電装置を製造するための、3 つの新型製造技術が開発されました。すなわち CVD 法（化学蒸着法）、スプレーコーティング法、そしてデバイス製造時におけるメチルアミン誘発性結晶化法であり、その全てがデバイスとして有望な性能を示しました。また、履歴現象（ヒステリシス）を伴うペロブスカイト太陽電池用の、新型の特性を測定するためのシステムや手法も開発されました。 【オープンエナジーシステム】 関連する課題全てに対し、大きな進展がありました（システム構築、シミュレーション、DC 機器の設置、建物デザイン）。これらの活動は 10 以上の文献発表につながりました。 4127 先端医療 加速器 BINP(Budker Institute of Nuclear Physics)との共同研究で	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己評価
		実施されたリチウム標的の研究開発では、リチウム基質の開発はほぼ終わりに近づきました。現在は、リチウム蒸着の試験を進行中です。この新しい開発された標的技術を用いて、OIST-BNCT システムの加速器パラメータを一新しました。 イメージング JAXA との共同研究により、高度なドラッグデリバリーシステムを利用した新型の in-vivo 分子イメージング機器である OIST ガントリーの設計と開発が行われました。また、ガンマ線検出器を利用したイメージングに関するワークショップを開催しました。 CSC 三種の実験モデルを基にして癌幹細胞（CSC）の解析を行いました。粒子線治療とマイクロ RNA 治療を併用した GSC 表現形の減少を評価しました。BNCT のためのドラッグデリバリーシステムを開発しました。癌細胞と in vitro におけるその性質を研究しました。 ドラッグデリバリー メソポーラスシリカのナノ粒子を利用したドラッグデリバリーシステムの設計は 2017 年の 2 月に終了し、多機能性のナノ粒子が 2017 年の 3 月に作成されました。	
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	（地域連携に関する取組） 4128 県内の他機関との交流の機会を設け、知的・産業クラスターのコミュニティの発展に繋がります。この中には、大学コンソーシアム沖縄や県による科学技術と産業の推進プログラム、関連テーマを扱う座談会、その他の取組が含まれます。 4129 引き続き、中部病院や南部医療センター、琉球大学医学部等地域の核となる医療機関との交流プログラムを	・視察や来訪者の数（オープン・キャンパスへの来訪者数を含む） ・キャンパスを訪れた県内児童・生徒数 ・県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数 （地域連携に関する取組） 4128 TDIC は知的・産業クラスターのコミュニティの設立／発展のために、引き続き県内の幅広い機関との交流の機会を設けました。 - 新しい沖縄科学技術振興ロードマップの策定を目的とした 3 段階の検討委員会に出席しました。現在は、沖縄科学技術振興ロードマップ推進会議とその関連活動に参加しています。 - 定期的に沖縄経済同友会の会合に出席し、ネットワーク形成と情報交換を行いました。 - 沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議の活動を支援し、更なる交流の可能性について検討を行いました。 - 沖縄産学協働人材育成円卓会議に出席しました。 大学コンソーシアム沖縄に引き続き参加し、2018 年に OIST で開催される全国大学コンソーシアム、第 3 回沖縄学生サミット、日米友好基金フォーラムの計画等の取り組みを支援しました。 4129 南部医療センターにおいて、GO 細胞ユニット柳田教授による講演会を実施し約 50 名の医師等医療スタッフ	

平成 28 年度事業計画	指標	平成 28 年度業績	自己 評価
実施し、科学講演会を開催します。 4130 引き続き多くの訪問者（県内の企業や各種協会等の団体も含む）を得られるよう努めます。同時に、訪問者数の増加により本学の主目的である教育と研究に支障がないよう配慮します。 4131 本学キャンパスで 7 度目となるオープン・キャンパス（一般開放）を実施するとともに、地域の中・高校生や地域住民の参画を促進します。 4132 沖縄県内の児童・生徒に、世界最先端の研究環境を体感し、科学技術分野での進学又は就職への関心を高めてもらうことを目的として、県内学校からの本学キャンパス訪問を積極的に受け入れます。特に、沖縄県教育委員会や県内各高等学校と緊密に連携し、県内の全ての高等学校を対象とする訪問プログラムを引き続き推進します。平成 28 年度内には、県内高校 20 校からの訪問を受け入れます。 4133 県や観光組織との連携により、高度な科学技術教育プログラムを行う本土のスーパー・サイエンス・ハイスクールの本学への訪問を引き続き実施・強化します。 4134 引き続き、全ての学年の児童・学生に対して、本学の教員や外部の著名な科学者による講演会を開催します。 4135 恩納村と協力して、第 7 回恩納村・OIST こども科学教室を開催します。 4136 地元の人々に本学に訪問してもらうために、本学の講堂や他の施設を活用し、コンサート、展示会等文化的なイベントを開催します。 4137 地元教育委員会による英語教育に関する会議及び地域の学校で実施される英語講座への本学関係者の参加促進等により、子供達の英語力及び異文化理解を深めるた		が参加しました。 4130 教育委員会、各学校への文書による案内、また OIST ウェブサイトでの広報により、32,670 名（サイエンスフェスタ入場者 5,200 名を含む）の訪問者がありました。 4131 本年度より名称をサイエンスフェスタに変更し、一般開放を実施し、5,200 名の皆様に 34 の科学プログラムを楽しんでいただきました。250 名の OIST 教員・研究員・学生・事務職員等がボランティアとして参加し、また地元高校生のグループが研究成果を発表しました。 4132 沖縄県教育庁および各地区教育事務所を通じ周知の結果、高校 21 校、1,720 名、中学校 12 校、366 名、小学校 23 校、1,044 名を受入れ、本学の教育、研究について紹介しました。 4133 沖縄コンベンション・ビューローが東京、大阪で実施した「修学旅行フェア」に参加、また全 SSH 指定校に案内を送付し情報を提供しました。結果、7 校 336 名の SSH 指定校の生徒の見学を受け入れました。 4134 サイエンスフェスタに JAXA から研究者を招聘し、講演を実施しました。 4135 8 月 22 日から 26 日の 5 日間第 7 回恩納村・OIST こども科学教室を開催し、6 クラス 110 名の児童が参加しました。33 名の OIST ティーチング・スタッフ及び事務職員、14 名の恩納村学校教員、10 名の大学生インターン、2 名の高校生がボランティアとして教室を手伝いました。 4136 美術展（3 件）、音楽コンサート（3 件）、琉球伝統芸能(1)、演劇（1）を開催し多くの地域住民が参加しました。 4137 OIST と恩納小学校が共同で実施しているインターナショナルクラスは引き続き成功を収めています。出席している生徒は 11 名です。3 年前にはたった 1 名の生徒	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己評価																								
	めに、地元の学校に協力をします。		しかいませんでした。OIST はこのプログラムのためにティーチング・スタッフを提供しています。沖縄での英語教育を改善するために活動している沖縄英語教育を考える会の理事会に、広報ディビジョンのスタッフ 1 名が所属しています。																									
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	（その他の取組） 4138 引き続き、優秀な県内出身者の雇用に努めます。 4139 「沖縄産業まつり」や「沖縄 MICE コンテンツトレードショー」等に参加したように、引き続き、県内の主な文化的、産業的、学術的イベントに参加します。また、米国総領事館及び沖縄県と連携し、沖縄で主要な科学教育競技の一つとなっている、高校生を対象とした起業のための研究能力を競う科学イベント「SCORE」を引き続き実施します。 4140 沖縄県及び沖縄観光コンベンション・ビューローと連携し、より多くの外部主催の国際会議・ワークショップが本学で開催されるよう図ります。	・沖縄出身の職員数（研究者、事務系職員等） ・本学で開催された外部主催の国際会議及びワークショップの数、及びその参加者数	（その他の取組） 4138 今年度の採用 161 名に対し、34 名の沖縄県出身者を雇用しました。（事務方 21 名、ユニット 13 名） <table><tr><td></td><td>事務職他</td><td>技術員</td><td>研究員</td><td>合計</td><td>割合</td></tr><tr><td>沖縄県出身者</td><td>118</td><td>13</td><td>53</td><td>184</td><td>24.6%</td></tr><tr><td>県外</td><td>140</td><td>41</td><td>384</td><td>565</td><td>75.4%</td></tr><tr><td>合計</td><td>258</td><td>54</td><td>437</td><td>749</td><td>100.0%</td></tr></table> 4139 「沖縄産業まつり」「沖電科学作品展」に出展し、OIST の研究教員を紹介し、また、高校生を対象とした起業のための研究能力を競う科学イベント「第 4 回 SCORE」を実施しました。 4140 R&D クラスターホールと講堂を「カンファレンス・センター」として積極的に外部の団体などに貸し出しました。OIST 全体では 47 件の外部団体による施設利用があり、「第 32 回国立大学法人 15 大学理学部長会議」や「第 25 回日本健康教育学会学術大会」「サンゴ礁再生の道筋ー沖縄県サンゴ礁保全再生事業成果発表シンポジウム（さんごの海フェスタ in OIST）」などのイベントに総計で 6 千人以上が参加しました。（2311 再掲）		事務職他	技術員	研究員	合計	割合	沖縄県出身者	118	13	53	184	24.6%	県外	140	41	384	565	75.4%	合計	258	54	437	749	100.0%	
	事務職他	技術員	研究員	合計	割合																							
沖縄県出身者	118	13	53	184	24.6%																							
県外	140	41	384	565	75.4%																							
合計	258	54	437	749	100.0%																							
第 5 章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項																												
5.1 キャンパス整備 目標	引き続き、本学は、計画通り、キャンパスの整備を進めます。			A																								
5.1 キャンパス整備 取組:	5101 平成 26 年度に作成されたマスター・プランに基づき、メインキャンパスの施設等の位置について検討します。 5102 シーサイド・キャンパスの住居開発の可能性について検討します。		5101 2014 年度に作成されたマスター・プランの更新と改訂を開始しました。現在の需要に基づき、道路の新設も含めた将来の住宅整備計画を更新しました。 5102 メイン・キャンパスとシーサイド・キャンパスの住宅のフィージビリティ・スタディを 2016 年度に完了し、																									

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	5103 第 4 研究棟の建設を進めます。 5104 第 4 研究棟につながる道路や橋を含めた設備やインフラの建設を進めます。 5105 既存建造物の管理・維持等を行います。 5106 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき、引き続き、入札スケジュールや結果等の入札及び契約に係る情報の事前・事後の公開等を行い、透明性の確保を図ります。		メイン・キャンパスの住宅開発が優先されるべきであると結論づけました。 5103 第 4 研究棟の建設業者が選定され、建設工事を開始しました。 5104 第 4 研究棟につながる道路の建設と橋の用地造成が 2016 年度の夏に開始されました。 5105 マリン・サイエンス・ステーションおよびエンジニアリング・サポート・ビルを含む 2016 年度に完成したすべてのキャンパス内の建造物が正常に運用・維持されました。 5106 全ての入札を公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき実施し、透明性と公平性を維持しました。	
5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 目標	職員及び学生やその家族を含む大学コミュニティの発展は、大学運営を成功させる上でも重要であることから、引き続きその推進に努めます。人員及びサービスの拡大や、リソース・センターや本設のチャイルド・ディベロップメント・センター（CDC）施設の整備により、教職員の教育及び保育環境の向上を図ります。			A+
5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組	（大学コミュニティの形成） 5201 人事やリソース・センター、がんじゅうサービスによる福利厚生プログラムの実施、内部コミュニケーションサイトの充実、生活関連情報の提供、職員やその家族による活動（OIST Welcome Club 等）、人事、リソース・センター、がんじゅうサービスによるイベントの開催等、職員を始め、その家族も含む大学コミュニティの生活水準の向上を図る取組を引き続き進めます。		（大学コミュニティの形成） 5201 メディカル・センター、がんじゅうサービス、CDC、リソース・センターを含む福利厚生機能は、各施設間の連携をさらに高めるため、これら複数の機能は引き続き一つの組織構造としての形を継続しました。リソース・センターはレジストレーション・デスクの業務を吸収し、新たなリソース・センターが形成されました。 同センターでは、沖縄での生活関連情報を提供し、外国人メンバーに向けて日本語のウェブサイトやチラシに掲載されている情報の理解を手助けしています。 職員、学生、家族間の交流を促進するために、各自が特技を有効活用して助け合える環境を提供するべく、個人の活躍の機会を作ることに努めています。 HR の赴任サポート・チームは、非常に効果的かつ効率的に機能しており、新たに着任するすべての職員や学生から高く評価・感謝されています。リソース・センターと HR の赴任サポート・チームは、それぞれのサ	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	5202 クラブ申請の管理は OIST 公認クラブ運営グループが行っています。本運営グループは各クラブ申請を審査し、受理または却下、また、より頻繁なケースとして、受理する上で変更を求める対応を行います。現在本学には 20 のクラブが設立されています。このようなクラブ活動は、本学の社会的結束を高めるため重要な役割を担っています。 5203 レジストレーションデスクは引き続き客員研究員、招聘ゲストの窓口として対象者をデータベースに登録をし、受入支援を行います。		ービスをより効果的に打ち出した運営ができるように情報を共有したり、任務分担の見直しを始めました。(2407 再掲) 5202 OIST におけるソーシャル・アクティビティは拡大を続け、新しいクラブ活動がいくつか設置されました。 5203 レジストレーション・デスクで担っていた業務は、リソース・センターに移管しました。(2409 再掲)	
5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組	(子弟の教育・保育環境) 5204 CDC 施設を活用し、引き続き質の高い、完全なバイリンガルの保育、学童保育及びホリデー・プログラムを適切な受益者負担のもと提供します。CDC 運営委員会は、引き続き四半期に一度会議を開くとともに、CDC 財務委員会会議を別途行うことにより、園の予算について厳重な注意が常に払われるよう徹底します。 5205 沖縄県や恩納村等の関係する地方公共団体と連携・協力し、英語による教育を受ける機会の拡大等、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図るための取組を進めます。		(子弟の教育・保育環境) 5204 未就学児童向けのてだこプレスクールと学童向けの放課後ホリデー・プログラムでは、各年齢の児童に完全なバイリンガル・プログラムを提供しました。てだこプレスクールでは、121 人の未就学の子供たちがフルタイム保育に、14 人の子供たちがパートタイム保育に参加しました。学童向けの放課後プログラムでは 20 人の学童がアフター・スクール・プログラムに、39 人の学童がホリデー・プログラムに参加しました。 CDC プログラムは、理事会による強力な監督の元にあり、当理事会メンバーは、財務担当副学長、アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長、施設管理担当副学長、広報担当副学長（議長）、大学院大学研究科長、男女共同参画人事担当副学長、教員代表、CDC 園長となっております。 2016 年 3 月には新たに 4 名のメンバーが理事会に加わりました。全員 CDC 児童の父兄です。 理事会は 3 度会合を開きました。もうひとつの監督組織である CDC 予算委員会も、年 3 回の会合を開きました。本委員会は、経理セクション・リーダーが加わることで強化されました。また、てだこプレスクール建造物の増築に向けた入札が行われました。CDC は 2015 年の 30 名から、現在まで急速に拡大してきました。 5205、5206 OIST と恩納小学校が共同で実施しているインターナショナルクラスは引き続き成功を収めています。出席している生徒は 11 名です。3 年前にはたった 1 名の生徒しかいませんでした。OIST はこのプログラムのため	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	5206 恩納小学校との共同プログラムにより、職員の子弟に対して日本の教育システムの下での英語による教育を提供します。 5207 平成 28 年度には、職員とその家族に対して提供される英語及び日本語クラスの数を増やします。語学訓練への需要は非常に高く、英語と日本語におけるコミュニケーション能力は本学の成功の土台です。(再掲。2.4 参照)		にティーチング・スタッフを提供しています。沖縄での英語教育を改善するために活動している沖縄英語教育を考える会の理事会に、広報ディビジョンのスタッフ 1 名が所属しています。(4137 再掲) 5207 英語コースでは 25 のコースが開催され、受講者は計 344 人でした。日本語コースでは 39 のコースが開催され、計 495 人が受講しました。コースはいずれも OIST 職員、学生、またその家族を対象に行われました。(2415 再掲)	
5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組	(学生支援) 5208 学生に対し、良好な社会的・心理的な環境を提供するため、福利厚生を含む様々な支援活動を推進します。(1.1 参照) 5209 スポーツやレクリエーションの機会を増加させることにより、環境を改善します。		(学生支援) 5208 ・学生支援： 県内の他大学に在籍する学生から、ピア・メンター・プログラムを通し日常生活に関する支援が継続して提供されました。 ・全般的な生活支援： 社会文化見学や交流会を企画・開催し、県内の他大学の学生との交流を図りました。 5209 スポーツやレクリエーション施設のコンセプト・デザインを検討・評価し、官民パートナーシップや民間資金の活用を含む様々な財政スキームについて検討しました。	
5.3 安全の確保及び環境への配慮 目標 (1)	リスク・マネジメントの取組を行うとともに、災害から教職員、学生、訪問者等を守るため、必要な防災対策を実施します。			A
5.3 安全の確保及び環境への配慮 取組 (1)	5301 引き続き、大学運営に関する様々なリスクに対応するためのリスク・マネジメント計画を策定します。 5302 職員や学生に対し、安全に関する必要な研修を実施します。 5303 恩納村とも協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。		5301 関連部署と連携して、継続してリスク・マネジメントに取り組みました。 5302 関連部署と連携して、火事や実験室の利用等における安全の確保に関するプログラムを実施しました。 5303 地震に備える訓練を継続的に実施しました。また、災害時における地元との連携を促進するために、恩納村(谷茶区)と協力を進めました。	
5.3 安全の確保及び環境への配慮 目標 (2)	環境に配慮しながら事業を実施します。			A
5.3 安全の確保及び環境への配慮 取組 (2)	5304 リサイクル製品の使用を推進します。 5305 引き続き、温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、その抑制に努めます。		5304 関連部署と連携し、引き続きリサイクル製品の使用を推進しました。 5305 温室効果ガスの排出量を抑えるために、コンサルタントの力を借りて、現在の運営を評価し、抑制に向け取り	

平成 28 年度事業計画		指標	平成 28 年度業績	自己 評価
	5306 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努めます。また併せて地下水への影響が無いようにします。 5307 施設整備に伴う各種建設工事においては、濁水プラント施設を設置するなど、赤土流出対策を十分に行います。 5308 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地の管理を行います。		組みました。また、施設全体のエネルギー管理を行うため「エネルギー管理委員会」を設立しました。 5306 年度を通してメイン・キャンパスとシーサイド・キャンパスをモニターし、周辺水域への環境負担の低減に向け取り組みました。 5307 キャンパスにおける建設工事の全てに環境アセスメントのコンサルタントや専門家が携わることで、十分な赤土流出対策を実施しました。 5308 在来種を保護するために、外来種の除草を継続的に実施し、固有生物種の保護に努めました。	

平成28年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File No.	資料名
1	1. 1-1	学生に関する情報
2	1. 2-1	平成28年度 OIST論文・発表数
3	1. 2-2	平成28年度 研究に関する受賞実績
4	1. 2-3	平成28年度 アウトリーチ活動実績
5	1. 4-1	学術交流協定一覧
6	1. 4-2	平成28年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
7	2. 4-1	平成28年度 職位毎・国籍別職員数
8	2. 4-2	平成28年度 職員の給与水準
9	2. 4-3	平成28年度 研修の受講職員数
10	3. 1	外部資金・寄附金獲得状況
11	4. 1	平成28年度 受託研究等(産学連携)及びイベント
12	4. 2	特許出願状況

List of Attachment Documents to the FY2016 Performance Report

No.	File No.	English Document Name
1	1. 1-1	Students Information
2	1. 2-1	FY2016 OIST Publications and Presentations
3	1. 2-2	FY2016 Research Honors
4	1. 2-3	FY2016 Outreach by Faculty and Researchers
5	1. 4-1	Academic Exchange Agreements List
6	1. 4-2	FY2016 List of OIST Funded Workshops/Mini-Symposia
7	2. 4-1	FY2016 Number of Employees
8	2. 4-2	FY2016 Salary Level of Employee
9	2. 4-3	FY2016 Number of Employees Taking Training Programs
10	3. 1	FY2016 External Grants and Donations Table
11	4. 1	FY2016 Industry-related Collaboration and Innovation Seminars and Events
12	4. 2	Patent Status

学生募集状況 平成29年3月8日時点

添付資料 1. 1-1 学生に関する情報

	応募数	アドミッションワーク ショップ参加者数	合格通知数	入学者数	男性数	女性数	年齢層	国籍	分野	学士号	修士号	出身大学
2012年生	208	80	49	34	24	10	23 (1)	バングラディッシュ(1)	生物学 (12)	16	18	ユニバーシティ・カレッジ・コーク (2)
							24 (4)	中国 (5)	生体医学(2)			インディアン・インスティテュート・オブ・テクノロジー・カラゲプル (1)
							25 (4)	エジプト (2)	化学 (1)			イエール大学 (1)
							26 (3)	エストニア (1)	情報科学 (2)			ウォーリック大学 (1)
							27 (5)	ドイツ (4)	工学 (8)			国立東華大学 (1)
							28 (4)	インド (2)	数学 (2)			慶応大学 (1)
							29 (3)	アイルランド (2)	物理学 (7)			新疆大学 (1)
							30 (2)	日本 (5)				オスナブリュック大学 (2)
							31 (2)	リトアニア (1)				アバディーン大学 (1)
							33 (3)	マレーシア (1)				カイロ・アメリカン大学 (1)
							34 (1)	ナイジェリア (1)				An-Najah National University (1)
							35 (1)	パキスタン (1)				タルトゥ大学 (1)
							41 (1)	フィリピン (1)				セント・アンドルーズ大学 (1)
								台湾 (1)				シンガポール国立大学 (1)
							平均 (28.3)	英国 (1)				ヤーコブス大学(1)
								米国 (3)				ロチェスター工科大学 (1)
								ザンビア (1)				グラム・アイシャク・カーン・インスティテュート・オブ・エンジニアリング・サイエンス・アンド・テクノロジー (1)
								ウエストバンク (1)				電子科技大学 (1)
												中国科学技術大学 (1)
												Anna University (1)
												京都大学 (1)
												ドレスデン工科大学 (1)
												名桜大学 (1)
												南京大学 (1)
												東京大学 (1)
												琉球大学 (1)
												廈門大学 (1)
												カリフォルニア大学サンタクルーズ校 (1)
												Xishuangbanna Tropical Botanical Garden (1)
												Alexandria University (1)
												情報科学芸術大学院大学 (1)
												早稲田大学 (1)
2013年生	398	72	41	20	15	5	23 (3)	日本 (5)	生物学 (10)	10	10	ケンブリッジ大学 (1)
							24 (2)	台湾 (3)	工学 (3)			グラスゴー大学 (1)
							25 (4)	中国 (2)	物理学 (4)			国立台湾大学 (1)
							26 (2)	ニュージーランド (2)	数学 (1)			モスクワ大学 (1)
							27 (4)	インド (1)	情報科学 (2)			オタゴ大学 (1)
							28 (1)	カザフスタン (1)				国立台湾大学 (1)
							31 (2)	ドイツ (1)				東京大学 (1)
							37 (1)	米国 (1)				ジョージ・ワシントン大学 (1)
							40 (1)	バングラディッシュ (1)				オークランド大学 (1)
								フランス (1)				カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 (1)
							平均 (27.2)	ベルギー (1)				南京大学 (1)
								キプロス (1)				リエージュ大学 (1)
												コーネル大学 (1)
												チューリッヒ大学 (1)
												パリ第11大学 (1)
												Jahangirnagar University (1)
												北里大学 (1)
												ドレスデン工科大学 (1)
												国立清華大学 (1)
												エディンバラ大学 (1)

2014年生	応募数	アドミッションワーク ショップ参加者数	合格者数	入学者数	男性数	女性数	年齢層	国籍	分野	学士号	修士号	出身大学
	231	69	40	27	15	12	21 (1)	中国 (2)	生物学 (12)	12	15	Ain Shams University (1)
							22 (6)	エストニア (1)	化学 (2)			アイン・シャムス大学 (1)
							23 (5)	エジプト (1)	情報科学 (1)			カリフォルニア工科大学 (1)
							24 (3)	ドイツ (3)	地球科学 (1)			COCHIN UNNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY (1)
							25 (2)	インド (4)	工学 (1)			インディアン・インスティテュート・オブ・サイエンス・エデュケーション・アンド・リサーチ・コルカタ (2)
							26 (2)	イスラエル (1)	物理学 (10)			神戸大学 (1)
							27 (2)	日本 (6)				南京大学 (2)
							28 (2)	モーリシャス (1)				奈良先端科学技術大学院大学 (1)
							29 (2)	台湾 (1)				国立陽明大学 (1)
							30 (1)	英国 (1)				御茶ノ水大学 (1)
							31 (1)	米国 (6)				大阪大学 (1)
							平均 (24.9)					南イリノイ大学カーボンデール校 (1)
												SRM University (1)
												ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 (1)
												首都大学東京 (1)
												ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン (1)
												カリフォルニア大学バークレー校 (1)
												ケンブリッジ大学 (1)
												エセックス大学 (1)
									マドラス大学 (1)			
			ユーマス・ボストン (1)									
			オスナブリュック大学 (2)									
			ウィスコンシン大学マディソン校 (1)									
			ワイツマン科学研究所 (1)									
2015年生	応募数	アドミッションワーク ショップ参加者数	合格者数	入学者数	男性数	女性数	年齢層	国籍	分野	学士号	修士号	出身大学
	294	86	54	24	17	7	21 (2)	インド (4)	生物学 (7)	5	19	御茶ノ水大学 (1)
							22 (1)	日本 (2)	生体医学 (3)			テヘラン大学 (1)
							23 (4)	イラン (2)	化学 (3)			Sholokhov Moscow State Univ. for Humanities, Russia (2)
							24 (2)	ロシア (2)	情報科学 (1)			オーフス大学 (1)
							25 (1)	台湾 (2)	工学 (1)			国立陽明大学 (1)
							26 (6)	米国 (2)	物理学 (9)			ザ・ユニバーシティ・オブ・ゲルフ・アーボリータム (1)
							27 (3)	ルーマニア (1)				ライス大学 (1)
							29 (1)	ドイツ (1)				スキッドモア大学 (1)
							31 (2)	カナダ (1)				オックスフォード大学 (1)
							33 (1)	マレーシア (1)				ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学 (1)
							35 (1)	中国 (1)				Université de Montréal (1)
							デンマーク (1)		Jagiellonian University Medical College (1)			
							平均 (26.0)	エジプト (1)	中国薬科大学 (1)			
								フィリピン (1)	マハラジャ・サヤジラオ大学 (1)			
								カザフスタン (1)	Faculty of Pharmacy, Ain-shams University (1)			
								英国 (1)	ザ・フィリッピンズ大学 (1)			
									サセックス大学 (1)			
									国立台湾大学 (1)			
									インディアン・インスティテュート・オブ・サイエンス・エデュケーション・アンド・リサーチ・コルカタ (3)			
								Nazarbayev University (1)				
		アバディーン大学 (1)										

	応募数	アドミッションワーク ショップ参加者数	合格者数	入学者数	男性数	女性数	年齢層	国籍	分野	学士号	修士号	出身大学
2016年生	420	88	56	35	18	17	22 (3)	日本 (6)	生物学 (5)	10	25	オーフス大学 (1)
							23 (6)	中国 (4)	生体医学 (2)			テッサロニキ・アリストテレス大学 (1)
							24 (6)	インド (4)	化学 (2)			ダルハウジー大学 (1)
							25 (5)	カザフスタン (2)	情報科学 (1)			スイス連邦工科大学ローザンヌ校 (1)
							26 (4)	フィリピン (2)	工学 (1)			Erasmus Mundus MathMods (1)
							27 (5)	台湾 (2)	環境海洋学 (1)			北海道大学 (1)
							28 (2)	カナダ (1)	数学/計算化学 (2)			インド工科大学、カルカッタ校(2)
							30 (1)	デンマーク (1)	分子細胞生物学 (8)			順天堂大学 (1)
							31 (1)	エジプト (1)	脳科学 (3)			カールスルーエ工科大学 (1)
							34 (2)	ジョージア (1)	物理学 (1)			スウェーデン王立工科大学 (1)
								ドイツ (1)	物理学/物質化学(9)			九州大学 (1)
							平均 (25.6)	ギリシャ (1)				レイクランド大学 (1)
								香港 (1)				マックマスター大学 (1)
								アイルランド (1)				南開大学 (1)
								メキシコ (1)				メキシコ国立自治大学 (1)
								パキスタン (1)				国立台湾大学 (1)
								ペルー (1)				アイルランド国立大学ゴールウェイ校 (1)
								ルーマニア (1)				国立陽明大学 (1)
								スイス (1)				ナザルバエフ大学 (2)
								英国 (1)				大阪市立大学 (1)
								米国 (1)				四川大学 (1)
												創価大学 (1)
												トビリシ国立医科大学 (1)
												カイロ・アメリカン大学 (1)
												香港大学 (1)
												国立サンマルコス大学 (1)
												カルカッタ大学(1)
												エセックス大学 (1)
												サルフォード大学 (1)
												中国科学技術大学 (1)
												フィリピン大学 (1)
												早稲田大学 (1)
												Xishuangbanna Tropical Botanical Garden (1)

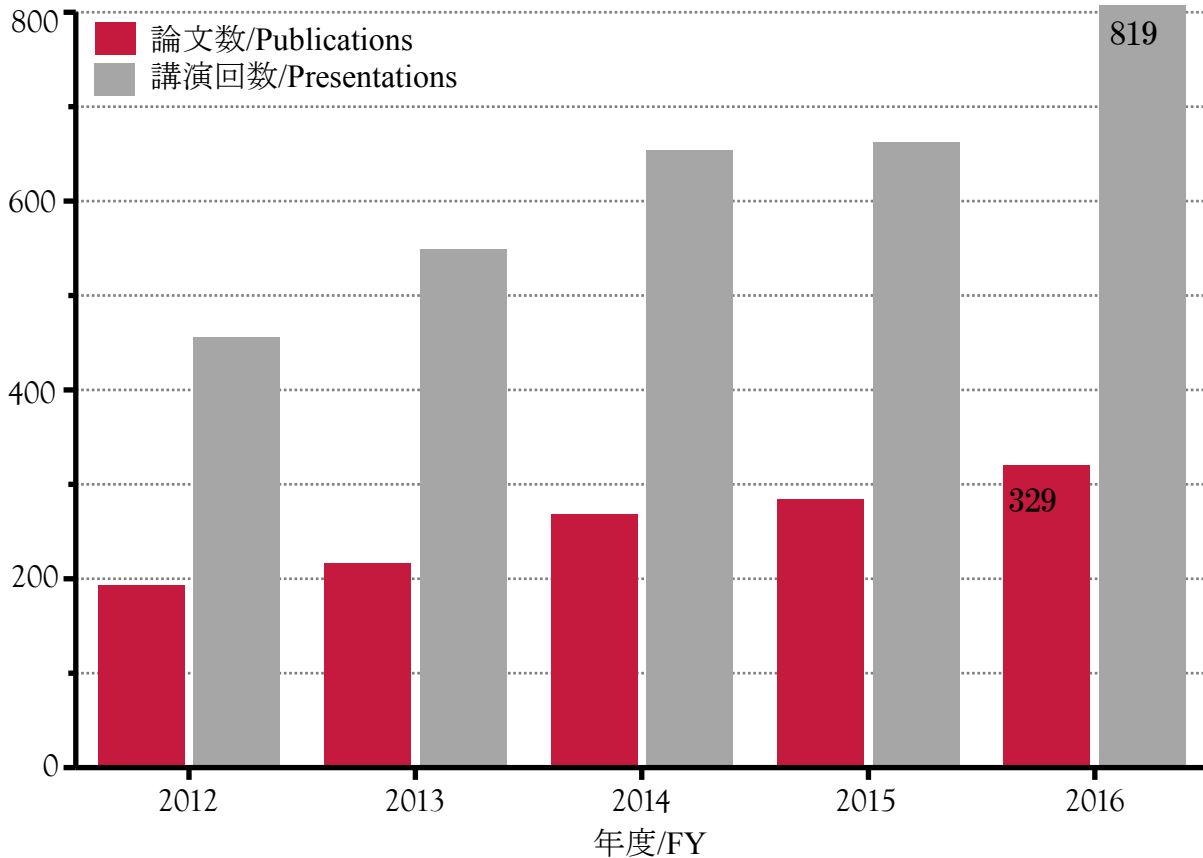
平成 28 年度 OIST 論文発表数・講演回数（研究ユニット別）

	書籍	分担執筆&論文	講演回数	その他	研究ユニット 別の合計
Arbuthnott	0	3	4	0	7
Bandi	0	3	23	0	26
Bourguignon	Starts in May, 2017				0
Busch	0	15	49	1	65
Chakraborty	0	2	20	0	22
Dani	0	8	49	0	57
De Schutter	0	7	20	1	28
Doya	0	11	38	0	49
Economo	0	19	11	0	30
Faculty Affairs	0	1	5	0	6
Feng	0	1	2	0	3
Fried	0	12	33	0	45
Fukunaga	Started February, 2017				0
Gioia	0	2	17	0	19
Goryanin	0	4	4	0	8
Hikami	1	2	17	0	20
Ishikawa	0	1	2	0	3
Jenke-Kodama	0	3	5	0	8
Khusnutdinova	0	4	12	0	16
Kitano	0	7	31	8	46
Konstantinov	0	5	22	0	27
Kuhn	0	1	16	0	17
Kusumi	0	3	4	0	7
Laurino	Starts in September, 2017				0
Luscombe	0	3	6	0	9
Márquez-Lago	0	1	0	0	1
Maruyama	0	2	12	0	14
Masai	0	1	18	0	19
Mikheyev	0	8	8	0	16
Miller	0	0	17	0	17
Mitarai	0	^I 9	4	0	13
Neiman	0	0	4	0	4
Nic Chormaic	0	16	49	1	66
Pigolotti	Starts in July, 2017				0

	書籍	分担執筆&論文	講演回数	その他	研究ユニット 別の合計
Qi	0	21	13	0	34
Research Support Div.	0	7	4	0	11
Rokhsar	0	4	2	0	6
Samatey	0	4	1	0	5
Satoh	1	28	38	0	67
Saze	0	5	3	0	8
Shannon	0	5	37	0	42
Shen	0	15	51	0	66
Shintake	0	1	14	0	15
Sinclair	0	3	2	0	5
Skoglund	0	4	10	1	15
Sowwan	0	6	12	0	18
Stephens	0	3	7	0	10
STG	0	9	11	0	20
Sugawara	0	14	3	0	17
Takahashi	0	2	11	0	13
Tami	Start date not yet determined				0
Tanaka	0	4	6	0	10
Tripp	0	4	6	0	10
Tsvietkova	Starts in September, 2017				0
Uusisaari	Started January, 2017				0
Van Vactor	0	1	1	0	2
Watanabe	0	0	1	0	1
Wickens	0	3	14	0	17
Wolf	0	6	12	0	18
Yamamoto	0	12	27	0	39
Yanagida	0	8	16	0	24
Yazaki-Sugiyama	0	2	3	0	5
Yokobayashi	0	2	4	0	6
Zhang	0	2	8	0	10
合計	2	329	819	12	1162

OIST の論文数・講演回数

OIST journal publications and presentations



平成 28 年度 OIST 論文数・著者別リスト FY2016 OIST Publication List by Author

1. Abdurakhimov, L.V., Yamashiro, R., Badrutdinov, A.O., Konstantinov, D., 2016. Strong Coupling of the Cyclotron Motion of Surface Electrons on Liquid Helium to a Microwave Cavity. *Phys Rev Lett* 117, 1-5.
2. Agmon, E., Gates, A.J., Beer, R.D., 2016. Exploring the Space of Viable Configurations in a Model of Metabolism-Boundary Co-construction. *Artificial Life* 22, 153-171.
3. Aird, S.D., Villar Briones, A., Roy, M.C., Mikheyev, A.S., 2016. Polyamines as Snake Toxins and Their Probable Pharmacological Functions in Envenomation. *Toxins (Basel)* 8, 279-309.
4. Alsop, B., Furukawa, E., Sowerby, P., Jensen, S., Moffat, C., Tripp, G., 2016. Behavioral sensitivity to changing reinforcement contingencies in attention-deficit hyperactivity disorder. *Journal of Child Psychology and Psychiatry* jc.12561.
5. Ando, A.W., Shah, P., 2016. The Economics of Conservation and Finance: A Review of the Literature. *International Review of Environmental and Resource Economics* 8, 321-357.

6. Ando, A.W., Shah, P., 2016. Permanent and Temporary Policy Incentives for Conservation under Stochastic Returns from Competing Land Uses. *The American Journal of Agricultural Economics* 98, 1074-1094
7. Aoki, S., Liu, A.W., Zucca, A., Zucca, S., Wickens, J.R., 2016. New variations for strategy set-shifting in the rat. *Journal of Visualized Experiments*.
8. Araki, M., Bandi, M.M., Yazaki-Sugiyama, Y., 2016. Mind the gap: Neural coding of species identity in birdsong prosody. *Science* 354, 1282-1287.
9. Arrigoni, R., Benzoni, F., Huang, D., Fukami, H., Chen, C.A., Berumen, M.L., Hoogenboom, M., Thomson, D.P., Hoeksema, B.W., Budd, A.F., Zayas, Y., Terraneo, T.I., Kitano, Y.F., Baird, A.H., 2016. When forms meet genes: revision of the scleractinian genera *Micromussa* and *Homophyllia* (Lobophylliidae) with a description of two new species and one new genus. *Contributions to Zoology* 85, 387-422.
10. Badrutdinov, A.O., Smorodin, A.V., Rees, D.G., Lin, J.-Y., Konstantinov, D., 2016. Nonlinear transport of the inhomogeneous Wigner solid in a channel geometry. *Physical Review B* 94, 195311.
11. Bagot, K.L., Murray, A.L., Masser, B.M., 2016. How Can We Improve Retention of the First-Time Donor? A Systematic Review of the Current Evidence. *Transfus Med Rev* 30, 81-91.
12. Ban, T., Sato, G.R., Nishiyama, A., Akiyama, A., Takasuna, M., Umehara, M., Suzuki, S., Ichino, M., Matsunaga, S., Kimura, A., Kimura, Y., Yanai, H., Miyashita, S., Kuromitsu, J., Tsukahara, K., Yoshimatsu, K., Endo, I., Yamamoto, T., Hirano, H., Ryo, A., Taniguchi, T., Tamura, T., 2016. Lyn Kinase Suppresses the Transcriptional Activity of IRF5 in the TLR-MyD88 Pathway to Restrain the Development of Autoimmunity. *Immunity* 45, 319-332.
13. Bandi, M.M., Apt, J., 2016. Variability of the Wind Turbine Power Curve. *Appl Sci-Basel* 6, 1-9.
14. Barker, C.S., Inoue, T., Meshcheryakova, I.V., Kitanobo, S., Samatey, F.A., 2016. Function of the conserved FHIPEP domain of the flagellar type III export apparatus, protein FlhA. *Molecular microbiology* 100, 278-288.
15. Benseny, A., Kiely, A., Zhang, Y., Busch, T., Ruschhaupt, A., 2017. Spatial non-adiabatic passage using geometric phases. *European Physical Journal Quantum Technology* 4, 1-15.
16. Benseny Cases, A., Tena, D., Oriols, X., 2016. On the Classical Schrödinger Equation. *Fluctuation and Noise Letters* 15.
17. Benton, J.O., 2016. Quantum origins of moment fragmentation in Nd₂Zr₂O₇. *Physical Review B* 94, 1-6.
18. Benton, J.O., Jaubert, L., Yan, H., Shannon, N., 2016. A spin-liquid with pinch-line singularities on the pyrochlore lattice. *Nature Communications*, 1-7.
19. Bhalla, N., Lee, D., Sathish, S., Shen, A.Q., 2016. Dual-mode refractive index and charge sensing to investigate complex surface chemistry on nanostructures. *Nanoscale* 9, 547-554.
20. Bhattacharya, D., Agrawal, S., Aranda, M., Baumgarten, S., Belcaid, M., Drake, J.L., Erwin, D., Foret, S., Gates, R.D., Gruber, D.F., Kamel, B., Lesser, M.P., Levy, O., Luo, Y.J., MacManes, M., Mass, T., Medina, M., Mehr, S., Meyer, E., Price, D.C., Putnam, H.M., Qiu, H., Shinzato, C., Shoguchi, E., Stokes, A.J., Tambutte, S., Tchernov, D., Voolstra, C.R., Wagner, N., Walker, C.W., Weber, A.P.M., Weis, V., Zelzion, E., Zoccola, D., Falkowski, P.G., 2016. Comparative genomics explains the evolutionary success of reef-forming corals. *eLife* 5, e13288.
21. Bisquert, J., Qi, Y., Ma, T., Yan, Y., 2017. Advances and Obstacles on Perovskite Solar Cell Research from Material Properties to Photovoltaic Function. *ACS Energy Letters* 2, 520-523.

22. Bredeson, J.V., Lyons, J.B., Prochnik, S.E., Wu, G.A., Ha, C.M., Edsinger-Gonzales, E., Grimwood, J., Schmutz, J., Rabbi, I.Y., Egesi, C., Nauluvula, P., Lebot, V., Ndunguru, J., Mkamilo, G., Bart, R.S., Setter, T.L., Gleadow, R.M., Kulakow, P., Ferguson, M.E., Rounsley, S., Rokhsar, D.S., 2016. Sequencing wild and cultivated cassava and related species reveals extensive interspecific hybridization and genetic diversity. *Nature Biotechnology* 34, 562-570.
23. Brézin, E., Hikami, S., 2017. Random matrix theory with an external source. Springer Singapore, Singapore.
24. Broekmans, O.D., Rodgers, J.B., Ryu, W.S., Stephens, G.J., 2016. Resolving coiled shapes reveals new reorientation behaviors in *C. elegans*. *eLife* 5, 1-17.
25. Brown, M.A., Crosser, M.S., Leyden, M.R., Qi, Y., Minot, E.D., 2016. Measurement of high carrier mobility in graphene in an aqueous electrolyte environment. *Applied Physics Letters* 109, 1-5.
26. Burgard, C., Zaburannyi, N., Nadmid, S., Maier, J., Jenke-Kodama, H., Luxenburger, E., Bernauer, H.S., Wenzel, S.C., 2017. Genomics-Guided Exploitation of Lipopeptide Diversity in *Myxobacteria*. *ACS Chem Biol* 12, 779-786.
27. Cakiroglu, S.A., Zaugg, J.B., Luscombe, N.M., 2016. Backmasking in the yeast genome: encoding overlapping information for protein-coding and RNA degradation. *Nucleic Acids Research* 44, 8065-8072.
28. Campbell, M.A., Nielsen, J.G., Sado, T., Shinzato, C., Kanda, M., Satoh, T.P., Miya, M., 2017. Evolutionary affinities of the unfathomable Parabrotulidae: Molecular data indicate placement of Parabrotula within the family Bythitidae, Ophidiiformes. *Mol Phylogenet Evol* 109, 337-342.
29. Canu, N., Pagano, I., La Rosa, L.R., Pellegrino, M., Ciotti, M.T., Mercanti, D., Moretti, F., Sposato, V., Triaca, V., Petrella, C., Maruyama, I.N., Levi, A., Calissano, P., 2017. Association of TrkA and APP Is Promoted by NGF and Reduced by Cell Death-Promoting Agents. *Frontiers in molecular neuroscience* 10, 1-17.
30. Cardiel, J.J., Takagi, D., Tsai, H.-F., Shen, A.Q., 2016. Formation and flow behavior of micellar membranes in a T-shaped microchannel. *Soft Matter* 12, 8228-8234.
31. Caron, E., Roncagalli, R., Hase, T., Wolski, W.E., Choi, M., Menoita, M.G., Durand, S., Garcia-Blesa, A., Fierro-Monti, I., Sajic, T., Heusel, M., Weiss, T., Malissen, M., Schlappbach, R., Collins, B.C., Ghosh, S., Kitano, H., Aebersold, R., Malissen, B., Gstaiger, M., 2017. Precise Temporal Profiling of Signaling Complexes in Primary Cells Using SWATH Mass Spectrometry. *Cell reports* 18, 3219-3226.
32. Chang, H., Hoshina, N., Zhang, C., Ma, Y., Cao, H., Wang, Y., Wu, D.-d., Bergen, S.E., Landén, M., Hultman, C.M., Preisig, M., Kutalik, Z., Castela, E., Grigoriu-Serbanescu, M., Forstner, A.J., Strohmaier, J., Hecker, J., Schulze, T.G., Müller-Myhsok, B., Reif, A., Mitchell, P.B., Martin, N.G., Cichon, S., Nöthen, M.M., Group, T.S.B.S., Consortium, M.B., Walter, H., Erk, S., Heinz, A., Meyer-Lindenberg, A., Tost, H., Xiao, X., Yamamoto, T., Rietschel, M., Li, M., 2016. The Protocadherin 17 Gene Affects Cognition, Personality, Amygdala Structure and Function, Synapse Development and Risk of Major Mood Disorders. *Molecular Psychiatry*, 1-13.
33. Charney, R.M., Forouzmand, E., Cho, J.S., Cheung, J., Paraiso, K.D., Yasuoka, Y., Takahashi, S., Taira, M., Blitz, I.L., Xie, X., Cho, K.W.Y., 2017. Foxh1 Occupies cis-Regulatory Modules Prior to Dynamic Transcription Factor Interactions Controlling the Mesendoderm Gene Program. *Developmental Cell* 40, 595-607.
34. Chen, W., De Schutter, E., 2017. Time to Bring Single Neuron Modeling into 3D. *Neuroinformatics* 15, 1-3.

35. Chen, W., De Schutter, E., 2017. Parallel STEPS: Large Scale Stochastic Spatial Reaction-Diffusion Simulation with High Performance Computers. *Front Neuroinform* 11, 1-15.
36. Chen, Y.-C., Fosdick, R., Fried, E., 2017. Representation of a Smooth Isometric Deformation of a Planar Material Region into a Curved Surface. *Journal of Elasticity*.
37. Chen, Y.-C., Fried, E., 2016. Möbius bands, unstretchable material sheets and developable surfaces. *P Roy Soc a-Math Phy* 472, 1-16.
38. Choo, J., 2017. Heritable variation in color patterns that mediate individual recognition. *Royal Society Open Science*, 1-9.
39. Chouthaiwale, P.V., Lapointe, S., Tanaka, F., 2016. Synthesis of 4-substituted-pyridine-2,6-dicarboxylic acid derivatives from pyruvates and aldehydes in one pot. *Heterocycles* 95, 1-8.
40. Climent-Pascual, E., Hames, B.C., Moreno-Ramirez, J.S., Alvarez, A.L., Juarez-Perez, E.J., Mas-Marza, E., Mora-Sero, I., de Andres, A., Coya, C., 2016. Influence of the substrate on the bulk properties of hybrid lead halide perovskite films. *Journal of Materials Chemistry A* 4, 18153-18163.
41. Collaboration, H., Takeda, S.I., 2016. The ASTRO-H (Hitomi) X-ray Astronomy Satellite. *Proceedings of SPIE* 9905, 99050U-99051.
42. Collaboration, H., Takeda, S.I., 2016. The quiescent intracluster medium in the core of the Perseus cluster. *Nature* 535, 117.
43. Cresswell, G.D., Apps, J.R., Chagtai, T., Mifsud, B., Bentley, C.C., Maschietto, M., Popov, S.D., Weeks, M.E., Olsen, O.E., Sebire, N.J., Pritchard-Jones, K., Luscombe, N.M., Williams, R.D., Mifsud, W., 2016. Intra-Tumor Genetic Heterogeneity in Wilms Tumor: Clonal Evolution and Clinical Implications. *EBioMedicine* 9, 120-129.
44. Daley, D.O., Skoglund, U., Soderstrom, B., 2016. FtsZ does not initiate membrane constriction at the onset of division. *Scientific Reports* 6, 33138.
45. Daly, M., Troung, V.G., Nic Chormaic, S., 2016. Evanescent field trapping of nanoparticles using nanostructured ultrathin optical fibers. *Optics Express* 24, 14470-14482.
46. Darwell, C.T., Althoff, D.M., 2016. The relative contributions of competition and abiotic tolerances in determining the geographical distributions of four closely related Yucca species in Texas. *Journal of Biogeography*, 1-10.
47. Darwell, C.T., Cook, J.M., 2016. Cryptic diversity in a fig wasp community – morphologically differentiated species are sympatric but cryptic species are allopatric *Molecular Ecology*, 1-31 (Accepted).
48. Darwell, C.T., Rivers, D.M., Althoff, D.M., 2016. RAD-seq phylogenomics recovers a well-resolved phylogeny of a rapid radiation of mutualistic and antagonistic yucca moths. *Syst Entomol* 41, 672-68
49. Das, A., Oda, S., Okada, N., Takahashi, D., 2016. Classically conformal U(1)'extended standard model, electroweak vacuum stability, and LHC Run-2 bounds. *Physical Review D* 93, 24.
50. Das, T., Lookman, T., Bandi, M.M., 2016. Morphology dictated heterogeneous dynamics in two-dimensional aggregates. *Soft Matter* 12, 9674-9682.
51. Del Giudice, F., Greco, F., Netti, P.A., Maffettone, P.L., 2016. Is microrheometry affected by channel deformation? *Biomicrofluidics* 10.
52. Del Giudice, F., Haward, S.J., Shen, A.Q., 2017. Relaxation time of dilute polymer solutions: A microfluidic approach *Journal of Rheology* 61, 327-337.
53. Del Giudice, F., Tassieri, M., Oelschlaeger, C., Shen, A.Q., 2017. When Microrheology, Bulk

Rheology, and Microfluidics Meet: Broadband Rheology of Hydroxyethyl Cellulose Water Solutions. *Macromolecules*, 1-13.

54. Doya, K., 2016. Reinforcement learning as a model of intelligence, in: Makino, T., Shibuya, T., Shirakawa, S. (Eds.), Reinforcement learning as a model of intelligence. Morikita Publishing Co., Ltd., Tokyo, pp. 284-294.
55. Du, D., Katsuyama, Y., Onaka, H., Fujie, M., Satoh, N., Shin-ya, K., Ohnishi, Y., 2016. Production of a Novel Amide-Containing Polyene by Activating a Cryptic Biosynthetic Gene Cluster in *Streptomyces* sp. MSC090213JE08. *Chembiochem* 17, 1-9.
56. Dubey, A., Khaskin, E., 2016. Catalytic Ester Metathesis Reaction and Its Application to Transfer Hydrogenation of Esters. *ACS Catalysis* 6, 3998-4002.
57. Economo, E.P., Janda, M., Guénard, B., Sarnat, E., 2016. Assembling a species-area curve through colonization, speciation and human-mediated introduction. *Journal of Biogeography* N/A, N/A.
58. Elfving, S., Uchibe, E., Doya, K., 2016. From free energy to expected energy: Improving energy-based value function approximation in reinforcement learning. *Neural Networks* 84, 17-27.
59. Espinas, N.A., Saze, H., Saijo, Y., 2016. Epigenetic Control of Defense Signaling and Priming in Plants. *Front Plant Sci* 7, 1-7.
60. Feng, Y., Wang, Y., Palmer, A., Li, L., Silevitch, D.M., Calder, S., Rosenbaum, T.F., 2017. Multiple superconducting states induced by pressure in Mo₃Sb₇. *Physical Review B* 95, 125102.
61. Fermin, A.S.R., Yoshida, T., Yoshimoto, J., Ito, M., Tanaka, S.C., Doya, K., 2016. Model-based action planning involves cortico-cerebellar and basal ganglia networks. *Nature Scientific Reports* 6, 1-14.
62. Ferrer-Ugalde, A., Cabrera-González, J., Juárez-Pérez, E.J., Teixidor, F., Perez-Inestrosa, E., Montenegro, J.M., Sillanpää, R., Haukka, M., Nunez, R., 2016. Carborane-stilbene dyads: influence of substituents and cluster isomers on the photoluminescence properties. *Dalton Transactions*, 1-14.
63. Filonenko, G., Fayzullin, R.R., Khusnutdinova, J., 2017. Intramolecular non-covalent interactions as a strategy towards controlled photoluminescence in copper(i) complexes. *Journal of Materials Chemistry C* 5, 1638-1645.
64. Filonenko, G., Khusnutdinova, J., 2017. Dynamic Phosphorescent Probe for Facile and Reversible Stress Sensing. *Advanced Materials*, 1700563-n/a.
65. Filonenko, G.A., Vrijburg, W.L., Hensen, E.J.M., Pidko, E.A., 2016. On the activity of supported Au catalysts in the liquid phase hydrogenation of CO₂ to formates. *Journal of Catalysis* 343, 97-105.
66. Fischer, G., Sarnat, E.M., Economo, E.P., 2016. Revision and Microtomography of the Pheidole knowlesi Group, an Endemic Ant Radiation in Fiji (Hymenoptera, Formicidae, Myrmicinae). *PloS One* 11, 39.
67. Fogarty, T., Landa, H., Cormick, C., Morigi, G., 2016. Optomechanical many-body cooling to the ground state using frustration. *Physical Review A* 94, 023844.
68. Fotouhi, G., Ogier, C., Kim, J.-H., Kim, S., Cao, G., Shen, A.Q., Kramlichm, J., Chung, J.-H., 2016. A low cost, disposable cable-shaped Al-air battery for portable biosensors. *Journal of Micromechanics and Microengineering* 26, 55011-55018.
69. Friedman, N.R., Remeš, V., 2016. Ecogeographical gradients in plumage coloration among

Australasian songbird clades. *Global Ecol Biogeogr*, 1-14.

70. Fujiwara, T.K., Iwasawa, K., Kalay, Z., Tsunoyama, T.A., Watanabe, Y., Umemura, Y.M., Murakoshi, H., Suzuki, K.G.N., Nemoto, Y.L., Morone, N., Kusumi, A., 2016. Confined diffusion of transmembrane proteins and lipids induced by the same actin meshwork lining the plasma membrane. *Molecular Biology of the Cell* 27, 1101-1119.
71. Funamizu, A., Kuhn, B., Doya, K., 2016. Neural substrate of dynamic Bayesian inference in the cerebral cortex. *Nature Neuroscience*, 1-12.
72. Furukawa, E., Alsop, B., Sowerby, P., Jensen, S., Tripp, G., 2016. Evidence for increased behavioral control by punishment in children with attention-deficit hyperactivity disorder. *The Journal of Child Psychology and Psychiatry* 12635, 1-10.
73. Gallimore, A.R., Strassman, R., 2016. A Model for the Application of Target-Controlled Intravenous Infusion for a Prolonged Immersive DMT Psychedelic Experience. *Frontiers in Pharmacology* 7, 1-11.
74. García-March, M.Á., Fogarty, T., Campbell, S., Busch, T., Paternostro, M., 2016. Non-equilibrium thermodynamics of harmonically trapped bosons. *New Journal of Physics* 18, 1-17.
75. Gatti, G., Marcelli, A., Spataro, B., Dolgashev, V., Lewandowski, J., Tantawi, S.G., Yeremian, A.D., Higashi, Y., Rosenzweig, J., Sarti, S., Caliendo, C., Castorina, G., Cibir, G., Carfora, L., Leonardi, O., Rigato, V., Campostrini, M., 2016. X-band accelerator structures: On going R&D at the INFN. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 829, 206-212.
76. Gavelis, G., Wakeman, K., Ripken, C., Mitarai, S., Herranz, M., Ozebek, S., Holstein, T., Keeling, P.J., Leander, B.S., Tillmann, U., 2017. Microbial arms race: Ballistic “nematocysts” in dinoflagellates represent a new extreme in organelle complexity. *Science Advances Online*
77. Giusteri, G., Lussardi, L., Fried, E., 2017. Solution of the Kirchhoff - Plateau problem. *Journal of Nonlinear Science*, 1-21.
78. Giusteri, G.G., Franceschini, P., Fried, E., 2016. Instability paths in the Kirchhoff-Plateau problem. *Journal of Nonlinear Science* 26, 1097-1132.
79. Glesener, L., Krucker, S., Christe, S., Ishikawa, S.-n., Buitrago-Casas, J.C., Ramsey, B., Gubarev, M., Takahashi, T., Shin, W., Takeda, S.i., Courtade, S., Turin, P., McBride, S., Shourt, V., Hoberman, J., Foster, N., Vievering, J., 2016. The FOXSI solar sounding rocket campaigns. *Proceedings of SPIE* 9905, 1-12.
80. Gomez-Marin, A., Stephens, G.J., Brown, A.E.X., 2016. Hierarchical compression of *Caenorhabditis elegans* locomotion reveals phenotypic differences in the organization of behaviour. *Journal of The Royal Society Interface* 13, 1-9.
81. Grammatikopoulos, P., Kioseoglou, J., Galea, A., Vermieres, J., Benelmekki, M., Diaz, R.E., Sowwan, M., 2016. Kinetic trapping through coalescence and the formation of patterned Ag-Cu nanoparticles. *Nanoscale* 8, 9780-9790.
82. Grezes, C., Kubo, Y., Julsgaard, B., Umeda, T., Isoya, J., Sumiya, H., Abe, H., Onoda, S., Ohshima, T., Nakamura, K., Diniz, I., Auffeves, A., Jacques, V., Roch, J.F., Vion, D., Esteve, D., Moelmer, K., Bertet, P., 2016. Towards a spin-ensemble quantum memory for superconducting qubits. *Cr Phys* 17, 693-704.
83. Guénard, B., Weiser, M.D., Gómez, K., Narula, N., Economo, E.P., 2017. The Global Ant Biodiversity Informatics (GABI) database: synthesizing data on the geographic distribution of ant species (Hymenoptera: Formicidae). *Myrmecological News* 24, 83-89.
84. Haikka, P., Kubo, Y., Audrey, B., Bertet, P., Mølmer, K., 2017. Proposal for detecting a single

electron spin in a microwave resonator. *Physical Review A* 95, 1-10.

85. Han, X., Truong, V.G., Hejazi, S.S.S., Nic Chormaic, S., 2016. Plasmonic trapping based on nanoring devices at low incident powers. *Proc. SPIE Optical Trapping and Optical Micromanipulation XIII* 9922, 1-5.
86. Harada, T., Spence, S., Margiolakis, A., Deckoff-Jones, S., Ploeger, R., Shugar, A.N., Hamm, J.F., M., D.K., R., D.A., 2017. Obtaining cross-sections of paint layers in cultural artifacts using femtosecond pulsed lasers. *Materials* 10, 1-10.
87. Harshana, R., Mark, L., 2017. Temperature cycles affect colonization potential of calanoid copepods. *Journal of Theoretical Biology*, 77-89.
88. Hase, T., Ghosh, S., Palaniappan, S.K., Kitano, H., 2017. Cancer Network Medicine, in: Joseph Loscalzo, A.-L.B., Edwin K. Silverman (Ed.), *Network Medicine: Complex Systems in Human Disease and Therapeutics*. Harvard University Press, Cambridge, MA, USA, pp. 294-323.
89. Haward, S.J., 2016. Microfluidic extensional rheometry using stagnation point flow. *Biomicrofluidics* 10, 1-26.
90. Haward, S.J., McKinley, G.H., Shen, A.Q., 2016. Elastic instabilities in planar elongational flow of monodisperse polymer solutions. *Scientific Reports* 6, 1-18.
91. Haward, S.J., Shen, A.Q., 2017. Microfluidic flows and confinement of wormlike micelles, in: Dreiss, C.A., Feng, Y. (Eds.), *Wormlike Micelles: Advances in Systems, Characterisation and Applications*. RSC Publishing, London, UK, pp. 236-278.
92. Hawash, Z., Ono, L.K., Qi, Y., 2016. Moisture and oxygen enhance conductivity of LiTFSI-doped Spiro-MeOTAD hole transport layer in perovskite solar cells. *Adv Mater Interfaces*, 1-6.
93. Helmkamp, M., Mikheyev, A.S., Kang, Y., Fewell, J., Gadau, J., 2016. Gene expression and variation in social aggression by queens of the harvester ant *Pogonomyrmex californicus*. *Mol Ecol*, 3716-3730.
94. Hepburn, I., Chen, W., De Schutter, E., 2016. Accurate reaction-diffusion operator splitting on tetrahedral meshes for parallel stochastic molecular simulations. *The Journal of Chemical Physics* 145, 1-21.
95. Hepburn, I., Jain, A., Gangal, H., Yamamoto, Y., Tanaka-Yamamoto, K., De Schutter, E., 2017. A Model of Induction of Cerebellar Long-Term Depression Including RKIP Inactivation of Raf and MEK. *Frontiers in molecular neuroscience* 10, 1-11.
96. Hikishima, K., Komaki, Y., Seki, F., Ohnishi, Y., Okano, H.J., Okano, H., 2017. In vivo microscopic voxel-based morphometry with a brain template to characterize strain-specific structures in the mouse brain. *Sci Rep* 7, 1-9.
97. Hita Garcia, F., Fischer, G., Liu, C., Audisio, T.L., Alpert, G.D., Fisher, B.L., Economo, E.P., 2017. X-Ray microtomography for ant taxonomy: An exploration and case study with two new Terataner (Hymenoptera, Formicidae, Myrmicinae) species from Madagascar. *PLOS ONE* N/A, 1-36.
98. Hita Garcia, F., Mbanyana, N., Audisio, T.L., Alpert, G.D., 2017. Taxonomy of the ant genus *Nesomyrmex* Wheeler (Formicidae, Myrmicinae) in the Afrotropical region, with a review of current species groups and description of a new species of the *N-angulatus* group from Mozambique. *Eur. J. Taxon.* 258, 1-31.
99. Hoang, T., Fried, E., 2016. Influence of a spanning liquid film on the stability and buckling of a circular loop with intrinsic curvature or intrinsic twist density. *Mathematics and Mechanics of Solids*, 1-24.

100. Holland, P.W.H., Marlétaz, F., Maeso, I., Dunwell, T.L., Paps, J., 2017. New genes from old: asymmetric divergence of gene duplicates and the evolution of development. *Phil. Trans. R. Soc. B.* 372, 11.
101. Hong, S., Negrello, M., Junker, M., Smilgin, A., Thier, P., De Schutter, E., 2016. Multiplexed coding by cerebellar Purkinje neurons. *eLife* 5, 1-19.
102. Hsin, K.-Y., Matsuoka, Y., Asai, Y., Kamiyoshi, K., Watanabe, T., Kawaoka, Y., Kitano, H., 2016. systemsDock: a web server for network pharmacology-based prediction and analysis. *Nucleic Acids Res* 44, 507-513.
103. Ihara, N., Nakashima, A., Hoshina, N., Ikegaya, Y., Takeuchi, H., 2016. Differential expression of axon-sorting molecules in mouse olfactory sensory neurons. *The European journal of neuroscience* 44, 1998-2003.
104. Iida, M., Kondo, M., Tabouret, H., Maeda, K., Pécheyran, C., Hagiwara, A., Keith, P., Tachihara, K., 2016. Specific gravity and migratory patterns of amphidromous gobioid fish from Okinawa Island, Japan. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology* 486, 160-169.
105. Inoue, A., Uchida, H., Nakazawa, T., Yamamoto, T., Ito, S., 2016. Phosphorylation of NMDA receptor GluN2B subunit at Tyr1472 is important for trigeminal processing of itch. *The European journal of neuroscience* 44, 2474-2482.
106. Inoue, H., Sugimoto, S., Takeshita, Y., Takeuchi, M., Hatanaka, M., Nagao, K., Hayashi, T., Kokubu, A., Yanagida, M., Kanoh, J., 2017. CK2 phospho-independent assembly of the Tel2-associated stress-signaling complexes in *Schizosaccharomyces pombe*. *Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms* 22, 59-70.
107. Inoue, J., Yasuoka, Y., Takahashi, H., Satoh, N., 2017. The chordate ancestor possessed a single copy of the *Brachyury* gene for notochord acquisition. *Zoological Letters* 3, 1-7.
108. Ishikawa, H., Barber, G.N., 2017. STING: a new adjuvant target, in: Ishii, K. (Ed.), *Scientific Mechanism of Action towards Safe Vaccine Adjuvant Development*. CMC Chiyoda-ku, Tokyo, Japan, pp. 93-97.
109. Ishikawa, S.-n., Katsuragawa, M., Watanabe, S., Uchida, Y., Takeda, S.i., Takahashi, T., Saito, S., Glesener, L., Buitrago-Casas, J.C., Krucker, S.m., Christe, S., 2016. Fine-pitch CdTe detector for hard X-ray imaging and spectroscopy of the Sun with the FOXSI rocket experiment. *Journal of Geophysical Research: Space Physics* 121, 6009-6016.
110. Jaitrong, W., Guénard, B., Economo, E.P., Buddhakala, N., Yamane, S., 2016. A Checklist of known ant species of Laos (Hymenoptera: Formicidae). *Asian Myrmecology* 8, 1-32.
111. Janssens, S.D., Koizumi, S., Fried, E., 2017. Behavior of self-propelled droplets in a Leidenfrost state on liquid substrates. *Physics of Fluids* 29, 11.
112. Jiang, Y., Juarez-Perez, E.J., Ge, Q., Wang, S., Leyden, M.R., Ono, L.K., Raga, S.R., Hu, J., Qi, Y., 2016. Post-annealing of MAPbI₃ perovskite films with methylamine for efficient perovskite solar cells. *Materials Horizons*, 548-555.
113. Johannes, S., Fried, E., 2017. Stability of vertical magnetic chains. *Proceedings of the Royal Society of London Series A, Mathematical Physical and Engineering Sciences* 473, 1-25.
114. Juarez-Perez, E.J., Hawash, Z., Raga, S.R., Ono, L.K., Qi, Y., 2016. Thermal degradation of CH₃NH₃PbI₃ perovskite into NH₃ and CH₃I gases observed by coupled thermogravimetry-mass spectrometry analysis. *Energ Environ Sci*, 3406-3410.
115. Juarez-Perez, E.J., Leyden, M.R., Wang, S.H., Ono, L.K., Hawash, Z., Qi, Y., 2016. Role of the Dopants on the Morphological and Transport Properties of Spiro-MeOTAD Hole Transport Layer. *Chemistry of Materials* 28, 5702-5709.

116. Jung, M.-C., Qi, Y., 2016. Dopant interdiffusion effects in n-i-p structured spiro-OMeTAD hole transport layer of organometal halide perovskite solar cells. *Org Electron* 31, 71-76.
117. Jyothi, S., Ray, T., Dutta, S., Allouche, A.R., Vexiau, R., Dulieu, O., Ramgwala, S.A., 2016. Photodissociation of trapped Rb^{2+} : Implications for hybrid molecular ion-atom trapping. *Phys. Rev. Lett* 117, 1-5.
118. Kasumie, S., Miyamoto, M., Tanaka, A., 2016. Adiabatic excitation of a confined particle in one dimension with a variable infinitely sharp wall. *Physical Review A* 93, 1-5.
119. Katano, T., Fukuda, M., Furue, H., Yamazaki, M., Abe, M., Watanabe, M., Nishida, K., Yao, I., Yamada, A., Hata, Y., Okumura, N., Nakazawa, T., Yamamoto, T., Sakimura, K., Takao, T., Ito, S., 2016. Involvement of Brain-Enriched Guanylate Kinase-Associated Protein (BEGAIN) in Chronic Pain after Peripheral Nerve Injury. *eNeuro* 3, 1-18.
120. Kataoka, J., Takeda, S.i., Takahashi, T., 2016. Compton Cameras for Visualization of Radioactive Isotopes, *Japanese Journal of Optics*, pp. 289-299.
121. Katsuragawa, M., Takeda, S.i., Sato, G., Harayama, A., Kennedy, P.K., Deasy, K., Watanabe, S., Takahashi, T., 2016. Compact hard X-ray imaging system with a large FOV. *Proceedings of SPIE* 9905, 1-7.
122. Katsuyama, Y., Sone, K., Satou, R., Izumikawa, M., Takagi, M., Fujie, M., Satoh, N., Shin-Ya, K., Ohnishi, Y., 2016. Involvement of the Baeyer-Villiger Monooxygenase IfnQ in the Biosynthesis of Isofuranonaphthoquinone Scaffold of JBIR-76 and -77. *Chembiochem* 17, 1021-1028.
123. Kawakami, E., Nakaoka, S., Ohta, T., Kitano, H., 2016. Weighted enrichment method for prediction of transcription regulators from transcriptome and global chromatin immunoprecipitation data. *Nucleic Acids Res* 44, 5010-5021.
124. Kawamura, K., Shimizu, M., Kawanabe, T., Pu, Z., Kodama, T., Kaji, M., Osabe, K., Fujimoto, R., Okazaki, K., 2016. Assessment of DNA markers for seed contamination testing and selection of disease resistance in cabbage. *Euphytica* 213, 1-14.
125. Kawanabe, T., Ishikura, S., Miyaji, N., Sasaki, T., Wu, L.M., Itabashi, E., Takada, S., Shimizu, M., Takasaki-Yasuda, T., Osabe, K., Peacock, W.J., Dennis, E.S., Fujimoto, R., 2016. Role of DNA methylation in hybrid vigor in *Arabidopsis thaliana*. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 113, E6704-E6711.
126. Keen, N., George, D., Scragg, P., Peters, E., 2017. The role of shame in people with a diagnosis of schizophrenia. *Br J Clin Psychol*.
127. Keller, T., Fogarty, T., 2016. Probing the out-of-equilibrium dynamics of two interacting atoms. *Physical Review A* 94, 1-9.
128. Kiely, A., Benseny Cases, A., Busch, T., Ruschhaupt, A., 2016. Shaken not stirred: creating exotic angular momentum states by shaking an optical lattice. *Journal of Physics B: Atomic, Molecular and Optical Physics* 49, 1-11.
129. Kim, J.H., Benelmekki, M., 2016. Interfacial Transformation of an Amorphous Carbon Nanofilm upon Fe@Ag@Si Nanoparticle Landing and its Colloidal Nanoscrolls: Enhanced Nanocompositing-Based Performance for Bioapplications. *Acs Applied Materials & Interfaces* 8, 33121-33130.
130. Kim, T., Song, B.H., Lunt, A.J.G., Cibir, G., Dent, A.J., Lu, L., Korsunsky, A.M., 2016. Operando X-ray Absorption Spectroscopy Study of Atomic Phase Reversibility with Wavelet Transform in the Lithium-Rich Manganese Based Oxide Cathode. *Chemistry of Materials* 28, 4191-4203.
131. Kim, T., Song, B.H., Lunt, A.J.G., Cibir, G., Dent, A.J., Lu, L., Korsunsky, A.M., 2016. In

- operando X-ray absorption spectroscopy study of charge rate effects on the atomic environment in graphene-coated Li-rich mixed oxide cathode. *Mater Design* 98, 231-242.
132. Kinoshita, M., Kusumi, A., Suzuki, K.G.N., Matsumori, N., Takada, M., Ando, H., Morigaki, K., Abe, M., Makino, A., Kobayashi, T., Hirose, K.M., Fujiwara, T.K., Murata, M., 2016. Raft-based sphingomyelin interactions revealed by new fluorescent sphingomyelin analogs. *Journal of Cell Biology* 216, 1-22.
 133. Kitano, H., 2016. Scientific Discovery by Artificial Intelligence, *Chemistry Today*, pp. 38-40.
 134. Kitano, H., 2016. Biological Complexity and the need for Computational Approaches, in: Green, S. (Ed.), *Philosophy of Systems Biology: Perspectives from Scientists and Philosophers*. Springer International Publishing, Cham, ZG, Switzerland, pp. 169-180.
 135. Kitano, H., 2017. In Pursuit of a Grand Challenge, *Journal of Information Processing Society of Japan*, pp. 270-271.
 136. Kobayashi, K., Ohshiro, T., Tomoda, H., Yin, F., Cui, H.-L., Chouthaiwale, P.V., Tanaka, F., 2016. Discovery of SOAT2 Inhibitors from Synthetic Small Molecules. *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters* 26, 5899-5901.
 137. Kobori, S., Yokobayashi, Y., 2016. High-throughput mutational analysis of a twister ribozyme. *Angewandte Chemie* 55, 10354-10357.
 138. Kodama, H., Miyata, Y., Kuwajima, M., Izuchi, R., Kobayashi, A., Gyoja, F., Onuma, T.A., Kumano, G., Nishida, H., 2016. Redundant mechanisms are involved in suppression of default cell fates during embryonic mesenchyme and notochord induction in ascidians. *Developmental Biology* 416, 162-172.
 139. Komiya, R., 2016. Biogenesis of diverse plant phasiRNAs involves an miRNA-trigger and Dicer-processing *Journal of Plant Research* 130, 17-23.
 140. Komura, N., Suzuki, K.G.N., Ando, H., Konishi, M., Koikeda, M., Imamura, A., Chadda, R., Fujiwara, T.K., Tsuboi, H., Sheng, R., Cho, W., Furukawa, K., Furukawa, K., Yamauchi, Y., Ishida, H., Kusumi, A., Kiso, M., 2016. Raft-based interactions of gangliosides with a GPI-anchored receptor. *Nat Chem Biol* 12, 402-414.
 141. Kondoh, H., Yanagida, M., 2016. Reply to Makinen and Ala-Korpela: Small-scale but accurate metabolomics with high reproducibility for identifying age-related blood metabolites. *Proc Natl Acad Sci U S A* 113, E3471-3472.
 142. Kumar, R., Gokhroo, V., Tiwari, V.B., Nic Chormaic, S., 2016. Temperature measurement of cold atoms using transient absorption of a resonant probe through an optical nanofibre. *Journal of Optics* 18, 115401.
 143. Kumar, S., Drozd, V., Durygin, A., Saxena, S.K., 2016. Capturing CO₂ Emissions in the Iron Industries using a Magnetite-Iron Mixture. *Energy Technol-Ger* 4, 560-564.
 144. Kureha, T., Akiyama, T., Morita, M., Ichijo, H., Yamamoto, T., 2016. Poly(A) shortening of ASK1 mRNA contributes to positive selection of thymocytes through impairment of TCR-induced stress response. *Eur J Immunol* 46, 976-976.
 145. Kuwamura, T., Suzuki, S., Kadota, T., 2016. Interspecific variation in the spawning time of labrid fish on a fringing reef at Iriomote Island, Okinawa. *Ichthyological Research* 63, 460-469.
 146. Kuwamura, T., Suzuki, S., Kadota, T., 2016. Male-to-female sex change in widowed males of the protogynous damselfish *Dascyllus aruanus*. *J Ethol* 34, 85-88.
 147. Lasky, J.R., Keitt, T.H., Weeks, B.C., Economo, E.P., 2016. A hierarchical model of whole assemblage island biogeography. *Ecography* 39, 1-9.
 148. Le Kien, F., Rauschenbeutel, A., 2017. Nanofiber-mediated chiral radiative coupling between

two atoms. *Physical Review A* 95, 023838.

149. Lee, M.V., Raga, S.R., Kato, Y., Leyden, M.R., Ono, L.K., Wang, S., Qi, Y., 2016. Transamidation of dimethylformamide during alkylammonium lead triiodide film formation for perovskite solar cells. *Journal of Materials Research*, 1-11.
150. Leyden, M., Ryan, Jiang, Y., Qi, Y., 2016. Chemical vapor deposition grown formamidinium perovskite solar modules with high steady state power and thermal stability. *Journal of Materials Chemistry A*, 1-8.
151. Li, G., Sasaki, T., Asahina, S., Michael C, R., Mochizuki, T., Koizumi, K., Zhang, Y., 2017. Patching of Lipid Rafts by Molecular Self-Assembled Nanofibrils Suppresses Cancer Cell Migration. *Chem* 2, 283 - 298.
152. Li, T., Amari, T., Semba, K., Yamamoto, T., Takaoka, S., 2016. Construction and evaluation of pH-sensitive immunoliposomes for enhanced delivery of anticancer drug to ErbB2 over-expressing breast cancer cells. *Nanomedicine : Nanotechnology, Biology, and Medicine*, 1-8.
153. Li, X., Morita, M., Kikuguchi, C., Takahashi, A., Suzuki, T., Yamamoto, T., 2016. Adipocyte-specific disruption of mouse Cnot3 causes lipodystrophy. *FEBS letters*, 358-368.
154. Liu, C., Guenard, B., Blanchard, B., Peng, Y.-Q., Economo, E.P., 2016. Reorganization of taxonomic, functional, and phylogenetic ant biodiversity after conversion to rubber plantation. *Ecol. Monogr.* 86, 215-227.
155. Liu, C., Liu, X.Y., Xu, Y., Sun, H.B., Li, Y., Shi, Y., Lee, M.V., Yamada, T., Hasegawa, T., Noh, Y.Y., Minari, T., 2017. Generating one-dimensional micro- or nano-structures with in-plane alignment by vapor-driven wetting kinetics. *Materials Horizons* 4, 259-267.
156. Liu, C.-c., Cerbus, R., Chakraborty, P., 2016. Janus Spectra in Two-Dimensional Flows. *Physical Review Letters* 117, 114502.
157. Lopez-Huerta, V.G., Nakano, Y., Bausenwein, J., Jaidar, O., Lazarus, M., Cherasse, Y., Garcia-Munoz, M., Arbuthnott, G., 2016. Erratum to: The neostriatum: two entities, one structure? *Brain Struct Funct* 221, 1789.
158. Lopez-Huerta, V.G., Nakano, Y., Bausenwein, J., Jaidar, O., Lazarus, M., Cherasse, Y., Garcia-Munoz, M., Arbuthnott, G., 2016. The neostriatum: two entities, one structure? *Brain Struct Funct* 221, 1737-1749.
159. Madéo, J., Todorov, Y., Gilman, A., Frucci, G., Li, L., Linfield, E., Sirtori, C., Dani, K.M., 2016. Patch antenna microcavity terahertz sources with enhanced emission. *Applied Physics Letters* 109, 1-5.
160. Madugani, R., Yang, Y., Le, V.H., Ward, J.M., Nic Chormaic, S., 2016. Linear laser tuning using a pressure-sensitive microbubble resonator. *IEEE Photonics Technology Letters* 28, 1134-1137.
161. Maeda, K., 2016. What is amphidromy? A discussion of various migration patterns, *Aquabiology*. Seibutsu Kenkyu-sha, Tokyo, pp. 350-355.
162. Maimaiti, A., Holzmam, D., Truong, V.G., Ritsch, H., Nic Chormaic, S., 2016. Nonlinear force dependence on optically bound micro-particle arrays in the evanescent fields of fundamental and higher order microfibre modes. *Scientific Reports* 6, 30131.
163. Man, M.K.L., Margiolakis, A., Deckoff-Jones, S., Harada, T., Wong, E.L., Mariserla, B.M.K., Madéo, J., Winchester, A., Lei, S., Vajtai, R., Ajayan, P.M., Dani, K.M., 2016. Imaging the motion of electrons across semiconductor heterojunctions. *Nature Nanotechnology* (advanced online publication), 36-41.
164. Marin, F., Bundeleva, I., Takeuchi, T., Immel, F., Medakovic, D., 2016. Organic matrices in metazoan calcium carbonate skeletons: Composition, functions, evolution. *Journal of*

165. Maruyama, I.N., 2017. Receptor Guanylyl Cyclases in Sensory Processing. *Front Endocrinol* 7, 1-11.
166. Matsunami, H., Barker, C.S., Yoon, Y.-H., Wolf, M., Samatey, F.A., 2016. Complete structure of the bacterial flagellar hook reveals extensive set of stabilizing interactions. *Nature Communications*, 1-10.
167. Matsunami, H., Yoon, Y.-H., Meshcheryakov, V.A., Namba, K., Samatey, F.A., 2016. Structural flexibility of the periplasmic protein, FlgA, regulates flagellar P-ring assembly in *Salmonella enterica*. *Scientific Reports* 6, 27399.
168. Matysioková, B., Friedman, N.R., Turčoková, L., Remeš, V., 2017. The evolution of feather coloration and song in Old World orioles (genus *Oriolus*). *Journal of Avian Biology* N/A, 1-32 (Accepted).
169. Mekhail, S.P., Arbuthnott, G., Nic Chormaic, S., 2016. Advances in fibre microendoscopy for neuronal imaging. *Optical Data Processing and Storage* 2, 30-42.
170. Mekhail, S.P., Jáidar, O., Arbuthnott, G., Nic Chormaic, S., 2016. Fiber Bundle in-vivo Epifluorescence Microscopy with Image Reconstruction. *OSA Technical Digest Biomedical Optics* 2016.
171. Menchon-Enrich, R., Benseny, A., Ahufinger, V., Greentree, A.D., Busch, T., Mompart, J., 2016. Spatial adiabatic passage: a review of recent progress. *Reports on Progress in Physics* 79, 1-34.
172. Meshcheryakov, V.A., Wolf, M., 2016. Crystal structure of the flagellar accessory protein FlaH of *Methanocaldococcus jannaschii* suggests a regulatory role in archaeal flagellum assembly. *Protein Sci* 25, 1147-1155.
173. Meyer, J., Ohmann, R., Nickel, A., Toher, C., Gresser, R., Leo, K., Ryndyk, D.A., Moresco, F., Cuniberti, G., 2016. Influence of organic ligands on the line shape of the Kondo resonance. *Physical Review B* 93, 1-6.
174. Michiue, T., Yamamoto, T., Yasuoka, Y., Goto, T., Ikeda, T., Nagura, K., Nakayama, T., Taira, M., Kinoshita, T., 2017. High variability of expression profiles of homeologous genes for Wnt, Hh, Notch, and Hippo signaling pathways in *Xenopus laevis*. *Developmental Biology* in press, 1-21.
175. Mitarai, S., McWilliams, J.C., 2016. Wave glider observations of surface winds and currents in the core of Typhoon Danas. *Geophysical Research Letters* 43, 11,312-311,319.
176. Miyake, K., Saito, S., Nakano, T., Hagino, K., Kobayashi, S.B., Okuda, K., Mimura, T., Sato, G., Watanabe, S., Kokubun, M., Nakazawa, K., Takeda, S.i., Tajima, H., Fukazawa, Y., Takahashi, T., 2016. Effects on hard X-ray response of a double-sided Si strip detector caused by interstrip surface charge. *Proceedings of SPIE* 9968, 1-11.
177. Mochizuki, T., Luo, Y.-J., Tsai, H.-F., Hagiwara, A., Masai, I., 2017. Cell division and cadherin-mediated adhesion regulate lens epithelial cell movement in zebrafish. *Development* 144, 708-719.
178. Mohamed, A., Cumbo, V., Harii, S., Shinzato, C., Chan, C.X., Ragan, M., Bourne, D., Willis, B., Ball, E., Satoh, N., Miller, D., 2016. The transcriptomic response of the coral *Acropora digitifera* to a competent *Symbiodinium* strain: the symbiosome as an arrested early phagosome. *Molecular Ecology* 25, 3127-3141.
179. Morandin, C., Mikheyev, A.S., Pedersen, J.S., Helanterä, H., 2017. Evolutionary constraints shape caste specific gene expression across 15 ant species. *Evolution; international journal of organic evolution*, 1-37 (Accepted).

180. Morandin, C., Tin, M.M., Abril, S., Gomez, C., Pontieri, L., Schiott, M., Sundstrom, L., Tsuji, K., Pedersen, J.S., Helantera, H., Mikheyev, A.S., 2016. Erratum to: Comparative transcriptomics reveals the conserved building blocks involved in parallel evolution of diverse phenotypic traits in ants. *Genome Biol* 17.
181. Morgan, S.G., Shanks, A.L., Fujimura, A.G., Reniers, A.J.H.M., MacMahan, J., Griesemer, C.D., Jarvis, M., Brown, J., 2016. Surfzone hydrodynamics as a key determinant of spatial variation in rocky intertidal communities. *Proceedings of the Royal Society B-Biological Sciences* 283.
182. Mori, Y., Eguchi, K., Yoshii, K., Ohtubo, Y., 2016. Selective expression of muscarinic acetylcholine receptor subtype M3 by mouse type III taste bud cells. *Pflugers Arch*, 1-7.
183. Moriyama, F., Tanaka, T., 2016. Chemical risk assessment at Research Institutions. *Journal of Environment and Safety* 7, 121-124.
184. Morozova, I., Flegontov, P., Mikheyev, A.S., Bruskin, S., Asgharian, H., Ponomarenko, P., Klyuchnikov, V., Arunkumar, G., Prokhortchouk, E., Gankin, Y., Rogaev, E., Nikolsky, Y., Baranova, A., Elhaik, E., Tatarinova, T.V., 2016. Toward high-resolution population genomics using archaeological samples. *DNA Research* 23, 295-310.
185. Nakajima, Y., Nishikawa, A., Iguchi, A., Nagata, T., Uyeno, D., Sakai, K., Mitarai, S., 2017. Elucidating the multiple genetic lineages and population genetic structure of the brooding coral *Seriatorpora* (Scleractinia: Pocilloporidae) in the Ryukyu Archipelago. *Coral Reefs*, 1-12.
186. Nakajima, Y., Shinzato, C., Khalturina, M., Nakamura, M., Watanabe, H., Satoh, N., Mitarai, S., 2016. The mitochondrial genome sequence of a deep-sea, hydrothermal vent limpet, *Lepetodrilus nux*, presents a novel vetigastropod gene arrangement. *Marine Genomics*, 1-6.
187. Nakamura, J., Morikawa-Ichinose, T., Fujimura, Y., Hayakawa, E., Takahashi, K., Ishii, T., Miura, D., Wariishi, H., 2017. Spatially resolved metabolic distribution for unraveling the physiological change and responses in tomato fruit using matrix-assisted laser desorption/ionization-mass spectrometry imaging (MALDI-MSI). *Anal Bioanal Chem* 409, 1697-1706.
188. Nakanishi, S., 2016. A spider toxin, ω -agatoxin IVA, binds to fixed as well as living tissues: cytochemical visualization of P/Q-type calcium channels. *Microscopy*, 1-4.
189. Nakano, T., Mackay, S.M., Wui Tan, E., Dani, K.M., Wickens, J.R., 2016. Interfacing with Neural Activity via Femtosecond Laser Stimulation of Drug-Encapsulating Liposomal Nanostructures. *eNeuro* 3, 1-10.
190. Nakazawa, N., Mehrotra, R., Arakawa, O., Yanagida, M., 2016. ICRF-193, an anticancer topoisomerase II inhibitor, induces arched telophase spindles that snap, leading to a ploidy increase in fission yeast. *Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms* 21, 978-993.
191. Nakazawa, T., Hashimoto, R., Sakoori, K., Sugaya, Y., Tanimura, A., Hashimoto-dani, Y., Ohi, K., Yamamori, H., Yasuda, Y., Umeda-Yano, S., Kiyama, Y., Konno, K., Inoue, T., Yokoyama, K., Inoue, T., Numata, S., Ohnuma, T., Iwata, N., Ozaki, N., Hashimoto, H., Watanabe, M., Manabe, T., Yamamoto, T., Takeda, M., Kano, M., 2016. Emerging roles of ARHGAP33 in intracellular trafficking of TrkB and pathophysiology of neuropsychiatric disorders. *Nat Commun* 7, 10594.
192. Nedelescu, H., Chowdhury, T.G., Wable, G.S., Arbuthnott, G., Aoki, C., 2017. Cerebellar sub-divisions differ in exercise-induced plasticity of noradrenergic axons and in their association with resilience to activity-based anorexia. *Brain Struct Funct* 222, 317-339.
193. Negrello, M., De Schutter, E., 2016. Models of the Cortico-cerebellar System. *Neuroscience in the 21st Century*, 1-24.

194. Ngampruetikorn, V., Stephens, G.J., 2016. Bias, belief, and consensus: Collective opinion formation on fluctuating networks. *Physical Review E* 94, 1-6.
195. Nickel, A., Lehmann, T., Meyer, J., Eisenhut, F., Ohmann, R., Ryndyk, D.A., Joachim, C., Moresco, F., Cuniberti, G., 2016. Electronically Driven Single-Molecule Switch on Silicon Dangling Bonds. *Journal of Physical Chemistry C* 120, 27027-27032.
196. Nieddu, T., Du, J., Nic Chormaic, S., 2016. Atom-photon interface using the higher order modes of an ultrathin optical fiber. *Frontiers in Optics 2016 OSA Technical Digest (online) JTh2A*.
197. Nikiforov, G.O., 2016. Molecular p doping of 4,4'-Bis(N-carbazolyl)-1,1'-biphenyl and n doping of 1,3,5-tris(N-phenylbenzimidazol-2-yl) benzene. *Org Electron* 36, 120-132.
198. Nishitsuji, K., Arimoto, A., Iwai, K., Sudo, Y., Hisata, K., Fujie, M., Arakaki, N., Kushiro, T., Konishi, T., Shinzato, C., Satoh, N., Shoguchi, E., 2016. A draft genome of the brown alga, *Cladosiphon okamuranus*, S-strain: a platform for future studies of 'mozuku' biology. *DNA Research*, 1-10.
199. Niu, Y.R., Man, K.L., Pavlovska, A., Bauer, E., Altman, M.S., 2017. Fe on W(001) from continuous films to nanoparticles: Growth and magnetic domain structure. *Physical Review B* 95, 1-16.
200. O'Riordan, L.J., Busch, T., 2016. Topological defect dynamics of vortex lattices in Bose-Einstein condensates. *Physical Review A* 94, 1-7.
201. Ohno, M., Kawano, T., Edaheiro, I., Shirakawa, H., Ohashi, N., Okada, C., Habata, S., Katsuta, J., Tanaka, Y., Takahashi, H., Mizuno, T., Fukazawa, Y., Murakami, H., Kobayashi, S., Miyake, K., Ono, K., Kato, Y., Furuta, Y., Murota, Y., Okuda, K., Wada, Y., Nakazawa, K., Mimura, T., Kataoka, J., Ichinohe, Y., Uchida, Y., Katsuragawa, M., Yoneda, H., Sato, G., Sato, R., Kawaharada, M., Harayama, A., Odaka, H., Hayashi, K., Ohta, M., Watanabe, S., Kokubun, M., Takahashi, T., Takeda, S., Kinoshita, M., Yamaoka, K., Tajima, H., Yatsu, Y., Uchiyama, H., Saito, S., Yuasa, T., Makishima, K., 2016. Development and verification of signal processing system of avalanche photo diode for the active shields onboard ASTRO-H. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 831, 410-414.
202. Ohno, Y., Iguchi, A., Shinzato, C., Inoue, M., Suzuki, A., Sakai, K., Nakamura, T., 2017. An aposymbiotic primary coral polyp counteracts acidification by active pH regulation. *Scientific Reports* 7, 1-8.
203. Oji, Y., Hashimoto, N., Tsuboi, A., Murakami, Y., Iwai, M., Kagawa, N., Chiba, Y., Izumoto, S., Elisseeva, O., Ichinohasama, R., Sakamoto, J., Morita, S., Nakajima, H., Takashima, S., Nakae, Y., Nakata, J., Kawakami, M., Nishida, S., Hosen, N., Fujiki, F., Morimoto, S., Adachi, M., Iwamoto, M., Oka, Y., Yoshimine, T., Sugiyama, H., 2016. Association of WT1 IgG antibody against WT1 peptide with prolonged survival in glioblastoma multiforme patients vaccinated with WT1 peptide. *Int J Cancer* 139, 1391-1401.
204. Okada, Y., Watanabe, Y., Tin, M.M., Tsuji, K., Mikheyev, A.S., 2016. Social dominance alters nutrition-related gene expression immediately: transcriptomic evidence from a monomorphic queenless ant. *Molecular Ecology*, 1-17.
205. Okamoto, Y., Okada, G., Tanaka, S., Miyazaki, K., Miyazaki, K., Doya, K., Yamawaki, S., 2016. The role of serotonin in waiting for future rewards in depression. *Int J Neuropsychoph* 19, 33-33.
206. Okuda, M., Hijikuro, I., Fujita, Y., Teruya, T., Kawakami, H., Takahashi, T., Sugimoto, H., 2016. Design and synthesis of curcumin derivatives as tau and amyloid beta dual aggregation inhibitors. *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters* 26, 5024-5028.

207. Ono, L.K., Qi, Y., 2016. Surface and Interface Aspects of Organometal Halide Perovskite Materials and Solar Cells. *Journal of Physical Chemistry Letters* 7, 4764-4794.
208. Onomura, K., Tanaka, M., Nishitsuji, K., Kato, Y., Shimai, K., Kusakabe, G.T., 2016. Revised lineage of larval photoreceptor cells in *Ciona* reveals archetypal collaboration between neural tube and neural crest in sensory organ formation. *Developmental Biology* 420, 178-185.
209. Osabe, K., Harukawa, Y., Miura, S., Saze, H., 2016. Epigenetic Regulation of Intronic Transgenes in Arabidopsis. *Sci Rep* 7, 45166.
210. Panno, S.V., Chirienco, M., Bauer, R.A., Lundstrom, C.C., Zhang, Z., Hackley, K.C., 2016. Possible Earthquakes Recorded in Stalagmites from a Cave in South-Central Indiana. *Bulletin of the Seismological Society of America* 106, 2364-2375.
211. Park, K.R., Kwon, M.S., An, J.Y., Lee, J.G., Youn, H.S., Lee, Y., Kang, J.Y., Kim, T.G., Lim, J.J., Park, J.S., Lee, S.H., Song, W.K., Cheong, H.K., Jun, C.D., Eom, S.H., 2016. Structural implications of Ca²⁺-dependent actin-bundling function of human EFhd2/Swiprosin-1. *Scientific Reports* 6, 1-15.
212. Parkinson, J.E., Yang, S.-Y., Kawamura, I., Byron, G., Todd, P.A., Reimer, J.D., 2016. A citizen science approach to monitoring bleaching in the zoantharian *Palythoa tuberculosa*. *PeerJ* 4, 1-14.
213. Pathania, A., Rana, K., Bhalla, N., Thakur, P., Estrela, P., Mattei, J.L., Queffelec, P., Thakur, A., 2017. Raman and Mossbauer spectroscopic studies of tungsten doped Ni-Zn nano ferrite. *J Mater Sci-Mater El* 28, 679-685.
214. Petoukhoff, C.E., Mariserla, B.M.K., Voiry, D., Bozkurt, I., Deckoff-Jones, S., Chhowalla, M., O'Carroll, D.M., Dani, K.M., 2016. Ultrafast Charge Transfer and Enhanced Absorption in MoS₂-Organic van der Waals Heterojunctions Using Plasmonic Metasurfaces. *ACS Nano* 10, 9899-9908.
215. Pham, A.T., Seto, R., Schoenke, J., Joh, D.Y., Chilkoti, A., Fried, E., Yellen, B.B., 2016. Crystallization kinetics of binary colloidal monolayers. *Soft Matter* 12, 7735-7746.
216. Pluskal, T., Nakamura, T., Yanagida, M., 2016. Preparation of Intracellular Metabolite Extracts from Liquid *Schizosaccharomyces pombe* Cultures. *Cold Spring Harb Protoc* 2016, 1-5.
217. Pluskal, T., Yanagida, M., 2016. Metabolomic Analysis of *Schizosaccharomyces pombe*: Sample Preparation, Detection, and Data Interpretation. *Cold Spring Harb Protoc* 2016, 1044-1053.
218. Pluskal, T., Yanagida, M., 2016. Measurement of Metabolome Samples Using Liquid Chromatography-Mass Spectrometry, Data Acquisition, and Processing. *Cold Spring Harb Protoc* 2016, 1-6.
219. Pohle, R., Benton, J.O., Jaubert, L., 2016. Reentrance of disorder in the anisotropic shuriken Ising model *Physical Review B* 94, 1-16.
220. Ponnudurai, R., Kleiner, M., Sayavedra, L., Petersen, J.M., Moche, M., Otto, A., Becher, D., Takeuchi, T., Satoh, N., Dubilier, N., Schweder, T., Markert, S., 2016. Metabolic and physiological interdependencies in the *Bathymodiolus azoricus* symbiosis. *ISME Journal* 11, 463-477.
221. Pursell, J.L., Pursell, C.J., 2016. Host-Guest Inclusion Complexation of alpha-Cyclodextrin and Triiodide Examined Using UV-Vis Spectrophotometry. *J Phys Chem A* 120, 2144-2149.
222. Raga, S.R., Qi, Y., 2016. The Effect of Impurities on the Impedance Spectroscopy Response of CH₃NH₃PbI₃ Perovskite Solar Cells. *The Journal of Physical Chemistry C* 120, 28519-28526.

223. Rajakaruna, H., Lewis, M., 2017. Temperature cycles affect colonization potential of calanoid copepods. *J Theor Biol* 419, 77-89.
224. Remeika, M., Raga, S.R., Zhang, S., Qi, Y., 2017. Transferrable optimization of spray-coated PbI₂ films for perovskite solar cell fabrication. *Journal of Materials Chemistry A* 5, 5709-5718.
225. Roberts, D., Alonzo, M., Wetherley, E.B., Dudley, K.L., Dennison, P.E., 2017. Multiscale Analysis of Urban Areas Using Mixing Models, in: Quattrochi, D.A., Wentz, E., Lam, N.S.-N., Emerson, C.W. (Eds.), *Integrating Scale in Remote Sensing and GIS*. CRC Press, New York, pp. 247-282.
226. Rojan, K., Kraus, R., Fogarty, T., Habibian, H., Minguzzi, A., Morigi, G., 2016. Localization transition in the presence of cavity backaction. *Physical Review A* 94, 013839.
227. Ross, S.R.P.-J., Hassall, C., Hoppitt, W.J.E., Edwards, F.A., Edwards, D.P., Hamer, K.C., 2017. Incorporating intraspecific trait variation into functional diversity: Impacts of selective logging on birds in Borneo. *Methods in Ecology and Evolution* N/A, 1-22 (Accepted).
228. Rotundo, N., Kim, T.Y., Jiang, W., Heltai, L., Fried, E., 2016. Error analysis of a B-Spline-based finite-element method for modeling wind-driven ocean circulation. *Journal of Scientific Computing*, 1-30.
229. Rubio, J.L., Ahufinger, V., Busch, T., Mompert, J., 2016. Optimal conditions for spatial adiabatic passage of a Bose-Einstein condensate. *Physical Review A* 94, 1-9.
230. Sabuwala, T., Dai, X.Y., Gioia, G., 2016. Configurational phases in elastic foams under lengthscale-free punching. *Journal of the Mechanics and Physics of Solids* 93, 57-71.
231. Sachdeva, R., Busch, T., 2017. Creating superfluid vortex rings in artificial magnetic fields. *Physical Review A* 95, 1-8.
232. Sadgrove, M., Wimberger, S., Nic Chormaic, S., 2016. Quantum coherent tractor beam effect for atoms trapped near a nanowaveguide. *Scientific Reports* 6, 1-13.
233. Sarnat, E.M., Fischer, G., Economo, E.P., 2016. Inordinate Spinescence: Taxonomic Revision and Microtomography of the Pheidole cervicornis Species Group (Hymenoptera, Formicidae). *PloS One* 11, 1-24.
234. Sato, G., Hagino, K., Watanabe, S., Genba, K., Harayama, A., Kanematsu, H., Kataoka, J., Katsuragawa, M., Kawaharada, M., Kobayashi, S., Kokubun, M., Kuroda, Y., Makishima, K., Masukawa, K., Mimura, T., Miyake, K., Murakami, H., Nakano, T., Nakazawa, K., Noda, H., Odaka, H., Onishi, M., Saito, S., Sato, R., Sato, T., Tajima, H., Takahashi, H., Takahashi, T., Takeda, S., Yuasa, T., 2016. The Si/CdTe semiconductor camera of the ASTRO-H Hard X-ray Imager (HXI). *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 831, 235-241.
235. Satoh, N., 2016. *Chordate Origins and Evolution - The Molecular Evolutionary Road to Vertebrates*. Elsevier Academic Press.
236. Schaller, G., Giusteri, G.G., Celardo, G.L., 2016. Collective couplings: Rectification and supertransmittance. *Physical Review E* 94, 1-17.
237. Schonke, J., Fried, E., 2017. Stability of vertical magnetic chains. *Proc Math Phys Eng Sci* 473.
238. Sergides, m., Truong, V.G., Nic Chormaic, S., 2016. Highly tunable plasmonic nanoring arrays for nanoparticle manipulation and detection. *Nanotechnology* 27, 1-10.
239. Session, A.M., Uno, Y., Kwon, T., Chapman, J.A., Toyoda, A., Takahashi, S., Fukui, A., Hikosaka, A., Suzuki, A., Kondo, M., van Heeringen, S.J., Quigley, I., Heinz, S., Ogino, H., Ochi, H., Hellsten, U., Lyons, J.B., Simakov, O., Putnam, N., Stites, J., Kuroki, Y., Tanaka,

- T., Michiue, T., Watanabe, M., Bogdanovic, O., Lister, R., Georgiou, G., Paranjpe, S.S., Van Kruijsbergen, I., Shu, S., Carlson, J., Kinoshita, T., Ohta, Y., Mawaribuchi, S., Jenkins, J., Grimwood, J., Schmutz, J., Mitros, T., Mozaffari, S.V., Suzuki, Y., Haramoto, Y., Yamamoto, T.S., Takagi, C., Heald, R., Miller, K., Haudenschild, C., Kitzman, J., Nakayama, T., Izutsu, Y., Robert, J., Fortriede, J., Burns, K., Lotay, V., Karimi, K., Yasuoka, Y., Dichmann, D.S., Flajnik, M.F., Houston, D.W., Shendure, J., DuPasquier, L., Vize, P.D., Zorn, A.M., Ito, M., Marcotte, E.M., Wallingford, J.b., Ito, Y., Asashima, M., Ueno, N., Matsuda, Y., Veenstra, G.J.C., Fujiyama, A., Harland, R.M., Taira, M., Rokhsar, D.S., 2016. Genome evolution in the allotetraploid frog *Xenopus laevis*. *Nature* 538, 336-343.
240. Sfyris, D., Sfyris, G.I., Bustamante, R., 2016. Nonlinear electro-magneto-mechanical constitutive modelling of monolayer graphene. *P Roy Soc a-Math Phy* 472.
 241. Shah, M., Su, D., Scheliga, J.S., Pluskal, T., Boronat, S., Motamedchaboki, K., Campos, A.R., Qi, F., Hidalgo, E., Yanagida, M., Wolf, D.A., 2016. A Transcript-Specific eIF3 Complex Mediates Global Translational Control of Energy Metabolism. *Cell reports* 16, 1891-1902.
 242. Shah, P., 2017. Preferences for marine protection in Okinawa: a comparison of management options and two groups of beneficiaries, *Handbook on the Economics and Management of Sustainable Oceans*. Edward Elgar Publishing Ltd., Cheltenham, UK.
 243. Shah, P., Ando, A.W., 2016. Permanent and Temporary Policy Incentives for Conservation under Stochastic Returns from Competing Land Uses. *Am J Agr Econ* 98, 1074-1094.
 244. Shah, P., Mallory, M., Ando, A.W., Guntenspergen, G., 2016. Fine-resolution conservation planning with limited climate-change information. *Conservation Biology*.
 245. Shimabukuro, S., Daley, D., Thompson, M., Laver-Bradbury, C., Nakanishi, E., Tripp, G., 2016. Supporting Japanese mothers of children with ADHD: cultural adaptation of the New Forest Parent Training Programme. *Japanese Psychological Research* 59, 35-48.
 246. Shimada, H., Hikami, S., 2016. Fractal Dimensions of Self-Avoiding Walks and Ising High-Temperature Graphs in 3D Conformal Bootstrap. *Journal of Statistical Physics* 165, 1006-1035.
 247. Shimizu, Y., Doya, K., Okada, G., Okamoto, Y., Takamura, M., Yamawaki, S., Yoshimoto, J., 2016. Depression severity and related characteristics correlate significantly with activation in brain areas selected through machine learning. *Int J Neuropsychoph* 19, 135-136.
 248. Shinbrot, T., Sabuwala, T., Siu, M.V.L., Chakraborty, P., 2017. Size Sorting on the Rubble-Pile Asteroid Itokawa. *Physical Review Letters* 118, 1-5.
 249. Shirasawa, K., Tokunaga, K., Iwashita, H., Shintake, T., 2016. Experimental verification of a floating ocean-current turbine with a single rotor for use in Kuroshio currents. *Renewable Energy* 91, 189-195.
 250. Shorter, J.R., Dembeck, L.M., Everett, L.J., Morozova, T.V., Arya, G.H., Turlapati, L., St Armour, G.E., Schal, C., Mackay, T.F.C., Anholt, R.R.H., 2016. Obp56h Modulates Mating Behavior in *Drosophila melanogaster*. *G3-Genes Genom Genet* 6, 3335-3342.
 251. Shouno, O., Tachibana, Y., Nambu, A., Doya, K., 2017. Computational model of recurrent subthalamo-pallidal circuit for generation of parkinsonian oscillations. *Frontiers in Neuroanatomy* 11, 1-15.
 252. Simakov Oleg, Takeshi, K., 2016. Independent evolution of genomic characters during major metazoan transitions. *Developmental Biology*, 1-14.
 253. Simion, P., Philippe, H., Baurain, D., Jager, M., Richter, D.J., Di Franco, A., Roure, B., Satoh, N., Quéinnec, É., Ereskovsky, A., Lapébie, P., Corre, E., Delsuc, F., King, N.,

- Wörheide, G., Michaël, M., 2017. A Large and Consistent Phylogenomic Dataset Supports Sponges as the Sister Group to All Other Animals. *Curr Biol* in press, 1-34 (Accepted).
254. Sinclair, R.M., Ravanntti, J.J., Bamford, D.H., 2017. Nucleic and amino acid sequences support structure-based viral classification. *Journal of Virology*, 1-13.
 255. Smerald, A., Shannon, N., 2016. Theory of NMR 1/T1 relaxation in a quantum spin nematic in an applied magnetic field. *Physical Review B* 93, 1-11.
 256. Smorodin, A.V., Rybalko, A.S., Konstatinov, D., 2017. Measurements of the Complex Permittivity of Liquid Helium-4 in the Millimeter Wave Range by a Whispering Gallery Mode Resonator. *Journal of Low Temperature Physics*, 1-6.
 257. Soderstrom, B., Daley, D.O., 2016. The bacterial divisome: more than a ring? *Current genetics*, 1-4.
 258. Söderström, B., Mirzadeh, K., Toddo, S., von Heijine, G., Skoglund, U., Daley, D.O., 2016. Coordinated disassembly of the divisome complex in *Escherichia coli*. *Molecular microbiology*, 1-14.
 259. Soliman, T., Fernandez-Silva, I., Reimer, J.D., 2016. Genetic population structure and low genetic diversity in the over-exploited sea cucumber *Holothuria edulis* Lesson, 1830 (Echinodermata: Holothuroidea) in Okinawa Island. *Conserv Genet* 17, 811-821.
 260. Soliman, T., Takama, O., Fernandez-Silva, I., Reimer, J.D., 2016. Extremely low genetic variability within and among locations of the greenfish holothurian *Stichopus chloronotus* Brandt, 1835 in Okinawa, Japan. *PeerJ* 4, 1-14.
 261. Steinhauer, S., Wang, Z., Zhou, Z., Krainer, J., Kock, A., Nordlund, K., Djurabekova, F., Grammatikopoulos, P., Sowwan, M., 2017. Probing electron beam effects with chemoresistive nanosensors during in situ environmental transmission electron microscopy. *Applied Physics Letters* 110, 1-4.
 262. Sugimoto, Y., Chakrabarti, A.M., Luscombe, N.M., Ule, J., 2017. Using hiCLIP to identify RNA duplexes that interact with a specific RNA-binding protein. *Nat Protoc* 12, 611-637.
 263. Sugita, Y., Kawaoka, Y., Noda, T., Wolf, M., 2016. Structure of the Ebola Virus Nucleocapsid Core by Single Particle Cryo-Electron Microscopy. *Microscopy and Microanalysis* 22, 66-67.
 264. Sukumaran, J., Economo, E.P., Knowles, L.L., 2016. Machine learning biogeographic processes from biotic patterns: A new trait-dependent dispersal and diversification model with model choice by simulation-trained discriminant analysis. *Syst. Biol.* 65, 525-545.
 265. Suzuki, A., Uno, Y., Takahashi, S., Grimwood, J., Schmutz, J., Mawaribuchi, S., Yoshida, H., Takebayashi-Suzuki, K., Ito, M., Matsuda, Y., Rokhsar, D., Taira, M., 2016. Genome organization of the *vg1* and *nodal3* gene clusters in the allotetraploid frog *Xenopus laevis*. *Dev Biol.*
 266. Suzuki, M.M., Mori, T., Satoh, N., 2016. The *Ciona intestinalis* cleavage clock is independent of DNA methylation. *Genomics* 108, 168-176.
 267. Takami, C., Eguchi, K., Hori, T., Takahashi, T., 2016. Impact of vesicular glutamate leakage on synaptic transmission at the calyx of Held. *J Physiol*, 1-9.
 268. Takeuchi, T., Koyanagi, R., Gyoja, F., Kanda, M., Hisata, K., Fujie, M., Goto, H., Yamasaki, S., Nagai, K., Morino, Y., Miyamoto, H., Endo, K., Endo, H., Nagasawa, H., Kinoshita, S., Asakawa, S., Watabe, S., Satoh, N., Kawashima, T., 2016. Bivalve-specific gene expansion in the pearl oyster genome: implications of adaptation to a sessile lifestyle. *Zoological Letters* 2, 1-13.
 269. Takeuchi, T., Yamada, L., Shinzato, C., Sawada, H., Satoh, N., 2016. Stepwise Evolution of Coral Biomineralization Revealed with Genome-Wide Proteomics and Transcriptomics. *Plos*

One 11, 1-24.

270. Takizawa, Y., Binshtein, E., Erwin, A.L., Pyburn, T.M., Mittendorf, K.F., Ohi, M.D., 2017. While the revolution will not be crystallized, biochemistry reigns supreme. *Protein Sci* 26, 69-81.
271. Tamboli, V.K., Bhalla, N., Jolly, P., Bowen, C.R., Taylor, J.T., Bowen, J.L., Allender, C.J., Estrela, P., 2016. Hybrid Synthetic Receptors on MOSFET Devices for Detection of Prostate Specific Antigen in Human Plasma. *Analytical Chemistry* 88, 11486-11490.
272. Tanaka, F., 2016. Enzymes and organocatalysts, in: Japan, T.C.S.o. (Ed.), *CSJ Current Review The Chemistry of Organocatalysis*. Kagakudojin, Kyoto, pp. 24-29.
273. Tanaka, T., 2016. Safety and health measures when closing or relocationg a laboratory. *Journal of Environment and Safety* 7, 107-110.
274. Team, A.-H.H., Takeda, S.i., 2016. The hard X-ray imager (HXI) onboard ASTRO-H. *Proceedings of SPIE* 9905, 990511-990511.
275. Team, A.-H.H., Takeda, S.i., 2016. The soft gamma-ray detector (SGD) onboard ASTRO-H. *Proceedings of SPIE* 9905, 990513.
276. Thakur, A., Sachdeva, R., Agarwal, A., 2017. Dynamical polarizability, screening and plasmons in one, two and three dimensional massive Dirac systems. *Journal of Physics: Condensed Matter* 29, 1-13.
277. Tonosaki, K., Osabe, K., Kawanabe, T., Fujimoto, R., 2016. The importance of reproductive barriers and the effect of allopolyploidization on crop breeding. *Breeding Science* 66, 333-349.
278. Tsai, H.-F., Cheng, J.-Y., Chang, H.-F., Yamamoto, T., Shen, A.Q., 2016. Uniform electric field generation in circular multi-well culture plates using polymeric inserts. *Scientific Reports* 6, 1-11.
279. Udagawa, M., Jaubert, L.D.C., Castelnovo, C., Moessner, R., 2016. Out-of-equilibrium dynamics and extended textures of topological defects in spin ice. *Physical Review B* 94, 1-24.
280. Ulbrocjt, R., Dong, S., Chang, I.-Y., Mariselra, B.M.K., Dani, K.M., Kim, H.-D., Loh, Z.-H., 2016. Jahn-Teller-induced femtosecond electronic depolarization dynamics of the nitrogen-vacancy defect in diamond. *Nature Communications*, 1-6.
281. Vernieres, J., Steinhauer, S., Zhao, J., Chapelle, A., Menini, P., Dufour, N., Diaz, R.E., Nordlund, K., Djurabekova, F., Grammatikopoulos, P., Sowwan, M., 2017. Gas Phase Synthesis of Multifunctional Fe-Based Nanocubes. *Advanced Functional Materials Wiley-VCH* 27, 1-12.
282. Vicente, C., Stirparo, R., Demeyer, S., Vandepoel, R., Gielen, O., Hassan, B., Kureha, T., Yamamoto, T., Cools, J., 2016. The Role of Cnot3 and the Entire Ccr4Not Complex in Tumor Development. *Haematologica* 101, 199-199.
283. Vivekanandhan, S., Schreiber, M., Muthuramkumar, S., Misra, M., Mohanty, A.K., 2017. Carbon nanotubes from renewable feedstocks: A move toward sustainable nanofabrication. *J Appl Polym Sci* 134.
284. Wacker, L.J., Jorgensen, N.B., Birkmose, D., Winter, N., Mikkelsen, M., Sherson, J., Zinner, N., Arlt, J.J., 2016. Universal Three-Body Physics in Ultracold KRb Mixtures. *Physical Review Letters* 117, 1-6.
285. Walls, D.J., Haward, S.J., Shen, A.Q., Fuller, G.G., 2016. Spreading of miscible liquids. *Physical Review Fluids* 1, 1-16.
286. Wang, J.X., Uchibe, E., Doya, K., 2017. Adaptive Baseline Enhances EM-Based Policy Search: Validation in a View-Based Positioning Task of a Smartphone Balancer. *Frontiers in*

Neurorobotics 11, 1-15.

287. Wang, P., Madugani, R., Zhao, H., Yang, W., Ward, J.M., Yang, Y., Farrell, G., Brambilla, G., Nic Chormaic, S., 2016. Packaged optical add-drop filter based on an optical microfiber coupler and a microsphere IEEE Photonics Technology Letters PP, 1-4.
288. Wang, S.-H., Jiang, Y., Juarez-Perez, E.J., Ono, L.K., Qi, Y., 2016. Accelerated degradation of methylammonium lead iodide perovskites induced by exposure to iodine vapour. Nature Energy 2, 1-8.
289. Wang, Y.H., Arenas, C.D., Stoebe, D.M., Flynn, K., Knapp, E., Dillon, M.M., Wunsche, A., Hatcher, P.J., Moore, F.B.G., Cooper, V.S., Cooper, T.F., 2016. Benefit of transferred mutations is better predicted by the fitness of recipients than by their ecological or genetic relatedness. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 113, 5047-5052.
290. Ward, J.M., Yang, Y., Nic Chormaic, S., 2016. Glass-on-Glass Fabrication of Bottle-Shaped Tunable Microlasers and their Applications. Scientific Reports 6, 1-8.
291. Watanabe, H., Yahagi, T., Nagai, Y., Seo, M., Kojima, S., Ishibashi, J., Yamamoto, H., Fujikura, K., Mitarai, S., Toyofuku, T., 2016. Different thermal preferences for brooding and larval dispersal of two neighboring shrimps in deep-sea hydrothermal vent fields. Mar Ecol-Evol Persp 37, 1282-1289.
292. Watanabe, M., Yasuoka, Y., Mawaribuchi, S., Kurehara, A., Ito, M., Kondo, M., Ochi, H., Ogino, H., Fukui, A., Taira, M., Kinoshita, T., 2016. Conservatism and variability of gene expression profiles among homeologous transcription factors in *Xenopus laevis*. Developmental Biology, 1-24.
293. Wepfer, P.H., Guénard, B., Economo, E.P., 2016. Influences of climate and historical land connectivity on ant beta diversity in East Asia. Journal of Biogeography, 1-11.
294. Yamada, I., Yoshino, N., Hikishima, K., Miyasaka, N., Yamauchi, S., Uetake, H., Yasuno, M., Saida, Y., Tateishi, U., Kobayashi, D., Eishi, Y., 2017. Colorectal carcinoma: Ex vivo evaluation using 3-T high-spatial-resolution quantitative T2 mapping and its correlation with histopathologic findings. Magn Reson Imaging 38, 174-181.
295. Yamao, M., Aoki, K., Yukinawa, N., Ishii, S., Matsuda, M., Naoki, H., 2016. Two New FRET Imaging Measures: Linearly Proportional to and Highly Contrasting the Fraction of Active Molecules. PLoS One 11, 1-17.
296. Yamasaki, H., Cohen, M.F., 2016. Biological consilience of hydrogen sulfide and nitric oxide in plants: Gases of primordial earth linking plant, microbial and animal physiologies. Nitric Oxide Biology and Chemistry 55-56, 91-100.
297. Yamasaki, H., Watanabe, N.S., Sakihama, Y., Cohen, M.F., 2016. An overview of methods in plant NO research: Why do we always need to use multiple methods?, in: Gupta, K.J. (Ed.), Methods in molecular biology: Plant nitric oxide research: methods & protocols. Humana Press, Totowa, New Jersey.
298. Yamasaki, H., Watanabe, N.S., Sakihama, Y., Cohen, M.F., 2016. An Overview of Methods in Plant Nitric Oxide (NO) Research: Why Do We Always Need to Use Multiple Methods? Methods Mol Biol 1424, 1-14.
299. Yan, L., Cui, X.L., Harada, T., Lincoln, S.F., Dai, S., Kee, T.W., 2016. Generation of Fluorescent and Stable Conjugated Polymer Nanoparticles with Hydrophobically Modified Poly(acrylate)s. Macromolecules 49, 8530-8539.
300. Yanagihara, S., Yazaki-Sugiyama, Y., 2016. Auditory experience-dependent cortical circuit shaping for memory formation in bird song learning. Nature Communications 7, 1-11.

301. Yang, Y., Jiang, X., Kasumie, S., Zhao, G., Xu, L., Ward, J., Yang, L., Nic Chormaic, S., 2016. Four-wave mixing parametric oscillation and frequency comb generation at visible wavelengths in a silica microbubble resonator. *Optics Letters* 41, 5266-5269.
302. Yang, Y., Lei, F., Kasumie, S., Xu, L., Ward, J., Yang, L., Nic Chormaic, S., 2017. Tunable erbium-doped microbubble laser fabricated by sol-gel coating. *Optics Express* 25, 1308-1313.
303. Yang, Y., Madugani, R., Kasumie, S., Ward, J., Nic Chormaic, S., 2016. Cavity ring-up spectroscopy for dissipative and dispersive sensing in a whispering gallery mode resonator. *Applied Physics B* 122, 1-10.
304. Yasuoka, Y., Shinzato, C., Satoh, N., 2016. The Mesoderm-Forming Gene *brachyury* Regulates Ectoderm-Endoderm Demarcation in the Coral *Acropora digitifera*. *Curr Biol* 26, 2885-2892.
305. Yeates, D.K., Zwick, A., Mikheyev, A.S., 2016. Museums are biobanks: unlocking the genetic potential of the three billion specimens in the world's biological collections. *Current opinion in insect science* 18, 83-88.
306. Yoon, Y.-H., Barker, C.S., Bulieris, P.V., Matsunami, H., Samatey, F.A., 2016. Structural insights into bacterial flagellar hooks similarities and specificities. *Scientific Reports* 6, 1-11.
307. Yoshida, K., Go, Y., Kushima, I., Toyoda, A., Fujiyama, A., Imai, H., Saito, N., Iriki, A., Ozaki, N., Isoda, M., 2016. Single-neuron and genetic correlates of autistic behavior in macaque. *Sci Adv* 2, 1-12.
308. Yoshida, K., Yoshimoto, J., Doya, K., 2017. Sparse kernel canonical correlation analysis for discovery of nonlinear interactions in high-dimensional data. *BMC bioinformatics* 18, 1-11.
309. Yoshimura, M., 2016. Ants of Okinawa City and the OKEON Chura-mori Project, in: Museum, O.M. (Ed.), *Nature of Okinawa City, the entrance of Yambaru*. Okinawa Municipal Museum, Okinawa, Okinawa, Japan, pp. 62-69.
310. You, C., Marquez-Lago, T.T., Richter, C.P., Wilmes, S., Moraga, I., Garcia, K.C., Leier, A., Piehler, J., 2016. Receptor dimer stabilization by hierarchical plasma membrane microcompartments regulates cytokine signaling. *Sci Adv* 2, 1-12.
311. Youssef, M.M., Tolba, M.F., Badawy, N.N., Liu, A.W., El-Ahwany, E., Khalifa, A.E., Zada, S., Abdel-Naim, A.B., 2016. Novel combination of sorafenib and biochanin-A synergistically enhances the anti-proliferative and pro-apoptotic effects on hepatocellular carcinoma cells. *Scientific Reports* 6, 1-12.
312. Yuan, Q., Huang, T., Li, P., Hao, T., Li, F., Ma, H., Wang, Z., Zhao, X., Chen, T., Goryanin, I., 2017. Pathway-Consensus Approach to Metabolic Network Reconstruction for *Pseudomonas putida* KT2440 by Systematic Comparison of Published Models. *PLoS One*, 1-19.
313. Zayasu, Y., Nakajima, Y., Sakai, K., Suzuki, G., Satoh, N., Shinzato, C., 2016. Unexpectedly complex gradation of coral population structure in the Nansei Islands, Japan. *Ecology and Evolution* 6, 5491-5505.
314. Zayasu, Y., Shinzato, C., 2016. Hope for coral reef rehabilitation: massive synchronous spawning by outplanted corals in Okinawa, Japan. *Coral Reefs* 35, 1295-1295.
315. Zayasu, Y., Yokochi, H., Kajiwar, K., Kimura, T., Shimada, G., Shimoike, K., Suzuki, G., Tachikawa, H., Nagata, T., Nomura, K., 2017. Research activities by Japanese Society for Coral Taxonomy, Taxa, Proceedings of the Japanese Society of Systematic Zoology, pp. 10-15.
316. Zhang, D., Tanaka, F., 2016. Catalytic enantioselective oxa-hetero-Diels-Alder reactions of enones with aryl trifluoromethyl ketones. *RSC Advances* 6, 61454-61457.
317. Zhang, J., Haward, S.J., Wu, Z., Dai, X., Tao, W., Li, Z., 2016. Evolution of rheological characteristics of high-solid municipal sludge during anaerobic digestion. *Applied Rheology*

26, 1-10.

- 318. Zhang, Y.P., Mossman, M.E., Busch, T., Engels, P., Zhang, C.W., 2016. Properties of spin-orbit-coupled Bose-Einstein condensates. *Front Phys-Beijing* 11, 1-28.
- 319. Zhao, J., Baibuz, E., Vernieres, J., Grammatikopoulos, P., Jansson, V., Nagel, M., Steinhauer, S., Sowwan, M., Kuronen, A., Nordlund, K., Djurabekova, F., 2016. Formation Mechanism of Fe Nanocubes by Magnetron Sputtering Inert Gas Condensation. *ACS Nano* 10, 4684-4694.
- 320. Zhao, Y., Shen, A.Q., Haward, S.J., 2016. Flow of wormlike micellar solutions around confined microfluidic cylinders. *Soft Matter* 12, 8666-8681.
- 321. Zheng, Y., Li, G., Zhang, Y., 2016. Organometallic Hydrogels. *CHEMNANOMAT* 2, 364-375.

No.	研究ユニット	教員/ 研究員	受賞内容	URL	受賞日
1	マリンゲノミックスユニット (佐藤ユニット)	前田 健 博士	マリンゲノミックスユニット・ポストドクトラルスカラーの前田健博士が、日本魚類学会より2016年度奨励賞を受賞しました。 本賞は、優れた研究成果を上げ魚類学の進歩に寄与し、将来の発展が期待される40歳未満の研究者に授与されます。	http://www.fish-isi.jp/iin/award/2016_senkou.html https://www.oist.jp/news-center/news/2016/10/14/origins-okinawan-gobies	2016年9月24日
2	マリンゲノミックスユニット (佐藤ユニット)	井上 潤 博士	マリンゲノミックスユニット・スタッフサイエンティストの井上潤博士が日本進化学会より2016年度研究奨励賞を受賞しました。 本賞は、進化学や関連する分野において、研究業績上大きな発展が期待される若手の学会員に授与されます。	http://sesj.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=22072	2016年8月27日
3	光・物質相互作用ユニット (ニコーマックユニット)	ミカイル サイモン ビーター	ニコーマックユニット所属のOIST博士課程ミカエル氏は、優れた科学的成果に贈られる米国光学会主催2016年生物医学光学学会のポスター部門賞を受賞した。生物医学光学学会会議議長とプログラム委員からなる委員会により選考された。ポスタータイトル：Fiber bundle in-vivo epifluorescence microscopy with image reconstruction	http://www.osa.org/en-us/meetings/osa_meetings/biomedical_optics/award_winners/	2016年4月28日
4	量子波光学顕微鏡ユニット(新竹ユニット)	白澤克年 博士	量子波光学顕微鏡ユニットのスタッフサイエンティストである白澤克年博士は、学会「6th International Symposium on Energy Challenges and Mechanics」(英国にて開催)に参加し、タイトル「"Development of an ocean-current turbine for the Kuroshio Current"」のポスター発表を行ったところ、当学会の委員により「Best Poster Award」を授与された。	http://nsci.co.uk/ecm6/Awards%20Competition.html	2016年4月14-18日
5	オ・ナノ流体ユニット(シェンユニット)	ハワード・サイモン博士	シェンユニットグループリーダー、ハワード・サイモン博士はその秀でた科学的業績が認められ、この度2016年の優秀な若手レオロジストへ贈られる賞を受賞した。受賞者については、レオロジー協会からピンガムメダルを受賞した5名を含む著名な科学者で設立された委員会によってノミネートされている。	http://www.adhesivesmag.com/articles/95390-ta-instruments-announces-distinguished-young-rheologist-award-recipients	2016年8月13日
6	生物多様性・複雑性研究ユニット (エコノモユニット)	OKEON 美ら森プロジェクト	生物多様性・複雑性研究ユニット(エコノモユニット)のプロジェクトであるOKEON 美ら森プロジェクトが、その際立った業績に対し生物多様性アクション大賞(入賞)を受賞しました。 「生物多様性アクション大賞」は世界中の人々に生物多様性の大切さを知ってもらい、行動してもらうことを目的に、「国連生物多様性の10年日本委員会」により2013年に設置されました。	http://5actions.jp/conservation/okeon/	2016年11月19日

平成28年度アウトリーチ活動実績

日付 Date	研究員名 Name	研究ユニット Unit, Section	プログラム名/参加者 Program, participants	内容 Contents	会場 Venue	主催 Sponsorship	講演会タイトル Title	講演内容	通訳	備考欄 Note
2016/4/15	Sonia Ruiz Raga	Qi Unit	お茶の水女子大学付属高校 Ochanomizu University Senior High School	research outline	C209			太陽電池の研究	○	
2016/4/22	Anna Garanzini	Takahashi Unit	Kadena Middle School 8th grade	research outline	B250			脳神経の技術員の仕事。 交流重視の質疑応答形式	X	
2016/4/22	Chiaki Chibana	Academic Services Section	Kyuyo Junior High School	career intruduction	B250			学生支援についての仕事紹介	X	
2016/5/17	Michael Frederick Cohen	Goryanin Unit	Kubasaki High School	research outline	B250			微生物を利用しての汚水を きれいにする研究、キャリア紹介	X	
2016/6/13	Filipe Tavares-Cadete	Luscombe Unit	Hawaiian High School	research outline	C209				X	
2016/6/16	Mikas Remeika	Qi Unit	Japan United States Friendship Commission	Lab visit	A648, Level A, Lab2					
2016/6/16	Evan Economo	Economo Unit	Japan United States Friendship Commission	Lab visit	B657b, Level B, Lab2					
2016/6/16	Yi-Jyun Luo	Satoh Unit	Community College of City University	About OIST Marine Genomics Unit	Satoh Unit					
2016/6/24	Chien-chia	Chakraborty Unit	Chinese Y.M.C.A. College	research outline	B250				X	
2016/6/28	Hidehito Adaniya	Shintake Unit	David P. Janes, Director of Foundation Grants and Assistant to the President	Lab tour	Level A, Lab 3					
2016/6/28	Yan Jiang	Qi Unit	Stewards Pooi Tun Secondary School	research outline	C210				X	
2016/6/29	Julien Madeo	Dani Unit	広島学院高等学校 2年	research outline	C209				○	
2016/6/29	Zafer Hawash	Qi Unit	WAI KIU COLLEGE	research outline	C209				X	
2016/6/30	Mikas Remeika	Qi Unit	U.S.TeamedUp Delegation Senior Officers from U.S. Colleges and Universities	Lab visit	Level A, Lab2					
2016/6/30	Nicholas Ryan Friedman	Economo Unit	U.S.TeamedUp Delegation Senior Officers from U.S. Colleges and Universities	Lab visit	Level B, Lab2					
2016/6/30	Francisco Hita Garcia	Economo Unit	U.S.TeamedUp Delegation Senior Officers from U.S. Colleges and Universities	Lab visit	Level B, Lab2					
2016/7/5	Andrew Mugo	Maruyama Unit	浦添商業高校 2年	research outline	C700				○	
2016/7/12	Georg Fischer	Economo Unit	Naha Plant Protection Station, JICA trainees	Introduction of Economo Unit	Economo Unit					
2016/7/12	Hidetoshi Saze	Saze Unit	Naha Plant Protection Station, JICA trainees	Introduction of Saze Unit	Saze Unit					
2016/7/12	Yohei Yokobayashi	Yokobayashi Unit	Naha Plant Protection Station, JICA trainees	Introduction of Yokobayashi Unit	Yokobayashi Unit					
2016/7/12	Pinaki Chakraborty	Chakraborty Unit	Indian Ambassador	Lab visit	Chakraborty Unit					
2016/7/12	Rashi Sachdeva	Busch Unit	Indian Ambassador	OISTインド出身タッフ面 会	C209					
2016/7/12	Saahil Acharya (student)	Kusumi Unit	Indian Ambassador	OISTインド出身タッフ面 会						
2016/7/12	Susmita Singh (student)		Indian Ambassador	OISTインド出身タッフ面 会						
2016/7/12	Shukla Sarkar (student)	Ishikawa Unit	Indian Ambassador	OISTインド出身タッフ面 会						
2016/7/12	Nishtha Ranawat (student)	Masai Unit	Indian Ambassador	OISTインド出身タッフ面 会						
2016/7/12										
2016/7/13	Jiexin Wang	Doya Unit	Participants of Sakura Science Plan College students from Taiwan and Okinawa National College of Technology		Doya Unit					
2016/7/13	Francesco Del Giudice	Shen Unit	Participants of Sakura Science Plan College students from Taiwan and Okinawa National College of Technology		Shen Unit					
2016/7/13	Tsumoru Shintake	Shintake Unit	Participants of Sakura Science Plan College students from Taiwan and Okinawa National College of Technology		Shintake Unit					
2016/7/25	Angela Caroline White	Busch Unit	南風原高校1、2年	research outline	B250				○	
2016/8/1	Francesco Del Giudice	Shen Unit	知念高校1年	research outline	B250			Sience is your superpower		
2016/8/2	Rory Cerbus	Chakraborty Unit	SCORE! インターンシップ	internship	OIST					
2016/8/2	Kohgaku Eguchi	Takahashi Unit	SCORE! インターンシップ	internship						
2016/8/2	Rehab Fouad Ahmed Abdelhamid	Luscombe Unit	SCORE! インターンシップ	internship						
2016/8/3	Kenichi Sajiki	Yanagida Unit	SCORE! インターンシップ	internship	OIST					

日付 Date	研究員名 Name	研究ユニット Unit, Section	プログラム名/参加者 Program, participants	内容 Contents	会場 Venue	主催 Sponsorship	講演会タイトル Title	講演内容	通訳	備考欄 Note
2016/8/3	Yuji Miyazaki	Saze Unit	SCORE! インターンシップ	internship	OIST					
2016/8/3	Yuimaru Kubo	Konstantinov Unit	SCORE! インターンシップ	internship	OIST					
2016/8/4	Kazuo Mori	Kuhn Unit	SCORE! インターンシップ	internship						
2016/8/4	Ye Zhang	Zhang Unit	SCORE! インターンシップ	internship	OIST					
2016/8/4	Carolina Diaz Arenas	Yokobayashi Unit	SCORE! インターンシップ	internship	OIST					
2016/8/8	Maeva Techer Yoann Portugal	Economo Unit	みつばち意見交換会/沖縄県養蜂組会員		MR2				○	
2016/8/16	呉羽 拓	yamamoto U	沖縄カトリック中学高等学校	research outline						
2016/8/18	Maria Iribarn	Masai Unit	大阪府立住吉高校	research outline	C209					
2016/8/18	Sergio Verduzco Flores	De Schutter Unit	球陽高校	research outline						
2016/8/24	須山 律子	Luscombe Unit	三和中学校1年	research outline				細胞や遺伝子の話。 細胞分裂の様子等。 一般的な研究者の仕事のお話。		
2016/8/30	Andrew Mugo	Maruyama Unit	北谷高校 特進クラス 1、2 年生	research outline	B250			バクテリアやたんぱく質の研究。 交流重視の質疑応答形式	○	
2016/10/4	Vimbai Samukange	Qi Unit	Seishin High School (2nd Grade) ノートルダム清心学園 清心女子高等学校,	research outline	C209					
2016/10/4	Vimbai Samukange	Qi Unit	Universiti Tun Hussien Onn Malaysia (UTHM) ツン、フセイン、オン、マレーシア大学	同上						
2016/10/6	Kengo Aranishi	Sowwan Unit	Takezono High School (2nd Grade, General Corse, Biology class) 茨城県立竹園高等学校 (2年生、普通科、物理系)	research outline	B250			ナノ粒子に関して	X	
2016/10/6	Hiroshi Takagi	Takahashi Unit	Takezono High School (2nd Grade, General Corse, physics class) 茨城県立竹園高等学校 (2年生、普通科、生物系)	research outline	B250			脳研究に関して	X	
2016/10/11	Shenghao Wang	Qi Unit	Ryugasaki 1st High School (SSH Grade: 2) 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校高校(SSH 2年生)	research outline	B250			Development of solar cells to satisfy the demands of energy in the future	○	
2016/10/12	Casey James Galvin	Shen Unit	SEIGAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL(2nd Grade, General Corse) 聖学院高等学校高等学校 (東京：2年生、普通科)	research outline	C209				○	
2016/10/12	Maria Iribarne	Masai Unit	Shuyukan Senior High School (2nd Grade, General Corse) 福岡県立修猷館高等学校 (2年生、普通科)	research outline	B250			Development 失明治療に関する研究	○	
2016/10/12	Julien Madeo	Dani Unit	Shuyukan Senior High School (2nd Grade, General Corse) 福岡県立修猷館高等学校 (3年生、普通科)	research outline	B250			Being a resercher	○	
2016/10/25		Satoh Unit	Governors' Association from Kyusyu Region and Yamaguchi prefecture 九州・山口 知事会ご一行様	Lab visit						
2016/10/25		Doya Unit	Governors' Association from Kyusyu Region and Yamaguchi prefecture 九州・山口 知事会ご一行様	Lab visit						
2016/10/31	Rehab Fouad Ahmed Abdelhamid	Luscombe Unit	Kanagawa Prefectural SAGAMIHARA Secondary School (2nd Grade, General Corse) 神奈川県立相模原中等教育学校 (2年生、普通科)	research outline	B250			Gene Switches? (Non coding Genes)	○	
2016/11/2	Hideki Takebe	Shintake Unit	中国電力、四国電力、九州電力、沖縄電力の広報担当	research outline	C209			About Shintake Unit (Wave power generator)	X	
2016/11/8	Endang Rinawati Purba	Maruyama Unit	MITA International School High School(2nd Grade, Super Science Corse) 三田国際学園中学校・高等学校 (2年生、スーパーサイエンスコース)	research outline	B250				○	
2016/11/9	Evan Economo	Economo Unit	鹿児島大学連合大学院農学研究科	Lab visit	Economo Unit				X	
2016/11/11	Endang Rinawati Purba	Maruyama Unit	Ishikawa Junior High School 3rd Graders 石川中学校 3年生	research outline	B503				○	
2016/11/30	Francesco Del Giudice	Shen Unit	Iwata Minami High School from Shizuoka Prefecture (2nd Grade, science course x1 & SSH class x1) SSH静岡県立磐田南高等学校 (2年生、普通科理系クラスx1、SSH理数科クラスx1)	research outline	B250			科学者について	○	
2016/11/30	Sohail Muhammad	Tanaka Unit	National Institute of Technology, Ibaraki College (Chemistry & Material Engineering /grade: 4) 茨城工業高等専門学校 物質工学科 4年生	research outline	B250				○	
2016/12/2	Chien-chia Liu	Chakraborty Unit	喜瀬武原中学校出前授業@OIST	demonstration						
2016/12/2	Dr.Kenji Doya	Doya Unit	Students in Mechanical Systems Engineering, Ryukyu University 琉球大学機械システム工学科	Lab visit	Doya Unit					
2016/12/2	Ritsuko Suyama	Luscombe Unit	Shurihigashi High School (1stand 2nd grade, General Course) 沖縄県立首里東高等学校 (1,2年生、普通科)	research outline	C210				X	

日付 Date	研究員名 Name	研究ユニット Unit, Section	プログラム名/参加者 Program, participants	内容 Contents	会場 Venue	主催 Sponsorship	講演会タイトル Title	講演内容	通訳	備考欄 Note
2016/12/5	Dr.Kenji Doya	Doya Unit	tudents from Thai and Teachers タイからの研修生9名（18－21歳）＋海外引率の教員 5名＋沖縄高専引率教員2名	Lab visit	Doya Unit					
2016/12/5	Vincent Jallet	Sugawara Unit	Kadena High School （Japanese Study Class） 嘉手納ハイスクール （日本語クラス）	research outline	C209				X	
2016/12/10	Yuji Miyazaki	Saze Unit	SCORE!	Panel of judges	Auditorium					
2016/12/12	Paavo Parmas	Doya Unit	Okinawa Technical High School （1rd Grade, Information and Electronics Course） 沖縄工業高校 （1年生、情報電子科）	research outline	B250			ロボットの学習 ＊スライド、発表ともに日 本語	○	
2012/12/22	Ka Lun Michael Man	Dani Unit	SKH Lui Ming Choi Secondary School from Hong Kong	research outline	C210				X	
2016/12/2	Chien-chia Liu	Chakraborty Unit	恩納村出前授業/ 恩納村喜瀬武原中学校	科学クラス	カフェブライ ベート		サイフォンの原理'	サイフォンの原理	×	
2017/1/18	Tae Gyun Kim	Wolf Unit	Merk韓国	research outline	C700			OISTでの研究	×	
2017/1/19	Nadine Wirkuttis	PhD Student	恩納村出前授業/ 恩納村仲泊中学校	科学クラス	C209		脳みそとパソコン	脳みそとパソコン	×	むら興し協議会によるパス 希望（協議会了承済、パス 会社発注済）
2017/1/21	1.Michael Cooper, manager, Digital Media, 2.Jeremie Jillet, teaching fellow, Graduate School 3.Crystal-Leigh Clitheroe, Technician Yokobayashi unit 4.Irina Reshodko, student, Busch Unit 5.Ayaka Usui, student Konstantinov unit 6.Albert Cases, post doc, Busch unit 7.Jiabao, student Konstantinov unit 8.Mathias Mikkelsen, student Busch unit 9. James Schloss, student Busch unit 10. Ami Chinen, staff IT	Students	わくわくプログラミング/IT 津梁祭り	イベント	豊見城市民体育 館	ケーオーバ ートナース	わくわくプログラ ミング	スクラッチを使ってプログ ラミングを学ぶ	×	
2017/1/25	Florine Paraz	Bandi Unit	昭和薬科大学附属中学校	research outline	C700			乱流について	x	
2016/1/28	1. Simon Peter Mekhail, Intern, Nic Chormaïc Unit	Research Intern	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	2. Thomas Nieddu, student Nic Chormaïc unit	Students	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	3. Priya Rajasree, student Nic Chormaïc unit	Students	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	4. Cindy Esporlas, student Nic Chormaïc unit	Students	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	5. Mark Daly, student Nic Chormaïc unit	Students	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	6. Sho Kasumie, student Nic Chormaïc unit	Students	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	7.Jiabao chen, student Konstantinov unit	Students	光で実験だ！/名護サイエンスフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	光で実験だ！	光の不思議を体験してみよ う	×	
2016/1/28	1. Ryohei Seto, Post doc Fried unit	Post Doc	いろんなカタチのシャボン膜を作ろう/名護サイエン スフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	いろんなカタチの シャボン膜を作ろ う	シャボン膜は、シャボン膜 を作る体験をしながら表面 張力、面積最小の法則につ いて学んでもらう。	×	
2016/1/28	2. Giulio Giusteri, post doc Fried unit	Post Doc	いろんなカタチのシャボン膜を作ろう/名護サイエン スフェスタ	イベント	21世紀の森体育 館	沖縄こどもの 国	いろんなカタチの シャボン膜を作ろ う	シャボン膜は、シャボン膜 を作る体験をしながら表面 張力、面積最小の法則につ いて学んでもらう。	×	
2017/2/7	Lin Li	PhD Student	恩納村出前授業/恩納村恩納中学校	科学クラス	C209		天空の城：台風	台風	×	むら興し協議会によるパス 希望（協議会了承済、パス 会社発注済）
2017/2/9	Tamar Gutnick	Miller Unit	東京都立科学技術高等学校	research outline	B250				○	
2017/2/18	Kamila Mustafina	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの 細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/18	Nadine Wirkuttis	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの 細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/18	Sakurako Watanabe	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの 細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/18	Ivan Mbogo	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの 細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/18	Caroline Starzynski	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの 細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/18	Girish Beedessee	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの 細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	

日付 Date	研究員名 Name	研究ユニット Unit, Section	プログラム名/参加者 Program, participants	内容 Contents	会場 Venue	主催 Sponsorship	講演会タイトル Title	講演内容	通訳	備考欄 Note
2017/2/18	Po-Shun "Bob" Chuang	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/18	Mizuki Kato	Student	細胞模型を作ろう/沖縄科学作品展	イベント	浦添市民体育館	沖縄電力	世界に一つだけの細胞模型を作ろう	細胞模型を作ろう	×	
2017/2/20	Matin Miryeganeh	Saze Unit	中部農林高校	research outline	B250			エビジェネティックマングロープについて	○	
2017/2/21	Criseida Zamora	De schutter Unit	名護高校フロンティア科	research outline	B250				○	
2017/2/22	Stoffel Janssens	Fried Unit	具志川高校	research outline	B250			人工ダイヤ	○	午前の部
2017/2/22	Takeshi Ricardo Tabuchi Yagui	Yokobayashi-unit	具志川高校	research outline	B250				○	午後の部
2017/2/22	Ayako Gima	Masai Unit RA	具志川高校	卒業生挨拶	B251				x	
2017/2/23	Dr.Kenji Doya	Doya Unit	OIST Special Tour for Ryudai	Lab tour	ロボット室				x	
2017/2/23	Rory Cerbus	Chakraborty unit	OIST Special Tour for Ryudai	Lab tour	Lev.A, Lab2 A669				x	
2017/2/23	Yuji Miyazaki	Saze unit	OIST Special Tour for Ryudai	Lab tour	Lev.C, Lab2				x	
2017/2/23	Guanying Li	Zhang Unit	OIST Special Tour for Ryudai	Lab tour	Lev.C, Lab3				○	
2017/2/24	Kenishi Sajiki	Yanagida Unit	サイエンストリップin宮古	キャリア、仕事紹介 細胞模型をつくろう	宮古高校 宮古中央公民館					2/24高校生向け：科学者の仕事 2/25小学生向け：人間のからだの不思議
2017/3/26	Casey James Galvin	Shen Unit	サイエンストリップin八重山	細胞模型をつくろう	石垣市商工会館 小浜公民館		人間のからだのふしぎ			3/26石垣：世界に一つだけの細胞模型を作ろう 3/27小浜：人間のからだの不思議
	Krishna Priya Rajasree	Nic Chormac Unit	出前授業	反射、屈折、凸レンズ	会議室 1		反射、屈折、凸レンズ	反射、屈折、凸レンズ	○	安富祖中学校
	Simon Mekhail	Nic Chormac Unit	出前授業	反射、屈折、凸レンズ	会議室 1		反射、屈折、凸レンズ	反射、屈折、凸レンズ	○	安富祖中学校
	Stefan Pommer	Wickens Unit	出前授業	反射、屈折、凸レンズ	会議室 1		反射、屈折、凸レンズ	反射、屈折、凸レンズ	○	安富祖中学校
2017/3/15	Rory Cerbus	Chakraborty Unit	首里高校	research outline	B250			流体について	○	
2017/3/15	Tsung-Han Hsieh	Ishikawa Unit	首里高校	research outline	B250			免疫について	○	
2017/3/16	Cassie-Marie Peigne	Skoglund Unit	首里高校	research outline	B250			脳について	○	
2017/3/16	Arbuthnott Unit	Bianca Sieveritz	首里高校	research outline	B250			マラリアについて	○	
2017/3/21	Masashi Yoshimura	Economo unit	那覇国際高校	research outline Ovserver	B250			OKEONに関して		
	Kun-Yi Hsin	Kitano Unit	那覇国際高校	observer	B250			高校生の英語のプレゼンテーション に対するオブザーバ		
	Tomohito Wauke	Saze Unit	那覇国際高校	Lab tour observer	Lab B250			ラボツアー		
	Yan Jiang	Qi Unit	那覇国際高校	Lab tour	Lab			ラボツアー		
2017/3/22	Pradnya Pati	Khusnutdinova Unit	DoDEA high school	research outline	B250				○	

学術交流協定一覧(平成29年3月31日現在)

No.	大学・機関	国	締結日	満了日	協定のタイプ
1	京都大学大学院・情報学研究科	日本	2010/3/31	期限(未定)	連携協力に関する協定書
2	琉球大学	日本	2012/4/1	2017/3/31	連携協力に関する協定書
3	沖縄工業高等専門学校	日本	2012/5/22	2017/5/21	連携協力に関する協定書
4	ウッズホール海洋生物学研究所	米国	2012/5/19	2017/5/18	科学協力に関する協定書
5	ウッズホール海洋研究所	米国	2012/6/11	2017/6/10	科学協力に関する協定書
6	オタゴ大学	ニュージーランド	2011/10/2	2016/10/1	覚書
7	北海道大学大学院理学院	日本	2012/8/1	2017/7/31	履修に関する協定書
8	九州大学・博士課程リーディングプログラム	日本	2012/10/22	2019/10/21	覚書
9	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科	日本	2012/9/1	2015/3/31	特別研究学生
10	大阪大学大学院医学系研究科	日本	2012/9/1	2016/3/31	特別研究学生
11	京都大学大学院情報学研究科	日本	2013/4/1	2018/3/31	特別研究学生
12	東京大学医科学研究所	日本	2013/7/2	2018/7/1	学術交流協定
13	沖縄美ら島財団	日本	2013/8/29	2018/8/28	科学・学術協力に関する基本協定書
14	カリフォルニア大学 ・ バークレー校	米国	2013/10/11	2018/10/10	科学・学術協力に関する基本協定書
15	国立台湾大学	台湾	2014/1/17	2019/1/16	科学・学術協力に関する基本協定書
16	東京大学	日本	2014/1/28	2019/1/27	科学・学術協力に関する基本協定書
17	東京大学 ・ 理学部	日本	2014/1/28	2019/1/27	学生交流に関する覚書
18	テキサス テック 大学	米国	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
19	テキサス テック 大学 ・ 環境・トキシコロジー学部	米国	2013/4/1	2018/3/31	学生交流に関する協定書 特別研究学生
20	アレキサンドリア大学	エジプト	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
21	アレキサンドリア大学 ・ 理学部	エジプト	2014/2/1	2019/1/31	学生交流に関する協定書 特別研究学生
22	ザ・フリーステイト大学	南アフリカ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
23	クレタ大学	ギリシャ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
24	クレタ大学 ・ 理学・工学部	ギリシャ	2013/10/1	2018/9/30	学生交流に関する協定書 特別研究学生
25	クワズール大学ーネイトル	南アフリカ	2014/6/8	2019/6/7	科学・学術協力に関する基本協定書
26	クワズール大学ーネイトル ・ 化学・物理学部	南アフリカ	2014/8/1	2019/7/30	学生交流に関する協定書
27	ハワイ大学ーマノア校	米国	2015/7/10	2020/7/9	科学・学術協力に関する基本協定書
28	ヒューストン大学・機械工学科 カレンカレッジ工学部	米国	2016/4/1	2017/8/31	学生交換に関する合意書
29	早稲田大学先進理工学研究科	日本	2016/4/1	2017/3/31	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
30	ラトガース大学・工学部	米国	2016/5/1	2017/5/1	学生交換に関する合意書
31	京都大学大学院医学研究科	日本	2016/8/1	2017/3/31	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生

平成28年度OIST主催によるワークショップ

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
1	2016年4月4日	2016年4月8日	RD2DS - 2016: 2次元電子系における最近の進展	OISTシーサイドハウス&メインキャンパス	59 名	36 名
2	2016年4月18日	2016年4月21日	C3QS2016 - 複雑量子系のコヒーレント制御	OISTシーサイドハウス	79 名	51 名
3	2016年5月16日	2016年5月19日	ナノクラスターの合成、特性評価およびアプリケーション	OISTメインキャンパス	48 名	31 名
4	2016年6月13日	2016年6月30日	OCNC2016 - OIST計算神経科学コース	OISTシーサイドハウス	69 名	42 名
5	2016年7月4日	2016年7月15日	多原子分子ガスおよび相転移の物理的モデリング	OISTシーサイドハウス	41 名	32 名
6	2016年7月13日	2016年7月16日	ナノスケールでの超高速ダイナミクス	OISTメインキャンパス	47 名	28 名
7	2016年7月23日	2016年8月8日	DNC2016 - OIST神経科学コース	OISTメインキャンパス	51 名	28 名
8	2016年8月15日	2016年8月17日	ソフトマター系のミクロおよびマクロスケールにおける流動に関する新規な知見	OISTシーサイドハウス	65 名	38 名
9	2016年9月27日	2016年10月6日	CQD2016 - 物理サマースクール おきなわ: コヒーレント量子ダイナミックス (2016)	OISTシーサイドハウス	81 名	40 名
10	2016年10月24日	2016年10月27日	MCM2016: モジュライ空間、共型場理論と行列模型	OISTメインキャンパス	26 名	7 名
11	2017年3月1日	2017年3月4日	III型分泌装置：細菌べん毛とインジェクティソーム	OISTメインキャンパス	89 名	36 名
合計					655 名	369 名

平成28年度開催のOIST主催によるミニシンポジウム

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
1	2016年4月11日	2016年4月12日	神経細胞ならびに組織形状のデジタル表現	OISTメインキャンパス	12 名	8 名
2	2016年4月14日	2016年4月15日	適応行動におけるコリン作動性のメカニズム	OISTメインキャンパス	18 名	8 名
3	2016年4月25日	2016年4月27日	バイオ・ナノシステムの共通領域での科学技術：課題と可能性	OISTメインキャンパス	13 名	8 名

〈添付資料 1. 4-2 平成28年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム〉

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
4	2016年5月25日	2016年5月27日	空間的断熱通過	OISTシーサイドハウス	13 名	9 名
5	2016年9月25日	2016年9月27日	OISTミニシンポジウム「ナノスケール・シナプス機能」	OISTメインキャンパス	57 名	16 名
6	2017年1月16日	2017年1月18日	放射線検出器の最新動向と医療イメージング・宇宙科学・材料科学への応用研究	OISTシーサイドハウス	23 名	5 名
7	2017年3月6日	2017年3月8日	棒と膜の粘弾性と散逸ダイナミクス	OISTメインキャンパス	15 名	8 名
合計					151 名	62 名

平成28年度開催のその他のOIST主催及び共催の学術的会議

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
1	2016年10月11日	2016年10月14日	24th Pacific Conference on Computer Graphics and Applications (Pacific Graphics 2016)	OISTカンファレンス・センター	154 名	114 名
2	2016年10月15日	2016年10月17日	GEMS 2016: Geometry in Material and Sciences (Pacific Asia Graphics Satellite Workshop)	OISTカンファレンス・センター	36 名	17 名
3	2016年11月14日	2016年11月16日	第22回国際動物学会・第87回日本動物学会合同大会	OISTカンファレンス・センター&メインキャンパス	750 名	200 名
合計					940 名	331 名

平成28年度 職位毎の職員数

2017/03/31現在

役職名称		定年制				任期制					派遣				非常勤				総計			
		女	男	うち 外国人	定年制 集計	女	男	うち 出向者	うち 外国人	任期制 集計	女	男	うち 外国人	派遣 集計	女	男	うち 外国人	非常勤 集計	女	男	うち 外国人	合計
Admin	副学長				0	4	4	1	5	8			0	0			0	0	4	4	5	8
	准副学長				0	1	2	1	1	3			0	0			0	0	1	2	1	3
	マネジャー	2	6		8	6	9	2	4	15			0	0			0	0	8	15	4	23
	スペシャリスト				0	11	14		10	25			0	0			0	0	11	14	10	25
	シニアマネジャー		2		2	1	5	1	1	6			0	0			0	0	1	7	1	8
	アドミニストレイティブスタッフ	4	1		5	114	34	2	15	148			0	0			0	0	118	35	15	153
	アシスタントマネジャー		1		1	6	7		2	13			0	0			0	0	6	8	2	14
	派遣職員				0				0	0	36	6	5	42			0	0	36	6	5	42
	非常勤				0				0	0			0	0	15	9	4	24	15	9	4	24
アドミ集計		6	10	0	16	143	75	7	38	218	36	6	5	42	15	9	4	24	200	100	47	300
RSD	リサーチサポートリーダー		1		1	4			1	4				0			0	0	0	5	1	5
	リサーチサポートスペシャリスト	1	1		2	17			7	19				0			0	0	3	18	7	21
	リサーチサポートテクニシャン				0	3	1		0	4				0			0	0	3	1	0	4
	マネジャー		1		1				0	0				0			0	0			0	1
	スペシャリスト				0		1		0	1				0			0	0			0	1
	アドミニストレイティブスタッフ				0	12	5		1	17				0			0	0			1	17
	アシスタントマネジャー				0		1		0	1				0			0	0			0	1
	派遣職員				0				0	0	5	1		6			0	0	5	1	0	6
	非常勤				0				0	0				0	4		1	4	4	0	1	4
リサーチサポート集計		1	3	0	4	17	29	0	9	46	5	1	0	6	4	0	1	4	15	25	10	60
Unit	教授				0	3	26		17	29			0	0			0	0	8	43	17	29
	准教授				0	7	23		21	30			0	0			0	0	7	23	21	30
	サイエンス・テクノロジーアソシエイト				0	7	2		7	9			0	0			0	0	7	2	7	9
	グループリーダー				0	7	11		7	18			0	0			0	0	7	11	7	18
	リサーチスペシャリスト				0	1	2		2	3			0	0			0	0	1	2	2	3
	スタッフサイエンティスト				0	7	41		28	48			0	0			0	0	7	41	28	48
	ポストドクトラルスカラー				0	35	114		113	149			0	0			0	0	35	114	113	149
	リサーチユニットテクニシャン				0	43	47		41	90			0	0			0	0	43	47	41	90
	リサーチユニットアドミニストレーター				0	41			0	41			0	0			0	0	41	0	0	41
	派遣職員				0				0	0	10	8	2	18			0	0	10	8	2	18
	非常勤				0				0	0			0	0	17	3	4	20	17	3	4	20
研究ユニット集計		0	0	0	0	151	266	0	236	417	10	8	2	18	17	3	4	20	183	294	242	455
総計		7	13	0	20	311	370	7	283	681	51	15	7	66	36	12	9	48	398	419	299	815

平成28年度 職位毎・国籍別の職員数

2017/03/31現在

		国籍	アドミ	リサーチサポート	研究部門 (研究者)	研究部門 (研究者以外)	合計
1	AR	アルゼンチン			3		3
2	AT	オーストリア			3		3
3	AU	オーストラリア	5		4		9
4	BD	バングラデシュ		1		1	2
5	BE	ベルギー	1		3		4
6	BG	ブルガリア	1			1	2
7	BY	ベラルーシ			1		1
8	CA	カナダ	1		2		3
9	CH	スイス			1	1	2
10	CN	中国	1		23	6	30
11	CO	コロンビア			2		2
12	CR	コスタリカ			1		1
13	CZ	チェコ			1		1
14	DE	ドイツ			8		8
15	DZ	アルジェリア				1	1
16	EG	エジプト	1		3		4
17	ES	スペイン	2		5	1	8
18	FI	フィンランド			1		1
19	FR	フランス	1	1	15	3	20
20	GB	イギリス	8		17	2	27
21	GR	ギリシャ			1		1
22	HU	ハンガリー		1	1		2
23	ID	インドネシア			1		1
24	IE	アイルランド		1	4		5
25	IL	イスラエル			2	1	3
26	IN	インド	2		21		23
27	IR	イラン			2		2
28	IT	イタリア			5	2	7
29	JP	日本	253	50	91	122	516
30	KE	ケニア			1		1
31	KR	韓国	1		4		5
32	LK	スリランカ				1	1
33	LT	リトアニア			1		1
34	MU	モーリシャス			1		1
35	MX	メキシコ		1	3	1	5
36	MY	マレーシア			1		1
37	NP	ネパール				1	1
38	NZ	New Zealand			3		3
39	PK	パキスタン			2		2
40	PL	ポーランド			2		2
41	PS	パレスチナ			1		1
42	RO	ルーマニア			1		1
43	RS	セルビア	1		1		2
44	RU	ロシア		2	7	2	11
45	SE	スウェーデン		1	4	2	7
46	SG	シンガポール				1	1
47	TR	トルコ				2	2
48	TW	中国			2	3	5
49	UA	ウクライナ			3	1	4
50	US	アメリカ	21	2	23	11	57
51	VE	ベネズエラ	1				1
52	VN	ベトナム			3	1	4
53	ZA	南アフリカ				1	1
54	ZW	ジンバブエ			1		1
56	ZZ	海外			1	1	2
		総計	300	60	286	169	815

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任を鑑み、国際的水準を加味した報酬支給水準を設定した。

② 平成27年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができるものとしている。

③ 役員報酬基準の内容及び平成27年度における改定内容

法人の長

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸及び特別調整手当の額は上限額の範囲内で、理事会において決定する。
2. 平成27年度における改定内容
改定なし

理事

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸及び特別調整手当の額は上限額の範囲内で、理事会において決定する。
2. 平成27年度における改定内容
改定なし

理事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。
2. 平成27年度における改定内容
改定なし

監事

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸及び特別調整手当の額は上限額の範囲内で、理事会において決定する。
2. 平成27年度における改定内容
改定なし

監事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。
2. 平成27年度における改定内容
改定なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成27年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 59,026	千円 29,763	千円	千円 29,263 (特別調整手当)			
A理事	千円 31,224	千円 20,000	千円	千円 11,224 (特別調整手当・通勤手当)			
B理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
C理事 (非常勤)	千円 1,300	千円 1,300	千円	千円 ()			
D理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
E理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
F理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
G理事 (非常勤)	千円 730	千円 730	千円	千円 ()	10月1日		
H理事 (非常勤)	千円 102	千円 102	千円	千円 ()		6月15日	
I理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
J理事 (非常勤)	千円 580	千円 580	千円	千円 ()			
K理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
L理事 (非常勤)	千円 730	千円 730	千円	千円 ()	10月1日		
M理事 (非常勤)	千円 1,091	千円 1,091	千円	千円 ()		11月1日	
N理事 (非常勤)	千円 551	千円 551	千円	千円 ()		7月21日	
O理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			*
P理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			

Q理事 (非常勤)	千円 10,244	千円 10,244	千円	千円 ()	10月1日		
R理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
A監事	千円 15,358	千円 15,000	千円	千円 358 (通勤手当)			◇
B監事 (非常勤)	千円 1,704	千円 1,704	千円	千円 ()			

注1:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後
独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

注2:特別調整手当は、国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して
特に必要と認める場合に、常勤役員に対して支給することができる手当。

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、職務の困難性、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

【主務大臣の検証結果】

学園の理事（法人の長を含む。）は、人格が高潔で学識に優れ、学園の業務を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者が求められていることから、その報酬については、国際的な水準との均衡等を考慮した結果、妥当なものであると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(平成27年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	該当者なし				
理事	該当者なし				
監事	該当者なし				

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当者なし
理事	該当者なし
監事	該当者なし

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

業績給に類似のものとして、国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後も同仕組みを継続する。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映した給与水準を決定する。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。

③ 給与制度の内容及び平成27年度における主な改定内容

1. 給与制度の内容

給与の種類:年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)

給与体系:年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)

2. 平成27年度における主な改定内容

引き続き、以下の措置を講じた。

(1) 給与水準の適正化

業績評価を徹底し、昇給への反映を厳格に行うとともに、今後、定年制職員を採用する場合において、能力に遜色ないときは、若年層から積極的に採用する。

(2) 法人全体の職員の給与水準の抑制

上記(1)の取組に加え、任期制職員についても、若年層の採用を促進し、法人全体の給与水準の抑制を図る。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成27年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
					うち通勤手当	
常勤職員	人 19	歳 44.6	千円 8,905	千円 8,905	千円 131	千円 0
事務・技術	人 19	歳 44.6	千円 8,905	千円 8,905	千円 131	千円 0

在外職員	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
------	--------	--------	---------	---------	---------	---------

任期付職員	人 446	歳 41	千円 7,007	千円 7,007	千円 91	千円 0
教員	人 41	歳 52.1	千円 14,107	千円 14,107	千円 52	千円 0
研究職種	人 148	歳 38	千円 6,580	千円 6,580	千円 58	千円 0
事務・技術	人 257	歳 41	千円 6,120	千円 6,120	千円 116	千円 0

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

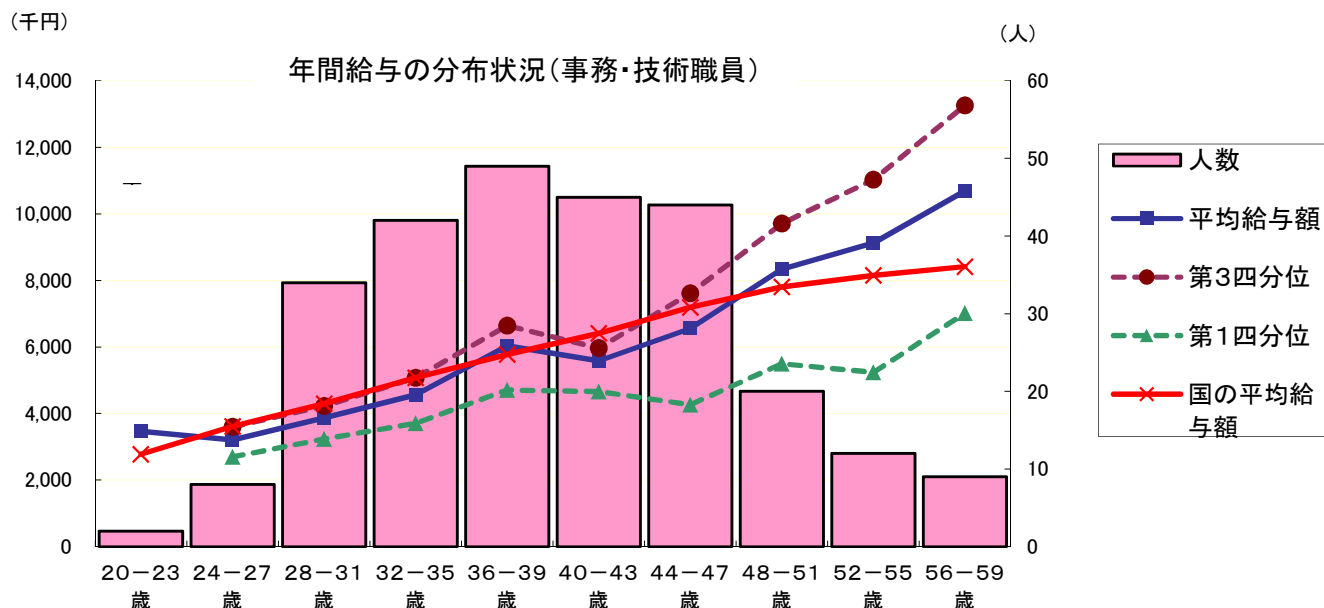
注2:該当者が1人の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから年齢、年間給与額については記載を省略。

注3:常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略。

注4:再任用職員及び非常勤職員は該当者がいないため記載を省略。

注5:常勤職員、在外職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:[20-23歳]の年齢階層において、該当者が4人以下であることから、第1・第3分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況
(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
部長相当	19人	53.3歳	16,875千円	37,920～11,626千円
課長相当	25	48.1	9,741	12,421～7,610
課長補佐相当	25	42.7	6,764	8,579～5,600
主任相当	72	43.2	5,878	8,478～4,307
係員	135	37.0	4,099	9,989～2,432

④ 賞与(該当者なし)

区分		夏季(〇月)	冬季(〇月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 97.1 ・年齢・地域勘案 107.2 ・年齢・学歴勘案 95.6 ・年齢・地域・学歴勘案 106.6
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	本学園は、沖縄科学技術大学院大学(以下「大学院大学」という。)において国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うことを目的とする学校法人である。 大学院大学においては研究・教育は英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、①沖縄の振興と自立的発展、②世界の科学技術の向上に資するため、世界最高水準の教育研究を行う研究者の支援等を担う職員が採用されている。すなわち事務職員にも高度な専門性及び高い英語能力を求められているため、指数が高くなる傾向にある。 (参考:調査対象職員(276名)の専門能力) ・修士以上97名(35%)、うち博士37名(13%) ・大学卒以上213名(77%)(国家公務員(行(一)):55%) ・英語の読み書きに関しては全職員がビジネスレベル以上 なお、平成27年度の年齢勘案指数は、97.1となっている。
給与水準の妥当性の 検証	(法人の検証結果) 年齢勘案で、平成26年度96.3、平成27年度97.1と対国家公務員指数は100以下となっている。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。 (主務大臣の検証結果) 学園においては研究・教育が英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、そのような研究者の支援等を担う事務職員も高度な専門性を有することが求められ、優秀な人材の確保を必要としていると認識している。こうした中、学園の給与水準の適正化のための取組が行われてきた結果、対国家公務員指数については、おおむね妥当な水準となっており、これらの取組が引き続き着実に実施されるよう、今後とも注視していく。
講ずる措置	今後とも引き続き、 ①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ②業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化 を行うことで、適正な給与水準を保つ。

4 モデル給与

注:年俸制のみのため、記載を省略。

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配意しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後も同仕組みを継続する。

Ⅲ 総人件費について

区 分	前年度 (平成26年度)	当年度 (平成27年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 4,248,644	千円 4,807,578
退職手当支給額 (B)	千円 10,847	千円 3,612
非常勤役職員等給与 (C)	千円 68,076	千円 86,943
福利厚生費 (D)	千円 444,872	千円 512,348
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 4,772,439	千円 5,410,481

総人件費について参考となる事項

- ・職員等が前年度比74名増加したため、総人件費が増額になっている。
- ・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額した。

Ⅳ その他

特になし。

FY2016 Number of Employees Taking Training Programs

平成28年度 研修の受講職員者数

平成29年3月31日現在

Date 実施時期	Training 研修項目	Participants 出席者数
April	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	22
May	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	17
June	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	14
July	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	17
August	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	11
September	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	15
October	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	23
November	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	16
December	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	9
January	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	21
February	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	18
March	New Employee Orientation (2 sessions, Japanese and English)	23
7/15	Microsoft Word	13
9/7	Microsoft Excel	21
10/19	Microsoft Excel	23
11/18	Microsoft Excel	20
1/18	Microsoft Access	9
2/8	Microsoft Consultation	4
3/1	Microsoft Word	10
6/21	Objective Setting Workshop	2
6/22	Objective Setting Workshop (2 sessions)	39
9/21	Information Session for Supervisors	19
9/26	Information Session for Supervisors	12
9/27	Information Session for Supervisors	27
10/4	Information Session for Supervisors	10
10/20	Information Session for PSMA Accumulated Fund Mutual Aid Annuity / Mutual Aid Term Insurance (2 sessions)	52
10/28	Write Perfect Email Presentation	30
11/11	Write Perfect Email Workshop	15
12/9	Effective Communication Skills as a Supervisor	18
2/1	Drunk Driving Prevention Seminar	150
throughout year	Online Training: HR: Sexual Harassment Prevention	752
throughout year	Online Training: HR: Timesheet (HEART system)	201
throughout year	Online Training: Occupational Health and Safety: Waste Management	451
throughout year	Online Training: General Council Office: Japanese Law	455
throughout year	Online Training: Occupational Health and Safety: General Orientation	447
throughout year	Online Training: Occupational Health and Safety: Update Session 2016 General	602
throughout year	Online Training: Occupational Health and Safety: Responsible Conduct of Research	488
throughout year	Online Training: Occupational Health and Safety: Security Export Control	455
throughout year	Online Training: Compliance: Compliance Training	454
10/31- 11/13	Medical Center: Stress Check	358
		5343

平成28年度 セミナー・会議・コース
【外部研究資金セクション】

セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加人数
グラントとキャリア（英語）	研究者、事務職員	37
グラントとキャリア（日本語）	研究者、事務職員	29
不採択結果の読み方セミナー	研究者、事務職員	31
JSPSプログラムオフィサーによる特別研究員・科研費ワークショップ	学生、研究者、事務職員	95
科研費の書き方ワークショップ	研究者、事務職員	40
科研費とキャリア（座談会）	研究者、事務職員	32
科研費公募説明会：応募に向けて	研究者、事務職員	40
グラントファシリテーターによる科研費申請書レビュー（10/6 - 10/18）	研究者	74
科研費電子申請システム入力サポート	研究者	11

FY2016 Seminar/Meeting/Course
【Grants & Research Collaboration Section】

Seminar/Meeting/Course	Participants (e.g. admin staff, researchers, venders etc.	# of participants
Roundtable: Grants and Careers (English)	Researchers and Admin staff	37
Roundtable: Grants and Careers (Japanese)	Researchers and Admin staff	29
Seminar: Decoding KAKENHI results	Researchers and Admin staff	31
Workshop: JSPS Research Fellows and KAKENHI (by JSPS Program Officers)	Students, Researchers and Admin staff	95
Workshop: KAKENHI Writing	Researchers and Admin staff	40
Roundtable: KAKENHI and Careers	Researchers and Admin staff	32
Briefing Session: Call is Open for KAKENHI! (about KAKENHI application)	Researchers and Admin staff	40
KAKENHI Application Review by Grant Facilitators	Researchers	74
Supports for using KAKENHI e-application system	Researchers	11

Seminar/Training Results in FY2016 (excluding on-line training)

April 7, 2017

2016年度 セミナー及びトレーニング実績（オンライントレーニングを除く）

Occupational Health and Safety Section

Period: From April 1, 2016 to March 31, 2017

安全衛生セクション

期間：2016年4月1日から2017年3月31日

	Date 実施日	Nature of Event 種類	Name of Seminar/Training 名称	Number of Participants 参加人数	Remarks 備考
1	All through the year 通年	Training トレーニング	Radiation Workers 放射線を取り扱う者 (16 times in total) (16回実施)	55	
2	April 28, 2016 2016年4月28日	Seminar セミナー	e-Application System (EAS) Briefing Session 電子申請システム（EAS）説明会	62	
4	June 16 & 17, 2016 2016年6月16及び17日	Training トレーニング	Safety Training for Venders (Advanced Program) (2 times in total) 取引先向け安全トレーニング（アドバンスプログラム） (2回実施)	170	
5	July 28, 2016 2016年7月28日	Training and Seminar トレーニング及びセミナー	Update Session アップデートセッション (2 times in total) (2回実施)	146	
3	November 9, 2016 2016年11月9日	Training トレーニング	Seminar on Import and Export of Biological specimens 生物試料の輸出入セミナー	40	
6	February 3, 2017 2017年2月3日	Seminar セミナー	Briefing on Field Activities 野外活動説明会	55	
7	February 6, 2017 2017年2月6日	Training トレーニング	Open seminar: Promotion of Research Integrity N95マスクフィッティング講習会	13	
8	March 14, 15 & 22, 2017 2017年3月14、15、22日	Training トレーニング	Ad-hoc sessions on mandatory safety training (3 times total) 臨時安全講習会(3回実施)	126	

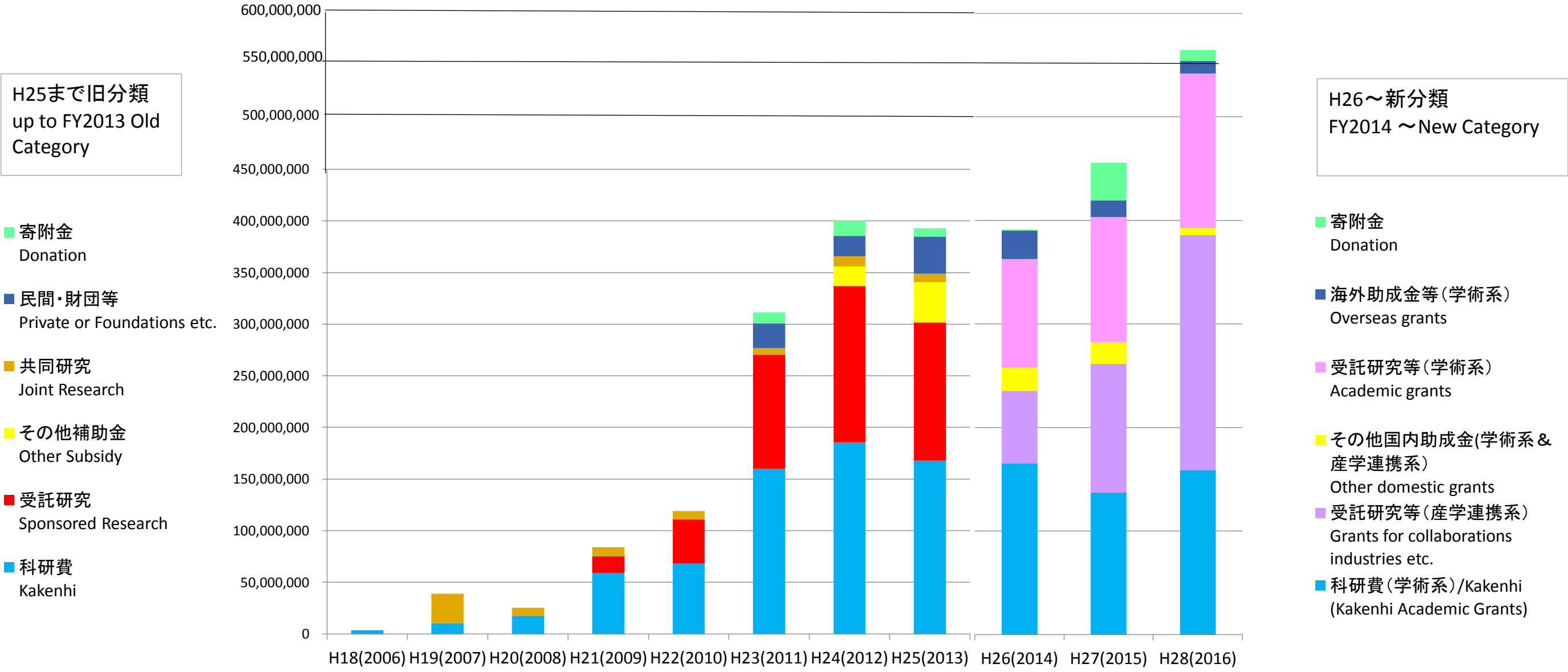
Note that this results only include lecture-style seminar/training.

注：本実績には、オンライントレーニングを除くレクチャースタイルのセミナー及びトレーニングのみを含みます。

外部資金獲得状況/External Funding (as of Mar 31, 2017)

Unit : JPY

H18～H25まで旧分類 FY2006-FY2013 Old Category	H18(2006)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)		H24(2012)		H25(2013)		H26から新分類 from FY2014 New Category	H26(2014)		H27(2015)		H28(2016)	
	Amount	Amount	Amount	Amount	Amount	Amount	#	Amount	#	Amount	#		Amount	#	Amount	#	Amount	#
科研費 Kakenhi	3,800,000	10,293,000	17,225,000	58,923,142	68,281,464	160,041,305	26	185,570,000	30	168,017,777	40	科研費（学術系）/Kakenhi (Kakenhi Academic Grants)	165,266,341	54	137,160,016	47	158,517,697	56
受託研究 Sponsored Research	0	0	0	16,200,000	42,751,000	110,261,800	11	151,397,660	14	133,566,955	13	受託研究等（産学連携系） Grants for collaborations industries etc.	69,994,690	10	124,337,784	10	227,151,400	18
その他補助金 Other Subsidy	0	0	0	0	0	0	0	19,120,000	2	39,161,300	3	その他国内助成金(学術系&産学連携系) Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6	7,116,234	10
共同研究 Joint Research	0	28,500,000	8,268,750	8,357,625	8,000,000	6,500,000	1	9,781,000	2	8,190,000	3	受託研究等（学術系） Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7	149,131,000	6
民間・財団等 Private or Foundations etc.	0	0	0	162,000	0	23,969,000	3	19,720,574	3	35,811,969	10	海外助成金等（学術系） Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3	11,916,945	1
寄附金 Donation	0	0	0	0	0	10,822,000	6	14,793,155	11	8,353,825	12	寄附金 Donation	1,075,960	7	36,417,498	13	10,644,779	13
合計/Total	3,800,000	38,793,000	25,493,750	83,642,767	119,032,464	311,594,105		400,382,389		393,101,826			391,105,550		455,678,481		564,478,055	



平成27年度受託研究等(産学連携)及びイベント

受託研究等(産学連携)

No	事業名	新規・継続	委託者・交付元	連携機関 (研究分野)	事業内容	備考
1	亜熱帯・島しょエネルギー基盤技術研究事業 (沖縄県)	継続	ソニーコンピュータサイエンス研究所	冲創エ ソニービジネスオペレーションズ	分散型DC給配電システムの構築	北野 宏明 教授
2	知的産業クラスタープロジェクト（国際共同研究プログラム） (沖縄県)	継続	南西地域産業活性化センター	沖縄県農業研究センター 九州沖縄農業研究センター 琉球大学	生活習慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発	佐瀬 英俊 准教授
3	知的産業クラスタープロジェクト（スタートアップ推進プログラム） (沖縄県)	継続	沖縄工業高等専門学校		シビランの免疫調節機構を活用した健康食品及び医薬品の開発・事業化	山本 雅 教授
4	沖縄県医療産業競争力強化事業	継続	沖縄県		次世代型多階層創薬・薬理学シミュレーションプラットフォーム開発による創薬プロセスの効率化	北野 宏明 教授
5	外来種対策事業（ヒアリ等対策） (沖縄県)	新規	沖縄県	沖縄県環境科学センター	外来種ヒアリ対策	エヴァン・エコノモ 准教授
6	JST大学発新産業創出プログラム（START）	新規	科学技術振興機構	バイオ・サイト・キャピタル	微生物燃料電池を用いた新規エコ廃水処理システムの開発	イゴール・ゴリヤニン 教授
7	水産物の国際競争に打ち勝つ横断的育種技術と新発想飼料の開発	新規	国立研究開発法人農業・食品産業 技術総合研究機構		耐病性と真珠品質の改善を目的としたアコヤガイのゲノム解析とDNAマーカーの開発	佐藤 矩行 教授
8	沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業 (沖縄県)	新規	沖縄県	琉球大学	健康に寄与する沖縄県産麹発酵飲料の開発	佐瀬 英俊 准教授
9	受託研究	継続		機密	環境	佐藤 矩行 教授
10	共同研究	継続		機密	創薬	佐藤 矩行 教授
11	共同研究	継続		機密	医療機器	エイミー・シェン 教授
12	共同研究	継続		ミサワホーム総合研究所	環境	北野 宏明 教授
13	共同研究	継続		株式会社ピューズ	自動車	北野 宏明 教授
14	共同研究	継続		富士通研究所	エネルギー	銅谷 賢治 教授
15	共同研究	新規		生物資源研究所	創薬	山本 雅 教授
16	共同研究	新規		機密	エネルギー	ヤビン・チー 准教授
17	共同研究	新規		機密	医療	北野 宏明 教授
18	共同研究	新規		機密	創薬	山本 雅 教授
19	共同研究	新規		機密	マテリアル	田中 富士枝 准教授
20	秘密保持契約	継続		機密	素材	ムックレス・ソワン 准教授
21	秘密保持契約	継続		機密	環境	イゴール・ゴリヤニン 教授
22	秘密保持契約	継続		機密	解析技術	新竹 積 教授
23	秘密保持契約	新規		機密	情報処理	ウルフ・スコグランド 教授
24	秘密保持契約	新規		機密	解析技術	新竹 積 教授
25	秘密保持契約	新規		機密	エネルギー	新竹 積 教授
26	秘密保持契約	新規		機密	スタートアップサポート、産学連携	機関として
27	秘密保持契約	新規		機密	創薬	山本 雅 教授
28	秘密保持契約	新規		機密	ソフトウェア	御手洗 哲司 准教授
29	秘密保持契約	新規		機密	創薬	ジョナサン・ミラー 准教授
30	秘密保持契約	新規		機密	機器	メカニカルエンジニアリング＆マイクロファブリケーション・サポートセクション
31	秘密保持契約	新規		機密	創薬	ファデル・サマテ 教授
32	秘密保持契約	新規		機密	創薬	エイミー・シェン 教授
33	秘密保持契約	新規		機密	生物	柳田 充弘 教授
34	協定書（微生物燃料電池の敷地内設置）	継続		瑞穂酒造	環境	イゴール・ゴリヤニン 教授
35	覚書（STARTプログラム）	新規		バイオ・サイト・キャピタル	スタートアップ支援	イゴール・ゴリヤニン 教授
36	覚書	新規		沖縄振興開発金融公庫	産学連携	機関として

展示会

No	事業名	開催日	場所	主催	内容	備考
1	国際バイオテクノロジー展	2016年5月	東京ビックサイト	リード・エグジビションジャパン		
2	BIO International Convention 2016	2016年6月	Moscone Center	Biotechnology Innovation Organization		
3	医療機器開発・製造展（MEDIX）2016 東京	2016年6月	東京ビックサイト	リード・エグジビションジャパン	ブース展示	沖縄県との共同出展
4	沖縄県企業誘致セミナー	2016年7月	新阪急ホテル ロイヤルパークホテル	沖縄県	ブース展示・商談会	
5	BioJapan 2016	2016年10月	パシフィコ横浜	BioJapan 組織委員会	ブース展示・商談会	
6	China International Industry Fair 2016	2016年11月	National Exhibition and Convention Center (上海)	Ministry of Industry and Information Technology,National Development and Reform Commission, Ministry of Commerce, Ministry of Science and Technology, Chinese Academy of Science, Chinese Academy of Engineering, China Council for the Promotion of International Trade, United Nations Industrial Development Organization and Shanghai Municipal People's Government	ブース展示	沖縄県との共同出展
7	国際ナノテクノロジー総合展・技術会議	2017年2月	東京ビックサイト	nano tech実行委員会	ブース展示・商談会	
8	医療機器開発・製造展（MEDIX）2016 関西	2017年2月	インテックス大阪	リード・エグジビションジャパン	ブース展示	沖縄県との共同出展
9	BIO Asia International Conference	2017年3月	グランドハイアット東京	Biotechnology Innovation Organization		

技術開発イノベーションセンター主催のセミナー・イベント

No	演題	開催日	講演者	参加者
1	R&D Site Opening: Sustainable Living Experiment House & Battery Changeable EV	2016年7月	ミサワホーム代表取締役 佐藤春夫、 PUES 取締役 宮下泉	40
2	Careers in intellectual property	2016年7月	Cantor Colburn LLP (USA) Speaker: Todd Garabedian	25
3	Careers in intellectual property	2016年8月	Gwilym Roberts (英国)	10
4	イノベーションセミナーシリーズ: A Life In Science	2016年9月	Richard Roberts (米国)	78
5	Innovation driven R&D at Fraunhofer Gesellschaft at the Interface of White, Green, and Yellow Biotechnology	2016年10月	Rainer Fischer (ドイツ)	35
6	Designing and engineering biological systems	2016年11月	Todd Peterson (米国)	50
7	おきなわマリンサイエンスワークショップ	2016年12月	沖縄県内の海洋研究機関	81
8	リーンスタートアップ起業家育成プログラム	2016年9月	George Washington University, USA	16
9	知的財産専門能力開発コース	2016年12月	Orrick, Herrington & Sutcliffe LLP, Japan David Case	30
10	プロジェクトマネジメントコース	2017年2月	Stanford University, USA Mike Hetrick	15
11	技術移転の基礎知識と戦略	2017年3月	工業所有権情報・研修館 松島重夫	6
			合計	386

添付資料 4.2 特許出願状況

特許出願状況

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
特許出願数	0	2	1	6	5	0	5	1	19	15	44	55	86
特許登録数	0	0	0	1	0	1	4	2	1	2	1	6	22

* FY2016 は見込み数

